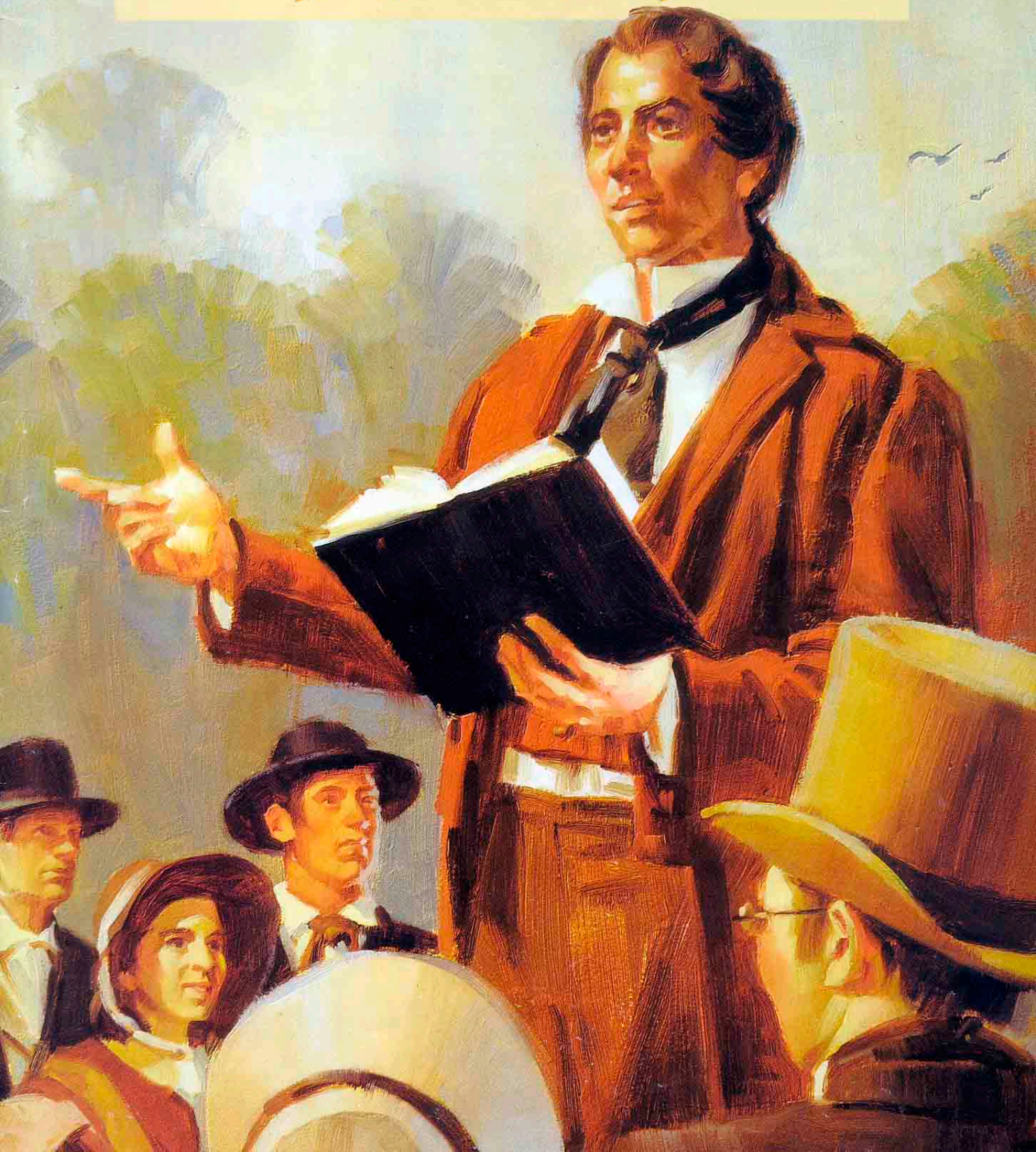
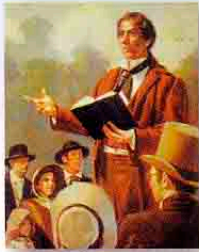


末日聖徒イエス・キリスト教会・2001年8月号

リアホナ



リアホナ



表紙

表紙——「説教の約束を守る預言者ジョセフ」
サム・ローラー画。
裏表紙——「ニューヨークからオハイオに向けて
出帆するルーシー・マック・スミスの一行」
サム・ローラー画。



「フレンド」表紙
絵/ブラッド・ティアー



「フレンド」
10ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ——「主の山に登るべき者はだれか」
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 8 生ける預言者の言葉
- 10 霊を養う 十二使徒定員会 ダリン・H・オクス
- 25 家庭訪問メッセージ——家庭の夕べを通じて家族を強める
- 30 信仰と決意の錨いかり 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 42 末日聖徒の声——神の大義、神の王国
生ける水を求めて ビクター・マニュエル・カブレラ
できるかぎり奉仕する 黄 錫華
わたしの涙が止まった日 エリアナ・マリベル・ゴールデン・アグイレ
- 48 『リアホナ』2001年8月号の活用法

青少年

- 6 永遠と3日間 レベッカ・アームストロング、エリッサ・レナー・マドセン
- 20 「探し求めていたものはこれだ！」 ロドルフ・バルボザ・ゲレロ
- 22 質疑応答——どうすれば祝福師の祝福に備えることができますか
- 26 自らの戦いに勝つ トリシャ・スワンソン・デートン
- 29 聖文研究に対する末日の預言者たちの言葉
- 41 ポスター——大変！ どうしよう？

フレンド

- 2 分かち合いの時間——やぐらの上うえの見みはり人にん ダイアン・S・ニコルズ
- 4 小さなお友だちへ——L・トム・ベリー長老
- 6 新約聖書ものがたり——イエス、女をゆるされる/
イエス、風となみかぜにめいじられる
- 10 主はご自身の教会を導かれる アンジー・バーグストロム
- 13 おもちゃばこ——いろいろなさいのうがあるよ ジェニファー・クロワード
- 14 アンあんの勇氣ゆうき ビバリー・J・アールストロムあき作



6ページ参照



10ページ
参照

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
 アイスランド語、アムハラ語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエシュバンダー
 顧問：L・ライオネル・ケンドリック、菊地良彦、ジョン・M・マドセン

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
 企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー
 グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー
 編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン
 編集副主幹：ロジャー・テリー
 編集補佐：ジェニファー・グリーンウッド
 編集補助：スーザン・パレット
 出版補佐：コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
 アートディレクター：スコット・バン・カンペン
 デザイナー主任：シェリー・クック
 デザイナー：トーマス・S・チャイルド
 制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ
 制作：レジナルド・J・クリステンセン、カリ・A・カウチ、デニス・カービー、ケリー・プラット、ディーナ・L・ソレンソン、クラウディア・E・ワナー
 デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
 配送部長：クリス・クリステンセン
 マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「リアホナ」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社
 定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
 半年予約1,200円(送料共)
 普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
 原題—International Magazines August, 2001, Japanese, 21988 300

For Readers in the United States and Canada:
 August 2001 no.8. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



マーシャ・ゼムスコバから受けた靈感

『リアホナ』(ポルトガル語版)によって、言い尽くせないほど幸福になります。わたしが最も楽しみにしている箇所の一つは、子ども向けの「フレンド」です。幼いけれども特別な子どもたちの証や経験にいつも驚かされます。

1999年10月号の「友だちになろう」の記事でマーシャ・ゼムスコバというロシアの少女について掲載して下さったことに感謝します。わたしは伝道中で、どのような所においても福音を教え、人々を強め、援助しようと努めてきました。しかし、時には、あまり助けになっていない気がしたり、わたしが行った助けが無駄であるように思えたりして、心を痛めることがあります。ちょうどそのような気持ちを感じて落ち込んでいたとき、マーシャについて読みました。一文一文が身にしみて、御業を続ける力を与えてくれました。

ブラジル・ブラジリア伝道部

ロレンソ・フェレイラ・ダシルバ長老

わたしのために書かれた『リアホナ』

両親は常に『リアホナ』(ポルトガル語版)を読むように勧めてくれていたのですが、大学に入学して家を出るまでは実際に読んだことがありませんでした。一人暮らしを通して、自分の優先順位について考えさせられました。そのとき、わたしは毎月『リアホナ』のすべての記事を読もうと決心しました。初めて届いた号を読んでいるとき、これは特にわたしのために書かれたのではないかと思う瞬間が何度かありました。励ましと靈感あふれるメッセージでした。聖霊が、それらの言葉が真実であることを証して下さるのを感じました。その日以来、わたしは毎号が届くのをとても楽しみにしています。

ブラジル・カンピーナス・カステロステーク、
 バラウンジェラルドワード
 エブリン・モンテーロ・リー・ヒン

預言者の声によって強まる証

『リアホナ』(トンガ語版)に掲載されるすばらしい教えや勧告を通して、生活の中で豊かに祝福を受けてきました。一人で読んだ後、学んだことについて家族に話します。もし預言者の声に従わなければ、わたしの証が弱くなることを知っています。

ネバダ州リノ北ステーク、
 リノ第4(トンガ語)ワード
 メレ・K・ペニ

靈感を与えてくれる絵

『リアホナ』(ドイツ語版)に載っているすばらしい写真や絵に感謝します。時々、いろいろな煩い事を抱えていて、読む気力や集中力を持ち合わせていないことがあります。しかし、『リアホナ』に載っている美しい絵はいつも力と靈感の源となっています。

オーストリア・ザルツブルクステーク、
 セントヨハン・ボンゴー支部
 ヘーゼル・ローズ・ランクマイヤー



「主の山に 登るべき者は だれか」

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

詩

篇第24篇に次のような問いかけがあります。「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。」(詩篇24:3)わたしたちが神の荘厳な神殿に参入するとき「その聖所」の美しさ^{きよ}と聖さを知ることができると、わたしは信じています。預言者であるゴードン・B・ヒンクレー大管長の靈感の下で、わたしたちは神殿建設の最も大いなる時代に生活しています。昨年は、ほぼ毎週一つ、新しい神殿が奉献されました。7つの神殿が奉献された月もありました。神殿建設がこれほど大規模に進められた時代はかつてありませんでした。^{じゅうぶん} 什分の一とその他の献金を納める忠実な聖徒たちがこれを可能にしたのです。その一人一人が各人の忠実さによって永遠の祝福を受けることでしょう。神殿の祝福にあずかる人々はまた永遠に祝福を受けるのです。

それぞれの神殿の建物は靈感に満ちた、あらゆる点で荘厳で美しいものですが、神殿の建物だけが祝福ではありません。エンダウメントの祝福とその他の神聖な儀式が、神権の権能と神殿で交わした聖約に従順かつ忠実であることによって与えられるのです。それには、神権の鍵^{かぎ}など、この世にない多くのものが含まれます。

わたしたちはそれぞれの神殿のたくいまれな美しさを感じ、目にするとき、その



わたしたちは
それぞれの神殿の
たくいまれな美しさを感じ、
目にするとき、
その神殿が存在することによって
多くの人々に与えられる
限りない祝福を心に描き、
記憶にとどめます。

神殿が存在することによって多くの人々に与えられる限らない祝福を心に描き、記憶にとどめます。しかしながら世界には、忠実な指導者や聖徒がいながら神殿の聖めの儀式を受ける聖所がまだない地域が、方々に存在するのです。ステーキ会長や祝福師、高等評議員、監督会をはじめとする神権指導者たち、そしてまだエンダウメントを受けていない大勢の忠実な聖徒が、愛する両親や伴侶、子どもたちとの結び固めを受けたいと、何よりも願っているのです。わたしたちには彼らが神殿の祝福を受けられるように助ける責任と祝福があります。将来の神殿の建設は、自分たちの時代に神の王国を築こうというわたしたちの献身と働きに対する祝福となることでしょう。

荘厳で壮麗な近代の神殿に参入したときには、しばしの間、着る物も履く物もない状態で働き、カートランド神殿とノーブー神殿を建てた人々に思いをはせてみてはいかがでしょうか。今日あるそれぞれの神殿は、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの働きを証明するものであり、また彼らの勝利と、かつて苦しみを受けたすべての聖徒の勝利を表すものです。聖徒たちはかつて残忍な暴徒の指導者たちの手で家を壊され、打ちたたかれ、殺され、西部に追われたのです。

神殿は幼いサーディアス・スミスの勝利を表しています。彼は1838年10月30日のハウズミルの大虐殺のときにおよそ9歳で、身の安全を求めて鍛冶屋のふいごの下に身を隠しましたが、見つけられて銃で撃たれて死にました。また、エドワード・パートリッジ監督(1793-1840年)の勝利を表すものです。彼は家に押し入った残忍で非情な男たちによって町の広場に引きずり出され、そこで全身に熱いタールを注がれ、その上に羽根をまき散らされました。

主の神殿で、わたしたちは従順について学びます。犠牲について学びます。貞潔について聖約を交わし、また神聖な目的に自分の生涯をささげます。わたしたちは清められ、罪を洗われて、新たに降り積もった雪のように主の前

に清く、白く、汚れのない状態になれるのです。

「主の山に登るべき者はだれか。」わたしたちは神の聖所で与えられる祝福を求めて参入する数限りないほどの選民、敬神の民、信仰篤い人々を心に描くことができます。彼らがこれらの聖なる建物に参入するとき、ニーファイの言葉が思い出されます。「門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできない。その御方の御名は、主なる神だからである。」(2ニーファイ9:41)

聖徒たちはさわめて神聖な洗いと油注ぎの部屋に入って洗いを受けるとき、霊的に清められます。油注ぎを受けるとき、魂と霊が一新され、再生されます。

わたしたちは若く美しい無数の男女がやって来て結婚する姿を心に描くことができます。彼らが互いに結び固められるとき、また、その忠実さによって栄光と不死不滅と永遠の命をまとして第一の復活の朝に出て来る力とともに、聖なる復活の祝福を結び固められるとき、その表情に、言葉に表せない喜びがあるのを、わたしたちははっきりと見ます。白い衣を着て、頭を垂れ、手を握り合って聖壇を囲んでいる数知れない家族を見ることができます。彼らはあたかも新しくかつ永遠の聖約の下に生まれたかのように互いに結び固められます。喜びと熱意に満たされた、天使のような大勢の若者たちが、死者のためのバプテスマを受けるために、畏敬の念をもって主の宮に参入するのをわたしたちは見ることができます。

わたしたちは、身代わりの儀式が執行されるのを待ちわびながら永遠の進歩を差し止められている、大勢の天の衆群を心に描くことができます。彼らのための儀式には、バプテスマの清め、エンダウメントの神聖な祝福、結び固めの気高い祝福が含まれます。また霊界にあって、一つに結ばれて小踊りし、歓声を上げ、歓喜している家族を見ることができます。



わたしたちは、聖なる場所に立つようにとの戒めを思い起こすとき、わたしたち自身の住まいが、神殿を除けば、全世界で最も神聖かつ聖なる場所でないといけないということも思い出す必要があります。

この地上でつなぐことを天でつなぐ結び固めの力があることに感謝しています。そして、これらの鍵をすべて保持している偉大で謙遜な預言者けんそんに感謝と敬意を表します。

「その聖所に立つべき者はだれか。」信仰が揺らいでいる人々や過ちを犯した人々に、彼らを引き戻すための助けの手が差し伸べられますように。十分な悔い改めをした後、彼らにはエンダウメントの贖いの部分あがなが特に必要とされるでしょう。犯した罪はもう覚えられないということを彼らが知ることができますように。

わたしたちは、聖なる場所に立つようにとの戒めを思い起こすとき、わたしたち自身の住まいが、神殿を除けば、全世界で最も神聖かつ聖なる場所でないといけないということも思い出す必要があります。わたしたちの家庭を聖なる目的のために奉獻しましょう。わたしたち全員がぜひとも必要としているすべての安全と強い愛と思いやりある理解が、家庭の中に見いだされなければなりません。

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。」

手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」

(詩篇24:3-4)「主よ、聖なることはとこしえまでもあなたの家にふさわしいのです。」(詩篇93:5)□

ホームティーチャーへの提案

1. 神殿建設のこの大いなる時代に生きていることは何という祝福でしょう。
2. 着る物も履く物もない状態で働き、カートランド神殿とノーブー神殿を建てた初期の人々に思いをはせてみましょう。
3. 神殿の近くに住んでいない会員が、まだ大勢います。すべての教会員は彼らが神殿の祝福を受けられるように助ける責任を負っています。
4. 神殿の祝福は神権の権能と神聖な聖約に従順かつ忠実であることによって与えられます。
5. わたしたちは神殿で、従順、犠牲、貞潔、また神聖な目的への自分の生涯の奉獻について学びます。
6. わたしたち自身の家庭は、神殿を除けば、最も神聖かつ聖なる場所でないではありません。そして、その場所を聖なる目的のために奉獻しなければなりません。

わたしたち家族が福音を見いだしたとき、この決まり文句はさらに意味深いものとなりました。

永遠より さらに3日

何年もの間、

両親は互いに、あるいは

姉やわたしにあてた

手紙を書くときは必ず

「永遠よりさらに3日

愛しています」という言葉で

結んでいました。

この言葉には、

永遠と一緒にいたいという

わたしたちの望みが

込められていました。

その望みは、わたしたちが

アリゾナ州メサ神殿で

結び固められたときに

かなえられました。

レベッカ・アームストロング

(エリッサ・レネー・マドセンに語った
言葉を基に編集)



2月14日、わたしは姉のジェニファー、父と母とともにアリゾナ州メサ神殿の聖壇でひざまずきました。わたしは15歳で、教会員になり1年がたっていました。1年前には目標にすぎなかったことが、まさに実現しようとしていました。間もなく、この世と永遠にわたって家族として結び固められるのです。

21年前、まだ会員でなかった両親はほかの教会の儀式にのって結婚しました。牧師はその結婚が「死が二人を分かちまで」のものであると告げましたが、両親は、結婚は永遠に続くべきものと考えていました。両親は互いにあてた手紙、そしてジェニファーやわたしが生まれてからはわたしたちへの手紙の結びに、「永遠よりさらに3日愛しています」とつづりました。この言葉には、家族でいつまでも一緒にいたいという願いが込められていました。

わたしたちが教会員と初めて出会ったのは、父が背中を痛めたときでした。父に背中を鍛える運動を教えた理学療法士が、両親に福音について話し始めたのです。両親は次第に興味を持ち、宣教師に会わせてほしいと申し出ました。

わたしたちが初めて出席した集会は

ステーキ大会でした。大会のテーマは、家族を強めることでした。家族のきずなを強める方法を探していた母にとって、この大会は祈りの答えでした。

わたしの祈りもこたえられました。宣教師からバプテスマを受けることを勧められた後、わたしは教会が真実であるか祈り始めました。ヨハネによる福音書第14章26節から27節にある、聖霊を受けて、おじけないようにという部分を読んだとき、それが真実であることが分かりました。

水の中へ

1996年2月11日、家族全員がバプテスマを受けました。ワードに集い始めてから数週間だったにもかかわらず、大勢の人々がバプテスマ会に来て、受け入れる気持ちを示してくれたことに、わたしたちは驚きました。

わたしたち家族は、できるだけ早く神殿で結び固めを受けるという目標を定めました。神殿に参入する準備を始め、お互いの関係、そして救い主との関係を強めるよう努力しました。家族で聖文を学び、祈るときに、家族は霊的に高められていきました。

わたしは、預言者が神殿参入につい



て記した言葉をすべて読むようにしました。また、若い女性の指導者の提案に従って、感謝を伝える祈りを始めました。自分が望むものを求める代わりに、主に感謝することに集中しました。

神殿へ

結び固めの日、わたしたちは興奮して目が覚めました。待ちに待った日を迎えたのです。神殿に着き、両親がエンダウメントを受けている間、わたしとジェニファーは神殿の周りを散歩しました。申し分のない天気でした。わたしたちを祝福するかのように花が咲いていました。

ついにわたしとジェニファーが白い服を着て、結び固めの部屋にいる両親の

もとへ行く時間になりました。目に映るものすべてがほんとうに輝き、清く、美しかったことに強く心を打たれたのを覚えています。家族全員で聖壇にひざまずくとき、わたしはふと鏡を見ました。家族が絶えず続いていく姿を見る思いでした。そして、わたしたち家族が永遠に一緒にいられることを御霊が証するのを感じました。

結び固めを終えて外に出ると、わた

したちを祝福しようと来てくれた大勢の人々を見て、また驚きました。

数日後、わたしたちは結び固めを受けた日がバプテスマからちょうど1年と3日目であることに初めて気づきました。両親の「永遠よりさらに3日愛しています」という結びの言葉は、まったく新しい意味を持ちました。両親の望みはかなえられました。今、わたしたちは永遠の家族となることができるのです。□

レベッカ・アームストロング姉妹はアリゾナ州トゥーソン北ステーク、トゥーソン大学第1ワードの会員です。



生ける預言者の言葉

神の大義

「これは神の大義であり、神の王国です。これはこの末の日に回復された神の業であって、この時満ちる神権時代に出て来るよう何世紀にもわたって留めおかれていました。この時代に、過去のすべての神権時代にかかわるあらゆるものが集められて一つとなっています。また、幕が開かれ、御父と御子が一人の少年に現れて、語りかけられました。福音に比肩できるようなものは世界のどこにもありません。この大義に比べられるような大義はありません。これは御父の教会であり、王国です。これを信じ、その教えを受け入れ、勧告に従順であってください。神の王国で働き、王国を前進させるためにあなたの力と勢力と財力をささげてください。すると主はあなたを祝福され、かつて味わったことのないような喜びを生活の中に与えてくださるでしょう。」¹

謙遜

「謙遜であってください。わたしたちの生活に傲慢ごうまんが入り込む余地はありません。慢心が入り込む場所はありません。利己主義が入り込む余地はありません。わたしたちにはなすべき業があります。わたしたちには成し遂げるべき事柄があります。……『あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。』

(教義と聖約112:10)わたしは人々から好きな聖句を尋ねられると、たくさんありますと答えます。けれども、これはそのうちの一つです。『あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。』²

この教会は男性にとって どのような教会か

「この教会は男性にとってどのような教会でしょうか。すべてのふさわしい男性は神の神権を授けられて、世の救い主である神の御名なにおいて語ることができます。兄弟の皆さん、このようなことを行えるということは何と貴く、すばらしい、驚くべき祝福でしょうか。

神権は教会を統治するという祝福、教会の諸事を管理する力と権能と賜物をもたらしめます。これによって指導力と人格の強さを養い、日常生活で経験する様々な事柄を超越して、聖なる神権の権能により神の息子として行動することができるのです。教会が男性に対して行っているのは以上の事柄です。彼らは神権によって奉仕し、教え、様々な面で成長し、主が明らかにされた大切なことを読み取り、自分の知識とする機会を与えられています。」³

この教会は女性にとって どのような教会か

「この教会は女性にとってどのような

教会でしょうか。教会は女性の生活に尊厳を加えます。人生に目的を与え、ほかの方法では得られない見識を与えます。女性たちは、400万人の会員を擁し、自分たちの会長と管理会、学習課程を持ち、偉大な人道的救援活動を行う組織である扶助協会の会員になります。これらすべては大切に、美しく、またすばらしいものであって、女性たちに生活の向上を促し、新しい見識と新しい目的を与えます。」⁴

この教会は子どもにとって どのような教会か

「〔この教会は〕子どもたちに両親に対する新しい光と認識を与えています。親に対する尊敬と愛が子どもたちの心に育つことでしょう。福音を中心にして築かれている家庭には、平安があり、愛と一致があり、成長と発展があります。この教会は子どもたちに教育を追求するよう奨励しています。」⁵

信仰を持ち続ける

「教会で雄々しく奉仕し、外見上は主を愛し、主の業を熱心に行っていたのに、奉仕の業から解任されると、どういふわけかわき道にそれて、信仰をなくしてしまった男女を目にしています。しかし、その数が多くはないことに感謝しています。……誠実に道みちを歩んでください。嵐あらしのときも太陽の光がさし込んでいるときも忠実であってください。富

んでいるときも貧しいときも忠実であってください。若いときも年老いてからも忠実であってください。これは全能者の業です。……神はこの御自身の業が真実であることを宣言するために天から語られました。神の声に勝る声はありません。神の御子は地上で人に語られ、御自身がどのような存在であるかを明らかにし、実在の御方であり、世の贖い主、救い主として御父の計画を実行するために偉大で神聖な地位に就いていることを宣言されました。これらの真理は地球が存在するかぎり、失われることはありません。これらの偉大で、神聖な真理に対する信仰を持ち続けてください。……最後まで堪え忍んでください。すると神は皆さんを祝福して、甘美で、平安と愛に満ちた日々をお与えになることでしょ。』⁶

王国の将来

「わたしたちは、注目に値し、栄光にあふれ、またすばらしい未来を予期させてくれる事柄を〔教会内で〕見えました。教会がどのような姿に到達するかを理解できる人は地上にいないと思います。ますます大きく発展することを否定する理由は見当たりません。必ず発展し続けることでしょ。主が定められた目的と行く末に到達するまで前進しなければなりません。わたしたちの務めはただ前進を続けることです。』⁷□

注

1. 2000年1月22日、ハワイ州オアフ、地区大会
2. 1999年8月22日、ワシントン州スポキ

ヤン、青少年とヤングシングルアダルトの集会

3. 2000年1月26日、オーストラリア、ケーンズ、集会

4. 2000年1月26日、オーストラリア、ケーンズ、集会

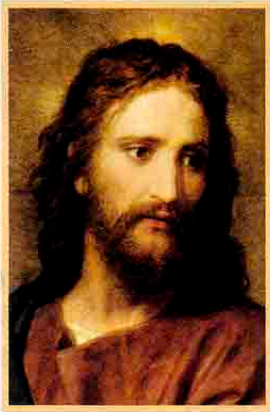
5. 2000年1月26日、オーストラリア、ケーンズ、集会

6. 2000年1月23日、ハワイ州オアフ、地区大会

7. 1999年11月2日、「チャーチニュース」(Church News)との会見

「福音を中心にして築かれている家庭には、平安があり、愛と一致があり、成長と発展があります。」

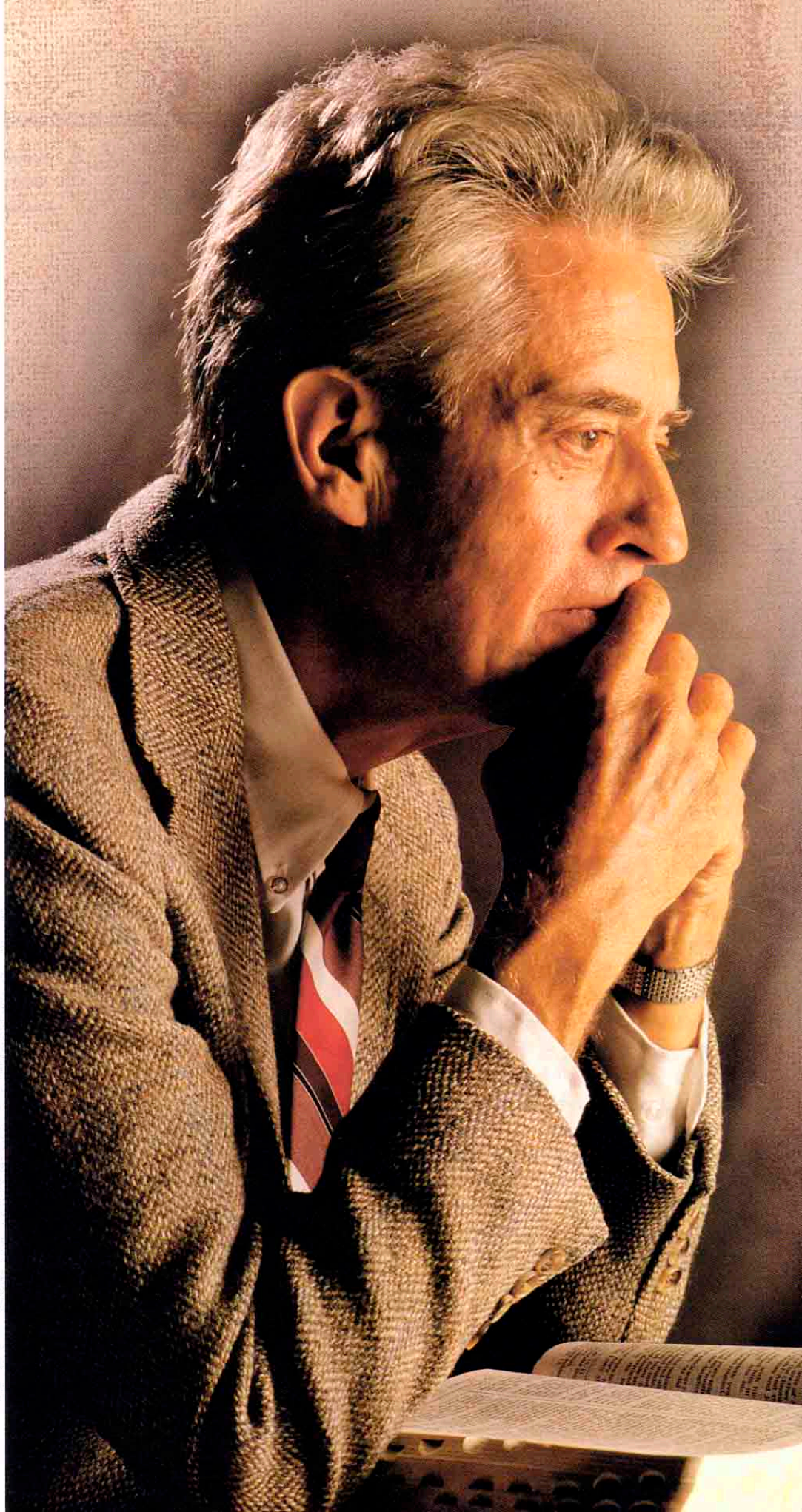




求める

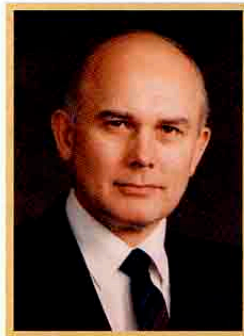
わたしたちは、
「主に尋ねないかぎり」
神の奥義、すなわち
最もすばらしい霊の糧は
理解できないと述べた
ニーファイの教えを
心に留めておく
必要があります。

左—「キリストと金持ちの善い役」ハインリッヒ・ホフマン画 右—写真、ウエルテン・C・アンダーセン



霊を養う

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス



神を求め、神に仕え、神の教えに謙遜に耳を傾ける人々に、神は、御自身と御自身の永遠の真理を明らかにされます。

わたしたちの肉体には、命を支えて肉体と知性の健康を維持するためにある種の栄養分が必要です。わたしたちはそのことを知っています。栄養分を摂取しないと肉体的活力と知的活力は衰えて、わたしたちは「栄養不良」と言われる状態に陥ります。栄養不良になると、知的な働きの低下、消化不良、体力の低下、洞察力の喪失といった症状が表れます。豊かな栄養の摂取は特に子どもたちにとって大切です。通常の成長に必要な栄養分を欠くと成長期の体はすぐに弱ってしまいます。

わたしたちの霊も栄養分を必要としています。体のための食べ物があるように、霊のための食べ物もあります。肉体的栄養不良が肉体に害を及ぼすように、霊的な栄養不良も霊的な生活に害を及ぼします。霊的な栄養不良の兆候としては、霊的な糧を消化する能力の低下、霊的な力の減少、霊的な洞察力の喪失があります。

霊的な栄養不良に陥らないようにする助けとして、わたしたちも子どもたちも理解しておかなければならない重要な原則が幾つかあります。

わたしたちは霊的な糧を得られる重要な源を知っています。それは、祈り、聖文を研究すること、靈感を与える集會に出席すること、シオンの賛美歌を歌うこと、召しを受けて奉仕すること、断食すること、聖餐を受けること、神殿などの場所で種々の聖約を交わすことです。肉体的糧から肉体的栄養分を摂取するのを

ある種の毒物が妨げるように、ある種の経験は霊的な糧を吸収するのを妨げることがあるということも、わたしたちは知っています。例えば、ポルノグラフィ、冒瀆、怒りなど、主の御霊を離れさせる行為は、わたしたちが必要としている霊的な栄養分を得るのを妨げます。わたした

ちは、通常霊的な糧として役立つ数々の経験から霊的な栄養分を得る必要があるのです。知恵の言葉によって禁じられているようなある種の物質は、体と霊の両方に害を与えます。わたしたちは子どもたちが霊的な糧を十分に得られるようにし、また霊的な栄養分を吸収するのを妨げるようなそれらの影響から彼らを守らなければなりません。

次の世代の人々を養う

両親が霊的な栄養分を十分に得ていれば、その子どもたちもそれを得ると言えるでしょうか。幾つかの肉体的な特徴は受け継がれますが、強い信仰と霊性は世代から世代へと自動的に受け継がれるのではないということが経験上分かっています。モルモン書の中の最も偉大な教師の一人であるベニヤミン王の例を考えてみてください。彼は福音の清らかさを一つの世代の人々に教え、その教えを聞いた人々は大いに感化を受けて、「悪を行う性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように」になりました。彼らは心の中の「大きな変化」と呼ばれるものを経験したのです(モーサヤ5:2)。しかし、そのすばらしい信仰と霊性は子孫に自動的に受け継がれませんでした。聖文にはこう記されています。

「さて、当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に語ったときにまだ幼い子供であったために、彼の言葉を理解できなかった者が大勢いた。彼らは、自分たちの先祖の言い伝えを信じなかった。



彼らは、死者の復活について述べられたことも信じなければ、キリストの来臨についても信じなかった。

また、彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかった。そして、彼らの心はかたくなであった。

彼らは、バプテスマを受けようとしなければ、教会に加わろうとしなかった。彼らは信仰に関してはまったく違った民になっており、いつまでもそのままで肉欲にふける罪深い状態にとどまっていた。彼らは主なる自分たちの神に請い願おうとしなかったからである。」(モーサヤ26:1-4)

同様に、およそ100年後、レーマン人の預言者サムエルの力強い教えによって多くの人が信仰を抱くようになりました。しかしながら、その子どもたちが大きくなったとき、

聖文が告げているように、彼らは道を外れて、「若者たちの悪事のために、〔民の〕信仰と義は衰え始めた。」(3ニーファイ1:30)

皆さんは恐らく知り合いの人々の中に、両親は忠実であってもその子どもたちはほとんど先祖の信仰を拒み、先祖の信仰に何らの感情も持たないという同様の例を見たことがあるでしょう。わたしもそれを目にし、どうしてそのようなことが起こるのかと当惑したものです。

七十人のメルル・J・ベイトマン長老は、ブリガム・ヤング大学で語った最初の説教の中で、学長としての自分の役割について述べ、それから一つの重要な原則を聴衆に思い起こさせました。「神の子どもたちは知性と肉体以上の存在です。知性は霊の中に宿っており、霊にも教育を施さなければなりません。霊に関する神聖な、あるいはより崇高な真理は基本的な真理であり、……世の罪のために御自分の命を差し出された神の御子イエス・キリストを中心としたものです。」(“A Zion University” Brigham Young University 1995-96 Speeches[1996年]126)

わたしたち全員が知っているように、主はシオンにおいて子どもを持つ両親に、イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めの教義、バプテスマ、聖霊の賜物^{たまもの}など、福音の基本をその子どもたちに教えて理解させるようにと命じられました。両親がこれを行うのを怠れば、罪はその両親にあるのです(教義と聖約68:25参照)。この啓示が与えられた2年後、主は聖徒たちに、「あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるように」と命じられ(教義と聖約93:40)、その後、新たに副管長に召されたシドニー・リグドン(1793-1876年)とフレデリック・G・ウィリアムズ(1787-1842年)にあてて、その戒めの重要性を強調されました。ウィリアムズ副管長に、主は言われました。

「あなたは、戒めに従ってあなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。そのために、あの邪悪な者は今なおあなたを支配する力を持っている。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである。



祈り

**「研究と論証の方法は、
神に近づき、
神の福音の教義を
理解するには
十分ではありません。
神に関する事柄は、
主御自身の方法によって、
神を信じる信仰と
聖霊からの啓示を通じて
学ばなければ
ならないのです。」**

さて、わたしは戒めをあなたに与える。すなわち、あなたは救い出されたいと望むならば、自分自身の家を整えなければならない。あなたの家には、正しくないことがたくさんあるからである。」(教義と聖約93:42-43)

わたしはすべての両親が次の重要な真理を心に留めなければならないと信じています。すなわち、両親が光と真理を教えることを怠った子どもには悪魔が支配力を持つという真理です。

主の方法によって

わたしは霊的な栄養不良を避ける方法と信仰と霊性を次の世代に継承する方法を思案してきました。その結果分かった、わたしたちが理解できる最も重要な事柄はこうです。すなわち、聖文の中で時折「神の奥義」と呼ばれている霊的な真理は、世の方法ではなく主の方法によって教え継承しなければならないということです。このことは聖文の中で何度も明らかにされています。

父リーハイが反抗的な年長の息子たちに自分が見た示現のことを説明し、神の戒めを守るように勧めようとしたとき、息子たちは父親の言葉に言い逆らいました。年若いニーファイは栄光ある示現の解き明かしを求めて同じ示現を見ました。そして、「父はまことに偉大なことを多く兄たちに語ったが、それは主に尋ねないかぎり理解しにくいことであった。兄たちは、心がかたくなであったので、当然なすべきことではあったが、主を仰ぎ見ることをしなかった」と記しています(1ニーファイ15:3)。わたしたちは、「主に尋ねないかぎり」神の奥義、すなわち最もすばらしい霊の糧は理解できないと述べたニーファイの教えを心に留めておく必要があります。

ほかにも大切な要素が幾つかあります。預言者アンモンは次のような意義深い方法を述べています。「悔い改めて

信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける人には、神の奥義を知ることが許され……る。」(アルマ26:22)

神の奥義を知ることにはなぜ大切なのでしょう。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこう説明しています。

「すべての知識の宝の中で最も大切なのは、神に関する知識、すなわち、神の存在、力、愛、約束です。……

霊的な知識ではなく世俗の知識を蓄えることに現世の日々を費やすならば、わたしたちは行き止まりの道にいることになります。なぜなら、現在は人が神にお会いする準備をする時であり、信仰を築く時だからです。……

世俗の知識は確かに重要なものではありませんが、それは決して人を救えません

し、日の栄えの王国の扉を開くこともできません。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年]390)

神と神の救いの計画に関する知識は人に救いをもたらす知識であり、この種の知識は主の方法によってしか得ることができないのです。

神は、神を求め、神に仕え、神の戒めを守り、神の教えを求めて謙遜に耳を傾ける人々に、御自身と御自身の永遠の真理、すなわち、聖文の中で命のパンと生ける水と呼ばれている霊的な糧を明らかにされます。研究と論証はこのプロセスを踏む当初には適切ですが、「神に関する事柄を研究と論証だけで学ぶことはできません。これらを用いることは不可欠かつ有益です。しかし、この方法は、神に近づき、神の福音の教義を理解するには十分ではありません。わたしたちは、神に関する事柄を学ぶために神が定められた絶対的な方法を用いるのを拒むならば、あるいは用いようとしなければ、それらを知るようにはなれません。神に関する事柄は、主御自身の方法によって、神

を信じる信仰と聖霊からの啓示を通じて学ばなければなら
ないのです。」(ダリン・H・オックス, *The Lord's Way*
[1991年]56)この方法によってしか、わたしたちは、信仰
と証を教え継承するために必要な霊的理解と栄養と力を得
ることができないのです。

通常、福音の学習は研究と論証によって始まりますが、
わたしの知るかぎり、知的な方法だけでは、不変の信仰と
深い霊性を人から人に、あるいは世代から世代に継承する
効果はありません。

モルモン書にはこの例がたくさんあります。例えば、キ
リストの来臨のわずか数年前の出来事がそうです。「民の
中で最も信仰の深い人々を除いて、彼らは皆、心をかたく
なし始め、自分自身の力と自分自身の知恵に頼るように

なって……

また、彼らは互いに論じ、論争して言った。

『キリストのような者が来ることは道理に合わない。』(ヒ
ラマン16:15, 17-18)

その後、聖文はこう結ばれています。「サタンは地の全
面で人々の心を大いに支配するようになった。」(ヒラマン
16:23)

福音の真理を教える主の方法は、現在教義と聖約第50
章として公表されている1831年の啓示の中に述べられて
います。ここでは、真理を語り、あるいは教えるだけでは
十分ではないと教えられています。わたしたちは、「御霊、
すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって」
福音の真理を教えなければなりません(14節)。主は、もし
もわたしたちが「何かほかの方法」によって福音を説き、あ
るいは教えるならば、「それは神から出てはいない」と警告
して(18節)、この重要な真理を再度強調しておられます。
それと同じように主は、もしも「真理の言葉」(19節)を「何
かほかの方法」によって受け入れるとすれば、「それは神
から出てはいない」と宣言されました(20節)。そして最後
に、主は、「あなたがたが真理を知り、暗闇をあなたがたの
中から追い払う」ことができるようにこの原則を説明したと
述べておられます(25節)。

もちろん、わたしたちはこれらの指示を無視して、御霊
の証と教えによらずに世の研究と論証の方法によって子ど
もたちや求道者に福音を教えようとすることもできます。
しかし、その結果は同じではありません。わたしたちは主
の方法から逸脱すれば、主の約束を得られないのです。

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)
は、知識を基とした改心と霊的な証を
基とした改心の大きな違いを説明し
て、次のように述べています。「多く
の人々は福音が真実であることを知
って福音を受け入れています。彼ら
は自分の判断に基づいて福音が真
実であることを確信しています。そ
の後、彼らは激しい論争に巻き込ま





教える

**真理を語り、
あるいは教えるだけでは
十分ではないと
教えられています。
わたしたちは、
「御霊、すなわち
真理を教えるために
遣わされた慰め主によって」
福音の真理を
教えなければなりません。**

れて、負かされる羽目に遭います。そして十分な時間を取って吟味したうえで福音が真実であるかどうかを認めるべきだとする理詰め的主張に負けてしまうのです。彼らは福音に従い、福音の第一の原則に従うのですが、聖霊の力による啓発を求めることはしません。このような人々は道を外れやすいのです。』（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』88）

霊的な事柄に知識で近づこうとして霊的な栄養を得られず、疑いや疑念に負けてしまった人々が何人もいます。ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、このような人々がより大いなる霊性を求めることのできる方法を提言しています。「彼らの信仰は、本能的な判断力や心の中の純粋な気高い感情に従うことによって強化することができます。」（*Reach Up for the Light*（1990年）29）ファウスト副管長が「感情」という言葉を使っていることに留意してください。改心や証のように霊的な事柄は、大部分、感情、すなわち御霊の啓発として与えられます。知識による確信を求める人々、あるいはそれに満足して求めることをやめる人々は、砂の上に建てられた霊的な住まいの中に住んでいます。彼らにとって、またそれがその子どもたちが得る受け継ぎであるとすればその子どもたちにとって、その住まいはいつも弱々しいものです。霊的な改心と証を含む神に関する事柄は、主の方法で「御霊によって」継承しなければならないのです。

復活についての懐疑論者の質問に答えて、預言者アルマは神の奥義に次のような偉大な洞察を与えています。

「神の奥義を知ることは多くの人に許されている。しかしこれらの人々は、神が人の子らに授けておられるだけの御言葉しか伝えてはならないという、厳しい命令を受けている。神の御言葉は、人の子らが神に寄せる注意力と熱意の度合いに応じて与えられる。

したがって、心をかたくなにする者はわずかな御言葉し

か受けませんが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。

また、心をかたくなにする者はわずかな御言葉しか与えられず、ついに神の奥義をまったく知らない有様となる。その後、これらの者は悪魔に捕らえられて、悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。地獄の鎖とはこのことを意味する。」（アルマ12:9-11）

わたしたちは神の聖なる御霊からの啓示によって神の奥義を教え、学びます。わたしたちは啓示に対して心をかたくなにし、研究と論証によって得られる事柄にわたしたちの理解を制限するならば、アルマが「わずかな御言葉」と呼んだ事柄に制限されてしまいます。

親の模範の力

わたしたちが信仰と霊的な栄養を子どもたちに継承しようとするとき、親の模範以上に効果的な方法はまず存在しません。家庭の夕べなどにおける家族の祈りと親の教えと証は、宗教上の価値ある事柄を力強く継承する手段です。安息日の遵守、^{じゅうふん} 什分の一を納めること、伝道奉仕がそうです。

100年以上も前に、ジョージ・Q・キャノン第一副管長（1827-1901年）は、この原則を両親に思い起こさせました。両親が正しい原則を教え、適切な模範によりこれらの原則を行いに示すとき、「子どもたちは成長すると、両親の模範と教えについて考えるようになります。年を重ねるにつれて、[両親が]語り、行ったすべての事柄に重みが増えられます」と、キャノン副管長は述べました（*Gospel Truth*, ジェレルド・L・ニュークイスト選〔1987年〕383）。わたしは、両親の模範を反映させるとき、その方法が真実であり力があることを知りました。

両親が子どもたちのために行える最も大切な事柄の中には、ふさわしい模範を示すことと、自分で霊的な体験をする機会を与えることがあります。北アメリカの教会員を調査した統計がありますが、青少年の行動と信念を形成する最も重要な要素として挙げられるのが両親の模範です。また、家族としての経験が霊的な行動に最も大きな効果を及ぼすこともこれらの調査は示しています。家族としての経験からの影響が教会の活動による影響をしのぐということは明らかです。青少年期における家族としての宗教上の習慣が、彼らがヤングアダルトになったときの価値観と行動に重要な指針を与えるのです。

教会に「かわりを持たない」状態の人々についての調査でも同じ結果が得られました。家族が宗教上の教えを理想とし実践している場合、生涯教会に

活発に参加し続ける青少年の割合は、宗教上の教えにかわりを持たない家庭で育った青少年の割合の4倍に上ります。

これはどれも驚くに及びません。真実だからです。両親の怠慢で、家族の中で宗教上の教えが守られないとき、あるいは両親自身が子どもたちにしてほしくない行動をしているとき、彼らが負っている責任について考えてみてください。そして、知識に





せいさん 聖餐を受ける

**聖餐の象徴である
 パンと水を受けることは、
 救い主が教えられたように
 「聖霊に満たされる」
 ことのできる
 手段の一つです。**

頼った方法と経験では信仰と霊性を継承するのに十分ではないのです。子どもたちに良い模範と積極的な霊的体験の機会を与えようとする両親は、実際に、次の世代に信仰と霊性を継承できない恐れがあります。

両親は子どもたちに自分が行っている姿を見せることによって非常に効果的に教えることができます。わたしが大きな影響を受けた親の模範は、神を信じる信仰について述べた母親の言葉、教会の指導者を絶対的に支持し決して批判をしなかった母親の態度、困難なときにも忠実に什分の一を納めた模範でした。

では、親の模範を3つ紹介しましょう。子どもたちが生涯にわたって支えとすることができる霊的な栄養を与えた例です。

リーバイ・M・サベッジは、東部アリゾナに定住地を開く召しを受けた末日聖徒の開拓者でした。彼は割り当てられた地域で何年間も忠実に働きました。そして最後に、大家族をもうけた後、彼は少し休息したいと思いました。自分の務めから解任されることは願いませんでしたが、息子がソルトレーク・シティーにいるジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)に連絡を取ることを止めませんでした。そこで息子は、70歳のサベッジ兄弟が今なお「ウッドラフダムで働くため毎日6マイル〔約9.6キロ〕仕事場まで徒歩で往復している」ことを伝えました。使いの息子は、サベッジ兄弟がすでに務めを果たし終えたので、もうほかの地に行き住んでよいか尋ねました。そしてこう付け加えました。「とどまる方がよいということであれば、彼は喜んでそうするでしょう。」大管長は、「自分で考えてどこに住んでもけっこうです」という言葉を伝えました。

サベッジ兄弟はその言葉を受け取った後、「盆地にさらに水を供給する」新しいダムを築き終わるまでもうしばらくの間そこにとどまりました。そこまで行った後、リーバイ・サ

ベッジは、1871年に神権の権能を持つ人によって与えられた職務から、47年経ってようやく解任されたのです(ネルズ・アンダーソン、*Desert Saints*[1942年]359で引用)。子孫やその他の人々の霊的な受け継ぎとして、何とすばらしい信仰と奉仕の模範でしょう。

次に紹介する模範も開拓者の時代のもので、聖徒たちが製紙工場で原料にするため大量のぼろ切れを必要としていたとき、大管長会は監督たちに、地元のワードや定住地でぼろ切れを集めるよう要請しました。1861年にブリガム・ヤング大管長は、忠実な教会員であるジョージ・ゴダードに「ぼろ切れ集めの任務」を与えてこのプロジェクトの推進を図りました。

ゴダード兄弟はこう回想しています。「〔この召しは〕わたしの生来のプライドをひどく傷つけるものでした。……わたしは町では何年もの間、商人として、また競売人として知られていましたが、その召しを受けたわたしは片方の手にかごを持ち、もう一方に空の袋を持って、門口から門口へと通りを巡るのです。一軒ずつ訪れてぼろ切れの提供を要請するために。おお、何という状況の変化でしょう。……最初ヤング大管長からその要請を受けたとき、自分が受けるであろう屈辱を思うと衝撃とも言えるものを感じました。しかし、少し考えたときに、自分は天の御父の御心を行う目的で母国の英国からこの山あいの盆地にやって来たことを思い出しました。わたしの時間と財産は御父のご用に供しなければならぬのです。そこで、わたしはヤング大管長に、お引き受けしますと答えました。」(レオナード・アrinton、*Great Basin Kingdom*[1958年]115で引用) ジョージ・ゴダードは3年以上の間、北はアイダホ州フランクリンから南はユタ州サンピーテ郡まで旅をして、何百軒もの家を訪れました。日曜日ごとに「ぼろ切れの説教」と呼ばれた教を説きました。こうして彼は、この3年間の務めを終えるまでに、製紙プロジェクトのために45トン



奉仕する

神は、

神を求め、神に仕え、

神の戒めを守り、

神の教えを望んで

謙遜に耳を傾ける人々に、

御自身と御自身の永遠の真理、

すなわち、聖文の中で

命のパンと生ける水と

呼ばれている霊的な糧を

明らかにされます。

超えるほろ切れを集めたのです。それは地味な仕事でした。しかし、社会の発展のために欠かせないものでした。それは神権の権能を持つ人から割り当てられたものだったのです。

3番目の模範はもっと現代に近いものです。ブリガム・ヤング大学ハワイ校のエリック・B・シャムウェイ学長は、若い宣教師の時代にトンガで経験したことを『トンガの聖徒——信仰の遺産』(Tongan Saints: Legacy of Faith)の中で紹介しています。彼はある信仰篤いトンガ人の家族の夕食に招待されました。その家族は非常に貧しい暮らしをしていました。シャムウェイ兄弟はこう記しています。

「さて、トンガタブに住むそのキニキニ家族には、農園はなく、少数のかも以外に家畜もなく、そのかももやがて1羽の子がもだけになっていました。その夜、わたしがその家族の輪の中で床に腰を下ろしたとき、4人の幼い子どもたちがじっと見ている前で、母親はゆでたパンの実を一人一人の前に置きました。それから、彼女はわたしの前に、料理したばかりのゆでた子がもを置きました。このごちそうとその香りは、握り締めた手をひざに置いて静かに座っている子どもたちを釘付けにしました。その子がもがわたしのために用意されたものであることは明らかでした。

『わたし一人では頂けません。』わたしはテビタ・ムリ(兄弟)に言いました。『みんなで分けましょう。』

わたしがそれを分け始める前に、テビタ・ムリはすぐに遮って言いました。『いや、あなた一人で召し上がってください。それはあなたの分です。』

『でも、お子さんたちは。』わたしは言い返しました。

『子どもたちはそれに手をつけたいとは思いません。』彼は続けてこう言いました。『あなたがそれを召し上がることは、子どもたちにとって名誉なのです。いつか、彼らはその子どもたちに、自分たちには^ニニ(肉)はなかったが、主

の僕はそれを食べて満ち足りたと言って誇る日が来ることでしょう。』(〔1991年〕10)

このような親の模範は、子どもたちやこれを知る人々に霊的な栄養を与え、彼らの信仰を築きます。このような教えが、証を築き、次の世代に信仰と霊性を継承するのです。

霊的な成長をもたらす

ヤコブの井戸の傍らでサマリヤの女性に語られたイエスの言葉は、世の事柄と天の事柄、肉体の栄養と霊的な栄養の違いをわたしたちに思い起こさせます。イエスはその女性に言われました。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」(ヨハネ4:13-14)

イエスはしばしば、同じように食べ物や飲み物の例を用いて、御自分の教えを説いておられます。至福の教えの中で、イエスはこう述べられました。「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りようになるであろう。」(マタイ5:6)モルモン書の靈感に満ちた記録は、この約束が成就する霊的な手段を明らかにしています。「……彼らは^{せいせい}聖霊に満たされるからである。」(3ニーファイ12:6、強調付加)

モルモン書からわたしたちは、^{せいせい}聖餐の象徴であるパンと水を受けることがこのことを達成する手段の一つであることも学びます。「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢えることも渇くこともなく、満たされるであろう。」(3ニーファイ20:8)

同様にヨハネは、イエスが述べられた言葉を記録してい

五—ステータの池で病人を癒されるキリスト。カール・ヘリック・ブロック画。ベネタ・タンスク・インダー・ミッシェンの厚意により編纂。右—フォトイラストレーション/ケンタイパー・バンダーン



ます。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ6:35)

御霊に関する事柄を子どもたちにどう教えるかを考えるとき、また生ける水と命のパンを子どもたちにどう与えるかを考えるときは、世の方法ではなく主の方法で行わなければならないということを理解しておく必要があります。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)はこう述べています。「判断という特別な基準は霊的な領域で証明されなければなりません。科学的な研究、知識面での調査、この世の人々に知られている調査方法では決して、神が個性をお持ちの御方であられること、人は皆よみがえって不死不滅の状態になること、悔い改めた人は御霊によって生まれるということは証明できません。……霊的な真理は霊的な手段によってのみ証明できるのです。」(*The Millennial Messiah* [1982年]175)

知的な方法、すなわち研究と論証は、わたしたちが永遠の命に向かって成長するのに欠かせませんが、それだけでは十分ではありません。道を備えることはできます。心に御霊を受ける準備をさせることはできます。しかし、聖文で「改心」と呼ばれている状態、すなわち、確固として永遠の命を目指す指向と強さを与える思いと心の変化は、聖なる御霊の証と力によってのみ得られるのです。

ジェームズ・E・ファウスト副管長はこの同じ真理を教えて、「純然たる揺るぎない信仰」を養うようわたしたちに勧めています。ファウスト副管長が述べているように、時としてわたしたちは、「自分の知的好奇心を満足させ、すべての答えを得ようと時間を費やしています。」さらに副管長はこう続けています。「わたしたちは皆、真理と知識を求めています。純然たる揺るぎない信仰をはぐくむことで、

わたしたちの成長や業績が制限されることはありません。むしろ、そのような信仰はわたしたちの成長を増し、促進します。」(*Reach Up for the Light*, 15)

福音の真理と証は、祈りをもって求めることによって、信仰によって、聖文の研究によって、義になかった生活によって、靈感に基づく教えと助言によって、信仰ある人々と真剣に話し合うことによって、また敬虔な態度で行う個人の学習と静かな熟考によって、聖霊から得られます。これらの方法によってわたしたちの魂は養われ、第三ニーフайの中で与えられている約束が果たされて、わたしたちは「聖霊に満たされる」のです(12:6)。□

1996年2月13日にリックスカレッジで行った説教より。

「探し求めていたものはこれだ！」



ロドルフ・バルボザ・ゲレロ



ペルーのリマに住んでいた幼い少年時代から、わたしには神に関するものを求める傾向がありました。子どものころは、家族の行く教会に忠実に集っていましたが。青年のころに教会の聖歌隊で歌っていたこともあります。

けれど17歳のとき、教会で祈っていると、不安に襲われました。教義のある箇所について考えると、自分がほんとうに正しい教会に集っているのかどうか確信が持てなくなったのです。

その夜、わたしは新約聖書の多くの部分に目を通しました。また、近所に住んでいて別の教会に所属しているある人を訪ね、一緒に聖書を読み、疑問を感じ始めた教義の幾つかについては答えを見つけることができました。

誤った道を歩んでいた自分に気づくのは、難しいことではありませんでした。けれど真実を探し出すのは容易ではありませんでした。いろいろな宗教の集会に参加してみました。神について論じている記事にも目を通しました。しかしそのいずれも、大して興味を引き起こすものではありませんでした。そうしている間にも、新約聖書を読み続けました。そしてイエスがヨハネによる福音書第10章16節で述べておられる、「この囲いにいない他の」羊について詳しく知りたいと思いました。

約1年間、クリスチャンを名乗っていましたが、特定の宗派には所属していませんでした。わたしは技術研究所で

研究をしていましたが、研究所の人たちはよく宗教についての話をしました。ある日、末日聖徒の青年と別の教会の会員との会話を耳にしました。末日聖徒の青年の確信に満ちた声と、その言葉の力に、感動を覚えました。モルモンについては、彼らがカウボーイの集団であると聞いたことがあるだけで、知り合いは一人もいませんでした。また、近所には末日聖徒の教会はありませんでした。

ちょうどその時期のある日、診療所の待合室で待っていたわたしは、隣に座っていた若い女性が青い表紙の本を開くのに気づきました。その本の文章は聖書のような段組で書かれていました。それが聖書なのかどうか確かめたいという好奇心がわいてきましたが、先ほどまで読んでいた漫画の本に再び目を落としました。

その青い本に目を向け、開いたページのいちばん上に書かれた「アルマ」という言葉を読み取りました。聖書の中にそのような名前が出ていたかどうか思い出そうとしました。そして、再び漫画の本を読みました。けれどその青い本はわたしを引きつけてやまなかったのです。なぜに満ちたその本に再び目を向けました。

わたしがその本に興味を持っていることにその女性が気づいたとき、わたしは「それは聖書ですか」と尋ねました。その女性は、この本は聖書ではないと答え、「どの教会に行っているのですか」とわたしに尋ねました。わたしは「どれも真実の教会なのか分からないので、どこにも所属していないのです」と答えました。

その夜、あの見慣れない本のことが頭から離れませんでした。その若い女性はそれがモルモン教会の本であると告げただけだったので、その本の名前が分かりませんでした。友人のゲルセーにそのことを話したところ、彼はその本を1冊持って来てあげようと言いました。数週間がたち、ある日の午後、ゲルセーは表紙がなくなりページの擦り切れた1冊の本をわたしに手渡しました。「これがその本だよ。」彼は一言そう言いました。

その日の午後、わたしは受け取った本を開き、ジョセフ・スミスあかしの証を読みました。まさしく知りたいと思っていたことだと感じました。天使モロナイの訪問について読んだとき、その気持ちはいっそう強くなりました。興奮する気持ちを抑え切れず、わたしはいすから立ち上がって叫びました。「探し求めていたものはこれだ。真実が見つかったぞ。」ニューファイ第一書の第1章をゆっくりと読みました。

今まで経験したことのないほど、そこに書かれている内容を十分に理解できたと感じました。

努力のいかなく、末日聖徒の集会所は見つかりませんでした。ゲルセーが手助けを申し出てくれましたが、自宅から最も近い集会所の住所を探し出すことができませんでした。その間、ゲルセーが持っているパンフレットを貸してくれました。

ついに、自宅からそう遠くない場所を歩いているときに、建設中のある建物が目に入りました。立て札には「末日聖徒イエス・キリスト教会」と書かれていました。パンフレットで見たことのある名前でした。

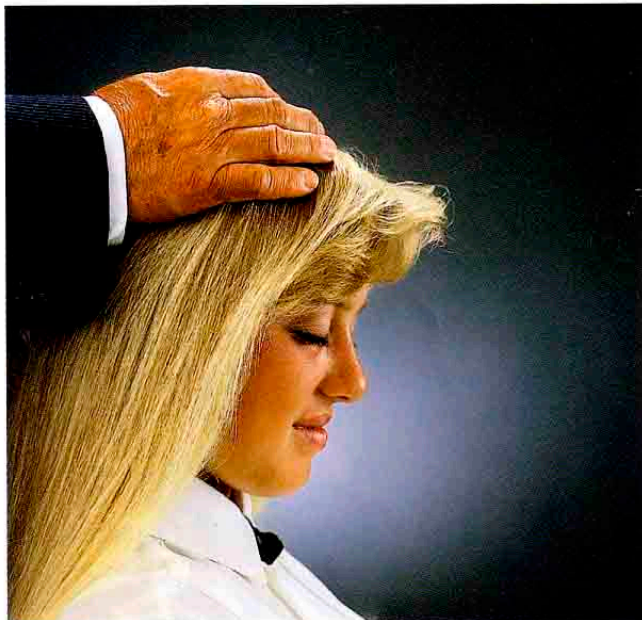
数か月後、建設工事が完了し、わたしは妹のハイデーと一緒にその建物を訪ねました。二人の宣教師からあいさつを受けたとき、わたしはモルモン書についての経験を話し、教会員になりたいという気持ちを伝えました。

宣教師からレッスンを受けたとき、わたしはほかの囲いにいる羊について気になっていると彼らに話しました。宣教師は救い主のアメリカ大陸訪問について、特に第三ニューファイ第15章16節から21節に書かれている主の言葉を読むようにと教えてくれました。そのときわたしは、ついに答えを見つけたということが分かりました。宣教師のレッスンを終えて2週間後、妹とわたしはバプテスマを受け、長い間求めていた教会に入りました。

次にわたしは宣教師になる準備を進め、それから1年後、ペルー・リマ北伝道部で専任宣教師として奉仕する召しを受けました。伝道中に得た証は、わたしがこれまでに受けてきたことを現してくださったのは「血肉」ではなく「天にいますわたしの父」である、というものです(マタイ16:17)。

あれから何年もたった現在、わたしは世の人々に証を分かち合うことを熱望しています。この教会が主の真実の教会だということを知っているからです。主は妻とわたしに、神殿結婚という祝福、さらに3人のすばらしい子どもたちという祝福を与えてくださいました。わたしたちは皆、主の教会で喜びに満ちて奉仕しています。主がわたしに与えてくださる憐れみあわれみに対して、幾ら感謝しても感謝し切れないことでしょう。□

ロドルフ・バルボザ・ゲレロはペルー・リマ中央ステーク、ワスカル支部の会員です。



どうすれば 祝福師の祝福に 備えることができますか

わたしと同年の青少年のほとんどが祝福師の祝福を受けています。わたしも受けるべきではないかと感じていますが、自分は備えが整っているかどうか不安です。受けるための備えとして何ができるでしょうか。どうすれば受けるべき時が分かるのでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

祝福師の祝福を受ける時期について悩んでいる教会員は大勢います。祝福を受ける人には、その意義と大切さを理解できるほどの年齢と成熟の度合いが必要とされます。

祝福を受ける年齢は特に定められていませんが、自分の将来に関する重要な決断に対して思い巡らすときに、祝福文は助けとなるでしょう。伝道に出る前、軍務に就く前、故郷を離れる前に祝福師の祝福を受けることは適切なことです。監督や支部長はあなたの力になってくれるでしょう。彼らはいつ祝福師の祝福の推薦状を発行すべきか、靈感を受けて判断してくれます。

祝福師の召しは啓示を受ける召しです。祝福師は聖霊の靈感の下に祝福を与えます。この祝福の中で、イスラエルの家の血統が知らされ、祝福、約束、勧告、訓戒、警告が与えられるでしょう。当然のことながら、約束された祝福が成就するか否かは、わたしたち自らの忠実さにかかっています。

若い人や新しい改宗者がこの祝福を受けるに当たり、その時期や年齢よりもさらに重要なことは、受ける人の準備です。日々義にかかった生活を送るこ

とで、備えられるのです。祈ったり、聖文を学んだり、奉仕したり、従順であったりする度に、備えていることになります。さらに福音の基本的な教義を学ぶことで備えることができます。もし十分に備えができていないかどうか不安であれば、備えが整うように祈り、断食してください。自分にできる最善を尽くすなら、天父は適切な時期に、それを知らせてくださるでしょう。

あなたが祝福師の祝福を求めている、それを受けるために十分な準備が整い、ふさわしさを身に付けたと感じたなら、監督あるいは支部長に面接してくれるよう頼んでください。あなたが霊的に備えられていると監督あるいは支部長が感じれば、推薦状を発行してくれます。そして祝福師と会う約束をしてください。地元で祝福師がいなければ、ステーク会長や伝道部長を通じて約束をすることができます。祝福を受けに行くときは、日曜日の服装をし、祈りの気持ちで臨んでください。祝福師の祝福は個人的に与えられますが、家族、特に両親がその場に同席してもよいでしょう。

祝福師の祝福を受けた後、あなたには印刷された祝福文の控えが渡されま

す。祈りの気持ちでそれを研究するなら、御霊は、そこに書かれている様々な事柄の意味を理解できるように助けられるでしょう。この神聖で個人的な記録は、内密のものであり、家族以外の人々と分かち合うべきではありません。

祝福文を読み返すなら、困難なときに助けとなるでしょう。それは、あなたに対する主の愛が形となったものだからです。御霊を通して、あなたが自分自身のすばらしい可能性と、主があなたに授けたいと願っておられる祝福を理解できるよう、祝福文は助けしてくれるでしょう。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように説明しています。「祝福師の祝福の重要性を理解できる年齢に達しているすべての人が祝福師の祝福を受けるよう、彼らを励ましてください。わたしは、自分の受けた祝福師の祝福を、自分の人生で最も神聖なものの一つと考えています。祝福師の祝福は、それを受けるにふさわしい生活をしているすべての教会員にとって、ほかに類を見ない、神聖で個人的なすばらしい祝福になるはずです。」「[霊的な思い][聖徒の道]1997年8月号、5)

読者からの提案

祝福師の祝福は天父からの最も偉大な賜物の一つです。自らを備える方法として、祈り、断食をし、聖文を読んで瞑想し、神の戒めと預言者の教えに従うことができます。主は備えが整ったとき、それをあなたに知らせてくださるでしょう。

ウクライナ・ドネーツク地方部、
ドネーツク・ツェントラルニー支部
バレンティナ・ピューロ・ポツカヤ

祝福師の祝福はわたしたちの個人的な指針です。受ける前に、心の中で深く考える必要があります。また天父に忠実でなくてはなりません。祝福師の祝福は、主がわたしたちに何を望んでおられるかを、そしてその報いとしてどんな祝福を約束してくださるかを、わたしたちに伝えるものだからです。

グアテマラ・グアテマラシティー、
エルモリノステーキ、マルティワード
ルイサ・フェルナンダ・グエラ・エルナンデス

わたしは自分が神の息子であることを知っています。ですから、主の祝福を信仰込めて求めるのは、わたしにとって大切なことです。祝福師の祝福によって、それらの祝福を知ることができます。霊的に備えるために、監督、ステーキ会長、そして両親に助けを求めることができます。また助けを求めて、忠実に祈ることができます。

トンガ・ヌクアローファ東ステーキ、
ナプトカ第1ワード
アイバン・ホー・タウモエアンガ

わたしは16歳のとき、祝福師の祝福を受けました。受けることに興味を持ったのは、祝福師の祝福についてのレッスンを受けたときでした。それからその興味が望みへと育っていきました。やがて、ファイヤサイドでステーキ祝福師の話聞いていて、わたしには備えができていて、と気づいたのです。

祈り、断食し、聖文を研究すれば、聖霊はわたしたちの備えが整ったときに、それを知らせてくださいます。またわたしの両親も、わたしがこの決断をできるよう助けてくれました。

オランダ・アーベルドールンステーキ、
ツウォレ支部
マイケ・バン・アンデル

祝福師の祝福について学ぶ度に、わたしはそれが真実のものであるという確信を感じました。主からこの祝福を頂きたいという望みが、心の中で増していきました。教会の集会で学んだことはすべて行うよう努力しました。そして、わたしがこの祝福に備えるに当たっての助言を監督に求めました。

ブラジル・ピラベルハステーキ、
イタポアワード
バレリア・クリスティーナ・リベイロ・クストディオ

祝福師の祝福は天父からあなたへのメッセージです。そしてそれによって、この世における自分の使命をより明確に理解できるようになります。信仰をもって祈るなら、自らを備えていることになります。断食をし、より良い思いや感



バレンティナ・ピューロ・ポツカヤ



ルイサ・フェルナンダ・グエラ・
エルナンデス



アイバン・ホー・タウモエアンガ



マイケ・バン・アンデル



バレリア・クリスティーナ・リベイロ・
クストディオ



キャロライン・ロベス・レボウカス



ウィリアム・エンリケ・ガルシア・トレス長老



ミッシェル・M・リタウア



エステラ・スレタ・チャベス姉妹

情を養うことで、神からの特別なメッセージを受けるためのふさわしさを、さらに身に付けることができます。神は、いつ備えが整ったかあなたが分かるよう、必ず助けてくださることでしよう。ブラジル・リオデジャネイロ・アングライステーク、ティジュカワード
キャロライン・ロベス・レボウカス

わたしは専任宣教師です。そして祝福師の祝福がとても役に立っています。それはまるでリーハイとその家族を導いたリアホナのようです。落胆したら、祝福師の祝福を読むようにしています。すると喜びに満たされるのです。

グアテマラ・グアテマラシティー中央伝道部
ウィリアム・エンリケ・ガルシア・トレス長老

どうすれば備えることができるのでしょうか。神の戒めを守ることで、ふさわしくなることができます。また聖文を研究し、教会の指導者を支持することができます。さらにどんな召しでも受けた召しを尊んで大いなるものとすることができます。

もしそれらのことをしてきたのなら、監督または支部長と会って、推薦状を受けることについて話し合う時期が来ています。方法は簡単です。ふさわしければいいのです。

フィリピン・トゥグガラオステーク、
トゥグガラオ第4ワード
ミッシェル・M・リタウア

祝福師の祝福を受けるには、聖文を研究し、天父に祈り、天父の望まれる

方法で生活することによって、霊的に備える必要があります。聖霊を伴侶とするために必要なふさわしさを身に付けるために、言葉や思いにあっても清くなければなりません。そうすれば、聖霊がわたしたちの心に証^{あかし}をしてくださるでしょう。そして備えが整ったことを知るでしょう。

コスタリカ・サンホゼ伝道部
エステラ・スレタ・チャベス姉妹

下記の質問に答えて、「質疑応答」のページをさらに有意義なものにしてください。締め切りは2001年10月1日、あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS
10/01 Liahona, 50 East North Temple
Street, Salt Lake City, Utah 84150-3223 USA

氏名、年齢、住所、所属ステーク／地方部、ワード／支部名を明記のうえ、日本語で意見をお寄せください。手書き、パソコン、いずれでもけっこうです。手書きの場合は、かい書で、読みやすい文字でお書きください。できれば写真を同封してください。ただし写真の返却は致しかねますので、あらかじめご了承ください。類似した答えの場合は、代表的なもの1通を採用させていただきます。□

質問——わたしがこの教会の会員なので、わたしはほんとうのイエス・キリストを信じていないと言う友達がいます。どう反論しても耳を貸してくれません。どうすればよいでしょうか。

ウルグアイ・モンテビデオ神殿が奉獻される



ウルグアイ・モンテビデオ神殿の奉獻式には7,600人以上の会員が出席した。

写真/マイケル・ルイス

チャーチ・ニュース

3月18日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はウルグアイ・モンテビデオ神殿の奉獻を行った。この神殿は南アメリカで11番目の神殿となる。

「愛する父よ、この神殿をあなたの息子娘たちの贈り物として受け入れてください。」ヒンクレー大管長は奉獻の祈りの中でこのように述べた。「この神殿は全世界の聖徒たちが^{じゅうぶん}自分の一を忠実に納めることによって実現しました。神殿によってこの地に恵みがもたらされますように。ウルグアイの国家はその国土に神殿が建てられたことによって祝福を受けますように。この神殿が神の永遠^{あかし}についてあなたの民が持つ知識を世界に証するものとなりますように。」

ヒンクレー大管長に同行したのは、十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老ならびに南アメリカ南地域会長会を構成する七十人第一定員会のジェイ・E・ジェンセン長老、七十人第二定員会のキース・クロケット長老、地域幹部七十人のクラウディオ・D・ゾビック長老である。

モンテビデオ神殿は首都庁舎に近い東部住宅地に位置している。4回行われた奉獻式のセッションには7,600人以上の会員が出席した。

ウルグアイ・ドゥラスノステーク、プエブロヌエボワードの監督会で副監督を務めるサムエル・ピリ

スにとって、神殿の奉獻式に出席することができたのは主の祝福の現れであった。改宗して6年になるピリス兄弟はこの1年間就職先が見つからなかった。しかし家族とともに奉獻式に出席できるよう祈ったところ、奉獻の1か月前に仕事が見つかり、家族が片道2時間かけてモンテビデオまで来るバス代を払うことができたのである。ピリス兄弟はワードで旅費の問題で出席が難しいとされていたほかの二人の会員の費用も捻出することができた。

2月28日から3月10日まで行われたオープンハウスには2万5,000人近くの人々が足を運んだ。オープンハウスの期間中アッシャーを務めた専任宣教師のトロイ・ジョーンズ長老は、ほかの宗派から訪れた大勢の人たちが「神殿内に足を踏み入れた途端別世界に来て、心配事や悩み事を忘れることができたと言いました。国中でいちばん美しい建物だと言う人たちもいました」と報告した。

大勢の訪問者の中に、ホルヘ・パトリーエ現ウルグアイ大統領、ルイス・アルベルト・ラカリエ前ウルグアイ大統領の顔も見られた。見学を終えたパトリーエ大統領は、神殿は道徳の価値観が大切にされる場所であり、人々はこの価値観を大切にしなければならないと語った。□

モンソン副管長,人道的支援賞を授与される

大 管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長はこの度北アメリカ人道的支援資源センター (Humanitarian Resource Center of North America) より、人道的支援を積極的に推進してきた業績をたたえるグロボウス賞を授与された。ソルトレーク・シティに本部を置く同センターは全世界の人道的支援活動を支援する慈善公共団体である。3月9日に行われた授与式においてモンソン副管長は自身と教会が関与してきた人道的支援活動での経験を紹介した。

数年前、救世軍のソルトレーク支部が新たな事務所を探していたとき、教会は使用しなくなっていた集会所を彼らに売却することを検討していた。しかし、同組織が資金を可能なかぎり貧しい人々の援助に充てていることを知ったモンソン副管長は、売却するのではなく、救世軍に寄付することを提案した。「さら

に教会からの贈り物として建物の屋根部分を取り替え、外側の木部を塗装しました」とモンソン副管長は語った。「そのころ閉鎖されたばかりのホテルユタが余剰品として持っていた家具、皿、厨房器具も教会から寄付されました。この寄付によって、飢えている人々に食べ物を提供できるようになりました。」

モンソン副管長はもう一つの経験を述べた。モンソン副管長とフランシス夫人はクリスマスの1週間前にユタ食糧貯蔵所の食糧棚が空になってしまったことを知らされた。モンソン副管長は許可を得て、教会のウェルフェアスクエアから食糧をトラックに積んでユタ食糧貯蔵所の食糧棚に運ぶよう手配した。

モンソン副管長は救い主の勧告を引用して、話を終えた。「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」(マタイ25:40)□



人道的支援への積極的な推進活動に対して表彰を受けるモンソン副管長。

写真/マイケル・ブランディー、「デザートニュース」(Deseret News) の厚意により掲載

ペリー長老,教義と聖約は「世界中のすべての人のためのもの」と語る

サラ・ジェーン・ウィーバー

3月4日、日曜日に行われた教会教育システムファイヤサイドで十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は、全世界の大学該当年齢の聴衆に向けてこ

う語った。「今日の世界には山のように情報が^{こんじち}ありますが、そのような中で大きな安らぎとなるのは、主がその子どもたちとのかかわりの記録を聖文として保存してこられたことです。……今晚、皆さん

に、主の教会の教義を研究するようお勧めします。……ここに真理の基があります。それは、時の試しにも耐える確固としたものです。その教義と、啓示された聖約は、わたしたちが受け入れるなら、主のみもとに導いてくれます。これこそが永遠の命に至る唯一の道なのです。」

ペリー長老は、ブリガム・ヤング大学マリ奥特センターに集まった2万人を超えるヤングアダルトに向かい、聖文、特に教義と聖約を研究するように勧めた。そのほかにも、北アメリカ、中央アメリカ、南アメリカ中の各地で推定13万5,000人以上の人が衛星放送を通じてこの説教に耳を傾けた。同ファイヤサイドは、22言語に翻訳され、後日、ヨーロッパ全土に放送された。さらに、世界各地のインスティテュートの生徒たちのために、ビデオテープでも入手できるようになる。

「主がその子どもたちのことを心にかけられておられる最大の証拠は、主がわたしたちにコミュニケーションの経路を授けて、

教会が正式名称を強調

教 会指導者は、会員、報道機関、そのほかの人々に対し、教会の完全で正しい名称である「末日聖徒イエスキリスト教会」を使用し、「モルモン教会」や「LDS教会」などの表現を避けるように要請してきた。

今年3月、大管長会は世界中の2万5,000以上の教会組織に対して手紙を出し、「可能なかぎり教会の正式名称を使用する」よう呼びかけた。世界中のニュースメディアに対しても、同様のプレスリリースを発行している。

この手紙は会員に、啓示によって示されたこの教会の名称が「救い主の御名を

世界中に宣言するというわたしたちの責任を果たすうえで……ますます重要になっている」ことを再確認している。この名称は1838年4月、預言者ジョセフ・スミスに示されたものである(教義と聖約115:4参照)。

手紙では、「モルモン」という愛称が適切な場合もあることも述べられている。「モルモンパナクル合唱団」や「モルモントレイル」などの例が該当する。「モルモンイズム」という表現も、教会員特有の教義、文化、生活様式を表現するときに使用できる。しかし、会員自身について述べるときは「末日聖徒」という名称が望ましい。□

主の道に導いてくださっていることではないでしょうか。」ペリー長老は聖文についてこう語った。「わたしは時代を超えて行われてきた地上の子どもたちへの神の導きの物語を読む度に驚きを感じます。」

ペリー長老は、神がその子どもたちと交流を図られた記録が存在することに触れ、こう述べた。「わたしたちには、人生の道しるべとなるすばらしい聖文が創造の時から授けられていました。アダムとエバの話からは世の始まりを知ることができます。」

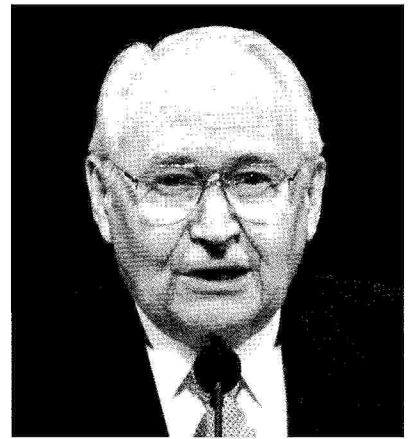
ペリー長老は続けて、旧約聖書からアブラハム、ヨセフ、モーセ、ルツ、エステルについて学ぶことができること、また新約聖書は救い主についての記録であることを告げた。しかし、旧・新約両聖書の言葉を書き記した材料は永久的なものではなかったことを告げ、こう語った。「時代を超えて記録を腐食から守り、保存す

るためには、何度も複写を繰り返さなければなりませんでした。」

主は、回復の時には主の業の新しい証を世にもたらすのが適切であるとお考えになった。「預言者ジョセフ・スミスはこう言っています。『モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。』

主は、主の聖なる預言者に続けて靈感をお与えになり、主の御業の記録をさせておられます。わたしたちの時代には別の聖文があります。聖書やモルモン書などの古代の聖文ではなく、教義と聖約に収められたわたしたちの時代の聖文です。」

ペリー長老はさらにこう述べた。「教義と聖約は末日聖徒だけに書かれた書物ではありません。それ以上のものです。世界中のすべての人のためのものです。



ペリー長老は大学該当年齢のヤングアダルトに対し、主とその子どもたちとのかかわりの記録である聖文を研究するよう勧めた。

……主は世の人々の救いのためにこの書物をお授けになりました。」□

「チャーチニュース」(Church News)2001年3月10日付けの記事を基に編集。

教材の利用に関して決定する、秩序化されたプロセス

教会の指導教材を統一する動きが始まった1960年代以降、これらの教材を各言語で利用するうえで、ある基本方針が確立されている。教会が出版する教材の量を考えると、翻訳するアイテムとその期限を決定するうえで、優先順位を定める体系を普及させなければならない。

教会教科課程管理部実務部長を務めるロナルド・L・ナイトンはこのように語る。「福音の教材を携えて世界へ出て行くに当たって、秩序を確立することは重要です。教会の財源を圧迫させることなく、かつ教会の発展途上地域に過度の負担がかかることのないようにしています。」

大管長会および十二使徒定員会に対して、ある特定の言語に教材を翻訳するよう推薦するのは、教会の特定地域を管理する七十人定員会の会員3人で構成する地域会長会である。この推薦は、宣教師が福音を教える際に用いている言語とは別の母国語を持つ多数の人々と出会ったとき、しばしば出される。

この推薦が教会の管理評議会で承認された場合、導入、第1、第2、第3という各翻訳段階に応じて、その言語の教

材が提供されることになる。しかし、これら各段階相互の境界線が柔軟であることも注意しなければならない。神権指導者の判断で、上位の翻訳段階に属する特定の教材で、地域の翻訳段階が実際はそこまで到達していなくても、場合によっては早急に必要と見なされることもある。さらに、翻訳段階に含まれるアイテムは上位に進むに従い累積されている。つまり、下位の翻訳段階に属するアイテムは上位の翻訳段階にも自動的に含まれており、除外されるわけではない。

導入翻訳段階

『預言者ジョセフ・スミスの証』という、福音の回復について説明する伝道用パンフレットが出版されている。

『福音の基本原則』(Gospel Fundamentals)という、『福音の原則』の別冊も含まれる。(聖典は導入翻訳段階の地域では翻訳されていないため、『福音の基本原則』には参照聖句や引用は掲載されていない。)

『福音の基本原則』パッケージには、その言語に翻訳された教会の名称、信仰箇条、一部の賛美歌や子どもの歌、聖餐

の祈りが印刷されたカードも含まれる。

また、賛美歌や伴奏のみを取めたカセットテープ(またはCD)も利用できる。

第1 翻訳段階

この翻訳段階では、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠が翻訳されている。モルモン書は単品として、および合本としても出版されている。

『リアホナ』に掲載されている「大管長会メッセージ」と「家庭訪問メッセージ」が翻訳され、配布されている。

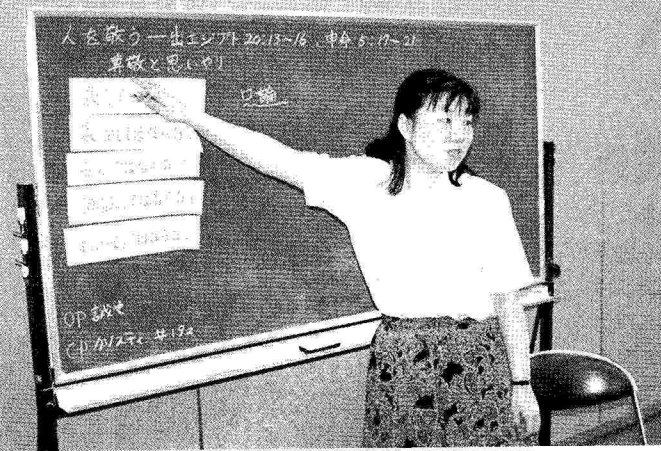
『福音の標準教授法』と『新会員のためのレッスン』も翻訳されている。

教会支部を運営するために必要な管理資料も含まれる。

第2 翻訳段階

第2翻訳段階では、『福音の基本原則』のテキストを除いた基本的なテキスト教材が追加される。その中には、初等協会、アロン神権、若い女性、H曜学校のテキスト；『神権の義務と祝福A』『神権の義務と祝福B』『末日聖徒の女性A』『末日聖徒の女性B』が含まれる。

セミナープログラムを始めるために



テキスト教材を使って教える、日本福岡ステーク、藤崎ワードのセミナー教師、三崎智恵美姉妹。

写真/グレッグ・ヒル、『チャーチニュース』(Church News)の厚意により掲載。

必要な教会教育システムの教材が翻訳されている。

『リアホナ』がある程度の頻度で出版されている。

第3翻訳段階

第3翻訳段階では、教会が十分に発展している地域のプログラムを支えるために必要な、そのほかの教材が翻訳される。

教材を提供するための努力がすべてではない、とナイトン兄弟は語る。「管理評議会の幹部たちが会員たちの必要に合わせて教材を承認し、教会の各部署がそれらを提供することは大切なことです。しかし、会員たちがそれらを手直し、制作された目的に従って活用することも同じように重要なことなのです。」□

『チャーチニュース』(Church News)の厚意により、2001年3月31日付けの記事より掲載。

世界中に人道的支援を送る教会

ゲイリー・R・ブレーク

教 会員は献金や奉仕活動を通して、救い主と預言者ジョセフ・スミスの教えに従おうと努力している。その教えは次のとおりである。「この教会の会員であろうとほかの教会の人であろうと、まったく教会に属さない人であろうと、飢える者に食を与え、裸でいる者に着せ、やもめを養い、孤児の涙をぬぐい、悩める者を慰めるようにしなさい。」(Times and Seasons, 1842年3月15日付, 732)

この精神をもって、教会員は人道的支援基金に献金をしている。そして教会は世界中の困っている人々を助けるためにそれらの献金を用いている。このような援助は多くの場合、非常事態での生命維持や人々がより自立できるよう援助するプログラムの支援という形を取っている。教会は147か国の食糧、衣類、

医療機器、教育用品を送ってきた。これらの支援はほとんど、赤十字やマーシー・コープス・インターナショナル(Mercy Corps International)、フード・フォー・ザ・プア(Food for the Poor)、ワールド・オポチュニティーズ・インターナショナル(World Opportunities International)、チルドレンズ・ハンガー・ファンド(Children's Hunger Fund)などの慈善奉仕団体と協力して行われている。

人道的支援基金への献金の大半は教会員によるもので、ワード・支部を通し、『^{フョウボ} 什分の…そのほかの献金』の用紙を用いている。これらの献金で必要な物資を購入し、送料を払い、世界中の人道的支援活動事業を推進している。

自立し、家族を養えるようになることは、福音の根本的な原則である。世界中で現在300人以上の宣教師が人道的支援の割り当てを受けており、人々が自立

し、自分とその家族を養う責任を果たせるよう働きかけている。例えば、中国に派遣された医療専門家は、重度の合併症をもって生まれた乳児に対するより良い治療法を教えている。アイダホ出身の夫婦はベラルーシの農家にじゃがいもの生産量を増加させる方法を教えている。ほかにも、ガーナで職業訓練プログラムの一環として青少年にコンピューター技術を教えている夫婦もいる。

人道的支援を受ける側も、自分たちの必要を満たす助けをすることが多い。例えばロシアでは、病院に毛布を送るプロジェクトが最近承認された。生地を基金で購入し、地元の支部の姉妹たちが病院職員とともに協力してキルトを製作した。ケニアの農村部のある村は、新しいトイレを必要としていた。教会は物資を提供し、それから村人は穴を掘り、石を敷き詰め、建物を建てた。

また会員は、直接会う機会のない

二つの伝道部、新たに組織される

2001年7月1日、教会の発展に伴い、二つの伝道部が新たに組織された。一つはアメリカに、もう一つはメキシコに設立された。

北アメリカ北西地域に属するワシントン州エベレット伝道部は、ワシントン州シアトル伝道部に属していた一部の地域、すなわち、シアトル神殿の北側からカナダの国境線までの地域を管轄することになる。この新しい伝道部には10ステークのおよそ3万4,000人の会員が含まれる。管轄区域が一部変更されたワシント

ン州シアトル伝道部は10ステーク、3万6,000人の会員が属することになる。

メキシコ南地域では、メキシコ・メキシコシティー北、南、東伝道部が再編成され、メキシコ・メキシコシティー西伝道部が組織された。この新しい伝道部には13ステークの4万人の会員が含まれる。再編成された北伝道部と南伝道部には、それぞれ14ステークの4万2,000人の会員が含まれており、東伝道部は14ステークの4万4,000人の会員を擁する。□



中国で出産立会い者に新生児蘇生法を教えている、人道的支援宣教師のオリマー・T・クリステンセン。

写真/教会人道的支援活動課の厚意により掲載



ペラルーシでじゃがいも栽培を教えている、人道的支援宣教師のジョン・ヘス。

写真/教会人道的支援活動課の厚意により掲載

人々のために働くことも多い。多くの会員は、世界中の人々に送られる学校用品セット、衛生用品セット、新生児用品

セット、キルトなどを作る。

会員の惜しめない献金や奉仕活動によって、無数の人々に祝福をもたらす教会の人道的支援が可能となっている。教会員はゴードン・B・ピンクレー大管長の次の言葉に熱意をもってこたえている。「世界には、飢えた人々や苦しんでいる人々が数多くいます。また、死と隣り合わせて生活している幼い子どもたちがたくさんいます。わたしたちは、これからも、政治やそのほかの要素のために、^{あわ}憐れみの手が届かないなどということがないように、引き続き、援助の拡大に努めていく必要があります。」(『聖徒の道』1998年1月号, 77)□

ゲイリー・R・フレークは教会福祉部人道的支援活動課のディレクターを務める。



飢餓に苦しむエチオピアへ食糧を送るため、小麦を袋に詰めるイギリスの会員。

写真/教会人道的支援活動課の厚意により掲載

自立し、ほかの人々を援助する教会員たち

エルサルバドルの再建活動

1月から2月にかけて、壊滅的な地震に3度襲われたエルサルバドルの教会員たちは、各々の生活を立て直しているところである。これらの地震によって1,200人以上が死亡し、100万人が家を失った。地震で亡くなった末日聖徒は15人、家を失った会員は数千人に及んだ。

教会は惨害を被ったエルサルバドルに向けて、寝袋、テント、毛布、衛生用品セット、学用品セット、食糧、医療用品など、合わせて450トン余りを送った。末日聖徒ファミリーサービス課の開業医3人もエルサルバドルへ派遣され、被災者を援助し、地域の精神衛生専門家の訓練に当たった。

地元の神権指導者たちは会員たちに、このような惨劇に直面する中で心の平安を保つために家族で祈り、聖文を研究し、教会の賛美歌を歌うように勧告した。メルキゼデク神権者は、必要としている人々には慰めを与える祝福をするように勧められた。

地元の指導者たちは断食献金を使って、会員が新しい家を建てるための材料を提供しており、専任宣教師たちが建築現場を手伝っている。

また、カリフォルニア州パロスベルデスステークの会員たちもエルサルバドル人の会員たちの援助に協力し、幾つもの大きなコンテナにエルサルバドルへ送る毛布、テント、衣類を詰めた。自分は会員ではないが、夫人がステークに所属する会員であるエルサルバドル出身の男性は、母国に送られるコンテナの送料を支払った。

余剰のじゃがいもで 飢餓に苦しむ人々を助ける

昨年秋、じゃがいもが大豊作だったアメリカのアイダホ州で、価格を安定させるため、農夫たちは収穫量の10パーセントを市場へ出さないことを決定した。この余剰作物の処分方法については二つの選択肢があった。肥料として



1月、2月にかけての3度の大地震で惨害を被ったエルサルバドルで、家や生活を立て直すために力を合わせる会員と宣教師たち。

写真/ニール・ニューエル



ボリビアで救援物資を配る会員たち。教会は南アメリカ3か国の洪水被災者に援助物資を送った。

畑にまくことと、もう一つは慈善団体に寄付することであった。

アイダホ州のポテト・マネージメント社(The Potato Management Company)に所属するジャガイモ生産者たちは、余っていた7,250トンのジャガイモを飢餓に苦しむ人々へ送るために教会に寄付した。「これはアイダホ州のジャガイモ生産者たちと末日聖徒イエス・キリスト教会による共同作業でした。この働きにより、生命を維持するうえで必要最低限の食料を求めている人々の手に、これらのジャガイモを届けることができました。それにより、彼らはきわめて大きな祝福を得ました」と地域福祉ディレクターのジョセフ・B・ワースリン・ジュニアは語る。

アイダホフォールズ近郊の福祉施設のボランティアたちは、アメリカ中のホームレス保護施設や食糧銀行に送る1,800トンのジャガイモを仕分け、洗い、詰めた。

残る5,450トンは、アイダホ州東部の福祉施設で乾燥処理された。教会はこれらの乾燥処理したジャガイモの一部をエルサルバドルとそのほか最近災害を受けた国家へ送った。残りは、今後の人道的支援活動のために保存された。

洪水の被災者を援助する

南アメリカおよびアフリカが大洪水に見舞われたとき、教会は洪水の被災者たちを援助した。

エクアドル、ペルー、ボリビアでは、2月と3月の集中豪雨が大洪水を引き起こし、数十人が死亡し、数千人の人々が住居を失った。教会は食糧や救急医療セットの入ったコンテナをエクアドルへ2つ、ボリビアへ6つ、ペルーへ7つ

送った。各コンテナには1万8,000キロ余りの物資が詰められた。

東アフリカでも3月の大雨により、マラウィとモザンビークで40万人以上の人々が家を失った。これらの国には、援助物資の入ったコンテナ15個が送られた。

人道的支援活動、飢餓を軽減する パイロン・ピーコック

タイ、バンコク郊外のある小さな村で、二人の人道的支援宣教師が栄養失調を軽減するための活動を援助している。

昨年、タイの福祉労働省は、タイ国内で370万人の子どもたちが栄養失調に苦しんでいると報告した。タイの主食である米には、健全な体と活発な精神を養ううえで不可欠なタンパク質が不足がちである。

国中の学校関係者たちが講じた栄養失調を軽減する最善策は、必要な栄養を供給するためだけでなく、学校の収入源にもなる新しい農産活動を推進することであった。彼らは野菜やきのこの栽培事業をはじめ、魚の産卵や、卵と肉のための鶏やかもの飼育活動などを進めた。これらの学校が夢を実現するうえで唯一欠いていたものは、資金であった。

教会の人道的支援宣教師として奉仕しているジョエル・スベリー長老とキャサリン・スベリー姉妹は、タイのスリン県で幾つかの農産活動の資金を提供するために3,100米ドル(日本円で約39万円)を要請した。要請は承認され、スベリー夫妻は早速活動を開始した。夫妻は、ユタ州ヒーバー東ステーキ、ヒーバー第6ワードに所属する会員である。

例えば、ラムドゥアン小学校では、養

地元教会ユニットによる ウェブサイトの廃止

2001年3月15日、管理監督会は神権指導者にあてて、次の手紙を出した。

「御存じのように教会では公式のインターネットサイトを幾つか開設しています。そこには教会が認可し相互調整した資料で、インターネット上の使用にふさわしいと判断したものが掲載されています。これらのサイトには今後も新たな資料や更新した資料が掲載される予定です。

教会の発展に伴い非常に重要になってくるのは、世界に発信する情報が正確かつ品位のあるもので、教会としての統一見解を示すものであるということです。加えて、第三者の権利を保護し、尊重するために、関連する法律には厳密に従わなければなりません。

以上を考慮に入れたうえで、地元ユニットによるウェブサイトの作成と運営、保守に関する方針が現在作成されており、完成次第、神権指導者に送付されます。大管長会は、その方針が確立されるまでは地元の教会ユニットや組織によるウェブサイトの作成または後援をしないよう要請しています。さらに大管長会は、既存のサイトは廃止すべきであると決議しました。この指示に関して質問のある方は、電話番号1-801-240-3678までお問い合わせください。この件について地元の指導者の皆さんの適切な配慮をお願いいたします。」□

鶏、きのこの野菜の栽培をしようと考えていた。スベリー夫妻は鶏(えさと薬も含む)、きのこの胞子、畑で使用するのはほかのものの購入を援助した。学校給食の献立に入れることができるように、鶏の生産量を増やした。きのこの野菜の畑は、校内に常設されることになった。現在、ラムドゥアンの小さな学校は農産授業の費用をすべて自力で賄えるようになった。

スベリー夫妻はこれまで、スリン県内で同じような30の活動の立ち上げを支援した。こうして現在、子どもたちがさ

テンプル・レディー (Temple Ready) の アップグレードバージョンが公開される

らに健康的で生命を維持するための食べ物を消費できるだけでなく、余剰の生産物を売って得た収益によって学校自体も経済的に自立できるようになった。

スペリー長老は、スペリー姉妹と一緒に感謝の気持ちにあふれる子どもたちを訪ねるときの光景についてこのように話す。「子どもたちは[わたしたちの]周りに集まり、タイの伝統方式に倣ってお祈りをします。心の象徴として、胸のところで両手を合わせ、指先が鼻につくまで腰を曲げるのです。時には、全校生徒(200人から300人ほど)がわたしたちと一緒に外へ出て、自分たちが行っている様々な活動を見せてくれます。」

長老は、タイにおける自身の務めと教会の人的支援活動の善意について、次のように語る。「生涯で最高の経験です。」[チャーチニュース](Church News)の厚意により、2001年2月24日付けの記事より掲載。

ワシントンD.C.ステーク、 ジンバブウェを援助する

3月、アメリカのワシントンD.C.ステークの扶助協会に所属する200人の姉妹とほかの会員たちは、ジンバブウェへ送る人的支援物資を大量に制作するために結集した。このステークでは、キルト、ハンセン病患者用の包帯、ドレス、新生児用品セット、裁縫セット、衛生用品セットを作った。

ジンバブウェ共和国のシンビ・ベケムバコ駐米大使とその夫人であるヘーゼル・ムバコ博士も、奉仕活動の最終日に訪問し、自国で援助の手が多岐に必要とされていることを語った。大使は、国家の人口1,200万人のうち、25パーセントの人々がエイズ患者であることも述べた。その大半は孤児であり、両親を同じ伝染病で亡くしている。

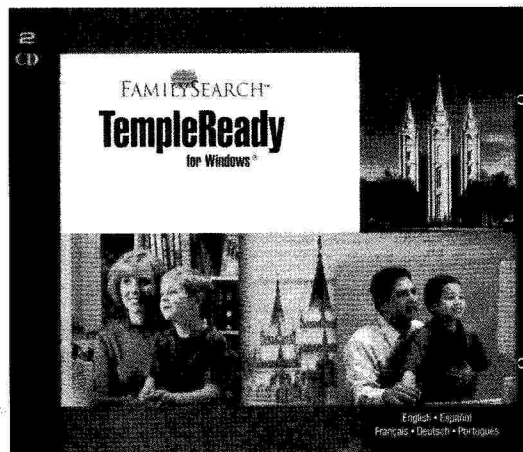
ファミリーサーチ・テンプル・レディー (FamilySearch™ Temple Ready) の新たなバージョンと国際系図索引 (International Genealogical Index, IGIと略称) の改訂版が教会家族歴史センターに公開された。

Windows版の新しいテンプル・レディー2.0のソフトウェアは、会員が先祖の名前を神殿へ提出する準備を助けるものである。IGIは、以前に執行されたすべての儀式的索引である。今回の改訂により、6,200万人の名前と31枚のCD-ROMが加わったことで、膨大な情報を有するこの情報源に収録されている人名は、CD-ROM 60枚以上、3億4,700万人分に上る。テンプル・レディーの前のアップグレードは1997年に行われた。

重複を防ぐため、テンプル・レディーでは提出された人名を、すでに儀式が済んでいる3億4,700万人名と比較する。それから儀式がまだ執行されていない先祖の名前を別のファイルへ保存する。新

しいバージョンでは、ファイルの人名の中に儀式が済んでいるものがあれば、ユーザーが所有する『個人の先祖ファイル』の更新も行う。

ほかにも、このプログラムと家族歴史センターの利用方法に関する説明機能が新たに搭載されている。現在、テンプル・レディーは英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、日本語で利用できる。□



テネシーステーク、キルト作りに 収容者を参加させる

ここ数か月間、合衆国のテネシー州ウォートバーグにあるブラッシーマウンテン更正施設の収容者たちは、毎週土曜日をキルト作りに充てている。毎月8から10枚のキルトが完成し、地域の病院の癌病棟に入院している子どもたちや児童福祉団体に送られる。

この活動は、ブラッシーマウンテンの一人の収容者がテネシー州ノックスビル・クンバーランドステークの指導者に連絡し、施設で奉仕クラブ活動を始め

るのを助けてほしいと要請したことから始まった。ステークの会員たちはキルトの材料を提供し、また収容者たちがキルトを結んだ後に端の始末をする。加えて、クンバーランドステークのリチャード・リッグズ会長の管理の下、施設では礼拝集事も毎週行われている。

収容者たちはこの活動に対して感謝の意を表している。ある収容者の話によれば、多くの者は自分の犯した犯罪を悔いているので、この活動は地域に償いをするための良い手段となっているとのことである。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2001年8月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2001年8月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデ

アに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」2、3ページ「やぐらの上の見はり人」を参照する。

1. 子どもたちに信仰箇条第6節を指導者の後から繰り返させる。教会には、イ

エス・キリストが地上におられた時代と同じように十二使徒がいることを説明する。十二使徒は天父より、世界中でイエス・キリストの特別な証人となるよう召されている人々である。わたしたちはこ

の人々を預言者、聖見者、啓示者として支持している。この人たちは「やぐらの上の見はり人」であり、迫る危険を警告し、わたしたちが義を選ぶよう助けてくれる。紙を12枚の短冊状に切り、宝探しの準備をする。各紙に現在の十二使徒定員会会員の名前を一つずつ書き、また次の紙がどこに隠されているかの手がかりを書く。最後の手がかりは、最近の「リアホナ」の大会特集号へ導くものとする。その号の各十二使徒の話から、子どもたちに関連のある言葉に下線を引いておく。初等協会の前に、最初の手がかり以外すべてを隠す。子どもたちを少人数のグループに分ける。最初のグループが手がかりの一つを探せるように、最初の手がかりを読む。そのグループが手がかりを見つけたら、それを次のグループに渡し、次の手がかりを探させる。そしてそれを3番目のグループに渡す。すべてのグループが紙を見つけ、最後のグループが機関誌を見つけるまで繰り返す。各グループにそれぞれ下線の付いた十二使徒の言葉を読ませる。その勧告に従うために何ができるか話させる。イエス・キリストの特別な証人に対する自分の証を述べる。

2. 預言者に関するクイズを用意する。次のような質問をする。最初の預言者はだれか(アダム)。今日の預言者である教会の大管長はだれか(ゴードン・B・ヒンクレー大管長)。旧約聖書の預言者の

名前を挙げなさい。モルモン書の預言者の名前を挙げなさい。信仰箇条はだれが書いたか(ジョセフ・スミス)など。質問した預言者の絵や写真かその名前を書いた紙を掲示する。子どもたちがそれぞれの質問に答えるとき、その預言者の絵または写真か名前を高く挙げさせる。絵あるいは写真が入手できない場合、その預言者の教えが記されている聖典を高く挙げさせる。それらの預言者はそれぞれその時代の人々に救い主が彼らに望まれていることをするよう勧告した。ジョセフ・スミスが新聞記者に、教会が信じていることについて尋ねられたときの経緯を話す。その回答としてジョセフは手紙を書いた。そして教会の基本的な信仰を13の項目にまとめた。預言者の書いた一覧表が信仰箇条となった。子どもたちに信仰箇条第13節をともに繰り返させる。ジョセフ・スミスは新約聖書の使徒パウロの教えを用いた。パウロは次のように書いている。「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」(ピリピ4:8参照)信仰箇条第13節の教えに従うために毎日することを子どもたちに言わせるか、パントマイムで表現させる。(例——ふさわしいテレビ番組だけを見る、良い本を読む、義になかった思いや行動を動機づける音楽を聴く、

など。)

3. 各クラスにそれぞれポスター大の紙を配る。ポスターの下の部分に預言者がわたしたちにするようにと言っていることを書く。その教えに従うためにできることを、各クラスに絵で表現させる。活動の間、賛美歌や歌のテープを流すか、ピアニストに初等協会の歌を弾いてもらう。各クラスに自分たちの絵の説明をさせ、預言者に従うために何をするか話させる。時間が許せば、クラスで話し合った教えを補足する歌を選ぶ。初等協会の部屋にそのポスターを飾る。

4. 「正しくあれ」を歌う(『子供の歌集』81)。正しくあるというのはどういう意味か(忠実で、状況にかかわらず義になかったことを行う)。わたしたちの預言者はわたしたちにイエス・キリストの教えに忠実であることを望んでいると説明する。再び全員にその歌を歌わせる。それから、「正しくあれ」とはどういう意味か尋ねる。(正しいことを行う)。指導者がその歌をもう一度歌う間、お手玉か何か小さい物を回す。音楽指導者が「ストップ」のサインを出したら、お手玉を手にしている子どもに義を行うために何をしてきたか、または何ができるかを言わせる。必要があれば、子どもを助ける。何回か繰り返す。預言者に従い、救い主の教えに忠実であれば、大きな祝福を受けることを証する。□

●ローカル・ニュース

「神の子です」—全国1万4,000人に届けたメッセージ

フリガム・ヤング大学 ザ・ヤング・アンバサダーズ、日本縦断ツアーを成功裡に終える

フリガム・ヤング大学(BYU)のザ・ヤング・アンバサダーズは、当初の予定どおり、去る5月8日から29日まで3週間にわたるツアーの日程を無事に終え、日本を離れた。日本での行程に同行した地域広報ディレクターのノーマン・D・シヤムウェイ長老は「地元の方に

とっってもBYUにとっってもこのツアーは大成功でした」と語る。

福岡から入国した際に通貨交換の時間もなかったほどのハードスケジュールで全国を駆け抜けた公演旅行の陰には、そのエキサイティングな舞台にも匹敵する数々のエピソードがあった。

熊本では、市長への表敬訪問の橋渡しに、市長の元秘書であった一人の姉妹が尽力した。彼女はここ10年ほど教会に足を運ぶことがなかったが、熊本ステークの田代会長の依頼で一行の訪問実現を打診することとなった。彼女はすばらしい働きをし、訪問予定の調整のみな



山下和彦長老

日本から新たに召された地域幹部 去

る3月31日に開かれた第171回年次総大会、土曜午後の部会で、日本から山下和彦長老が七十人第三定員会会員、地域幹部七十人として支持された。山下長老は1953年東京生まれ、1971年にバプテスマを受け、1980年に田代田鶴子姉妹と結婚、3男3女の父親である。教会においてはこれまで監督、ステーク高等評議員、ステーク伝道部長、ステーク会長などの責任を果たしてきた。現在は福岡大学スポーツ科学部の教授として勤務している。福岡県在住。□

らず、後日、田代会長らがお礼に市役所を訪問した際、市の責任ある立場の人々に対し、教会について雄弁に紹介して彼らの理解を深めてくれたのだった。

ザ・ヤング・アンバサダーズが熊本を訪れた5月10日、あいにく市長は公務で不在だったが、市長の強い意向を受けて国際交流課の全員と国際交流会館の館長らが出迎えた。訪問の最後に歌われた「神の子です」を聴いたとき、市の通訳者の女性は心を深く動かされて涙を流し、しばらく通訳の言葉が出ないほどだったという。

この賛美歌は各地で大きな感動を呼び起こした。岐阜市の県立加納高等学校音楽科を訪問した際、交流が終わって76人の生徒たちと一行は記念写真を撮ることになった。一同が入り交じって並んだとき、その中から突然「神の子です」の歌声が上がった。生徒たちの間に声にならない思いが満ちあふれ、何人かは大粒の涙を流して聴き入っていた。

また、高齢者や障害者のための福祉施設も数多く訪問した。国立大阪教育大学付属養護学校では、65人の知的障害を持つ子どもたちの前で、音楽療法と授業の一環としてパフォーマンスを行った。子どもたちは音楽に全身で喜びを表し、ともに歌い、中にはメンバーに交じって踊る子どももあった。後に子どもたちはその日の感想をいきいきとした絵や作文また英語でつづり、それらは感謝のしるしとして離日直前にランディ・ブース音楽監督のもとへ届けられたのだった。

大阪では教会員の、また金沢では一般の日本の家庭にホームステイして日本人の生活にも接した。大阪滞在はちょうど月曜日にかかったため、メンバーはそ

れぞれの宿泊先でホストファミリーと家庭の夕べを共にした。お互い片言の英語と日本語でのやり取りでも、すぐに気心は通じたという。日本式の宿ではふとんに枕を並べて眠り、大浴場での入浴体験も満喫した。

仙台市では宮城県知事の浅野史郎氏を表敬訪問した。氏は以前からミュージカルのファンだと語り、自ら「ウェストサイド物語」のナンバーを数節口ずさんだ。それにこたえたメンバーらが即座にウェストサイド物語から「Tonight」を歌うなど心温まる交流があり、20分の会見予定は40分にも及んだ。

その晩の仙台公演は1,000人の会場がほぼ満席になる中、教会員の友人から会社の上司に至るまで400人ほどの一般の人々が足を運んだ。東北インターナショナルスクールの校長であり、メノー派プロテスタントの熱心な信者であるメイナード・ユッツィ博士は、「今夜この公演に、神様の御霊を感じました」と仙台伝道部のグレイムズ部長夫人に語ったという。グレイムズ部長は仙台公演を評して、

「400人の方々に教会に招き、御霊を感じていただいたと思えば、宣教師のおよそ10万時間分の働きにも匹敵します。これはまさに伝道部長の夢であり、宣教師にとっての奇跡です」と語った。

全国14都市における、学校や福祉施設の訪問、公演、ファイヤサイドなどを通してザ・ヤング・アンバサダーズに接した人の数は延べ1万4,600人余にも達した。熊本日々新聞、北国新聞、岐阜新聞、東奥日報など多数の地元紙に時にカラー写真入りで報道されたほか、度々テレビニュースでも採り上げられ、日本の会員たちにとっても、誇りをもって周りの人々に教会を紹介する良い機会となった。地域会長会のL・エドワード・ブラウン会長は、「この公演は、教会員とまた教会員でない人々に、1970年の大阪万博以来、最も影響を与えてくれました」と語った。

時に単調になりがちな食事に苦勞したり、舞台上のどや足を痛めるメンバーもあつたりしたが、持ち前の明るさでおおむね元気にハードな日程をこなした若き大使たちは、「日本が大好きになりました。日本の人々に感謝の心を伝えてほしい」とシャムウェイ長老夫妻に口々に語っていたという。

なお、公演にかかった経費のうち、渡航費は学生たちが自己負担し、日本国内の交通費はBYUが助成した。公演会場費やメンバーの滞在費は公演の入場料で賄われた。

毎年世界中を駆け巡り、「親善大使」を務めるBYUザ・ヤング・アンバサダーズ、来年は中国と香港を訪問する予定である。□



ザ・ヤング・アンバサダーズ、熊本城をバックにして。

あなたの人生 お聞かせください ～それぞれの信仰史～

クロニクル

日本伝道100年を記念するこの年、日本の教会歴史に対する関心が高まっています。しかし、わたしたちの教会史は、福音に生きてきた一人一人の信仰によって織りなされてきました。そうしたもう一つの視座から、ここでは、信仰の個人史をご紹介します。

神殿宣教師

中條 節生長老
喜世子姉妹

東京神殿で神殿宣教師として現在奉仕している中條節生長老は、昭和12年に生まれました。「善い両親によってわたしの信仰の種がまかれました」と中條長老はその幸福な幼年期を振り返ります。

「わたしは3歳から小学3年生の途中まで、満州国の新京に住んでいました。わたしの父は音楽の教師でした。仕事柄、美しいもの、また草花、小鳥、犬などの生物には憧れの強い人で、わたしたち(2歳違いの兄一人、妹一人)が赤ん坊のころ、ぐずるとバイオリンでブラームスの子守歌を弾き寝かしつけてくれる、そんな心優しい父でした。

母は庄屋の長女に生まれました。母方の祖父は温厚篤実な人柄で、終戦後、満州から引き揚げ、物資も食料もまったくないころ、リュックサックいっぱい詰めた両手にまで抱えた食料品を運んで来てくれました。家族だけでなく、貧しい人々にも等しく物を分かち与えていたようです。母は祖父の気質を受け継いでいました。

母が娘のころ、祖父と畑へ行ったときの話です。母は一人で小さな谷川で遊んでいて、ハンカチを落とし、拾おうとして谷川に落ち込んでしまいました。遠くの畑で働いていた村人が、その様子をたまたま見かけ、祖父と駆けつけると、母はきよんとした顔つきで川岸に座っていました。川の大きさの割には水深があり急流なので、二人ははてっきり、母が流されてしまったかと思っていました。

母の話はこうでした。「水中に落ちたとき、だれかが手のひらを階段のようにして一段一段水面の方へ上げてくれたので、その手のひらに乗って川から上がることができたのだよ。それはきっと神様だった。」母は積極的な人で、いつも希望をもって神様に頼っていたようです。」

母の祈り——満州からの引き揚げ

中條長老の少年期は、しかし敗戦と



中條長老の子ども時代。両親と兄妹とともに。右手前が中條兄弟。満州国の新京にて。写真/中條家族の厚意により掲載。

母はよく祈る人でした。
異国の麦畑で夕日を受けながら祈る
母の横顔は、今もわたしの宝です。

いう激動の時代の波に翻弄された過酷なものでした。「新京は、その当時の日本の建築技術の粋を結集して中国に造られた実に美しい街でした。ところが何一つ不自由のない豊かな生活の中で、突然B29が飛来し、空襲を受けるようになったのです。ある空襲が激しくなった日の午後(終戦の数日前)、ロシア兵が侵攻して来るとのことで、疎開が始まりました。わたしたちは教職員の婦女子だけで一つのグループを作り、まったく着の身着のまま新京駅から汽車に乗せられました。父を含めた男性は全員、家や街を守るためにとどまり、そのためにグループリーダーは男性ただ一人でした。どれくらい汽車に乗っていたのか、着いた所は清津で、そこの国民学校に避難中に日本の敗戦を知りました。

前日まで食料品などを提供してくれていた現地の人々が、鋤、鎌、竹やりなどを

持って、『日本は神の国と言っていたのに戦争に負けた』と、口々に叫びながらわたしたちのいる教室の周りを取り囲んだときは、身の危険を感じました。

清津から鎮南浦を経由して、38度線へと向かうことになりました。この間、昼間は麦畑などに隠れ、夜間はそれぞれの家族が離れ離れにならないようにお互いロープで身体を結び合せて、腕時計や指輪などで買収した現地の人に案内してもらい、川に沿って南下しました。報酬を巡るトラブルから、案内人がほかのグループの男性を刀で斬り殺すのも目撃しました。

食べ物ほとんどなく、乳飲み子は皆死に、多くの死者が続出します。ただ手で穴を掘り、埋葬するというより埋めるだけしかできません。そのころは皆涙も涸れ果てていました。始め30人ぐらいいた同じ年ごろの子どもたちも過労と栄養失調で次々と死亡し、わたしたちきょうだい3人を含め10数人になりました。そのころ、母は金歯を1本抜いて朝鮮もち1個と交換し、わたしたち3人に食べさせてくれました。

雨上がりに大根畑の大根を盗んでかじり、また幸い豆腐工場を見つけ、闇に紛れて豆腐のかすを取って来て食べました。道ばたのあかざもよく採って食べました。(今も野道や畑の道であかざに出会うと思いが鮮やかによみがえります。)はるか遠くの山麓にはソ連軍や北鮮軍のジープが時折走って行くのが見え、トラックの音が近づき、麦畑に伏せることもしばしばでした。

母はよく祈る人でした。朝鮮半島を南下中、しばしば母の祈る姿を見かけました。異国の麦畑で夕日を受けながら祈るまだ若かった母の横顔は、幼心にも神々しく思われました。その思い出は今もわたしの宝です。

ようやく38度線を渡り現在の韓国に入ると、米兵からはパン、現地の人から

は生いもなどが提供され、生きていることを実感しました。』

御霊による証——宣教師との出会い

昭和17年生まれの中條喜世子姉妹は、子どものころの思い出をこう語ります。「わたしは未熟児で、保育器もないその時代、文字どおり祖母の『ふところ』に抱かれて生き延びました。物心ついたころから、お正月になると、朝4時ごろに家族全員起きて晴着に着替え、まだ目覚めぬ街を新しい下駄の音を響かせ、『礼拝』に行っていました。行く先は祖父母が熱心に信じていた宗教です。わたしは何かにつけ祖母に連れられてその教会の行事の度に行きました。朝晩仏前に手を合わせるなどを通して、子どものころから人間以上の特別なお方の存在を教えられて育ちました。』

中條節生長老と喜世子姉妹は、昭和40年に出会い、結婚しました。節生長老は多感な青年時代を過ごし、亡き父親の影響を受けてか、高校の英語教師となりました。子どもも生まれ、平凡ながら幸福で多忙な家庭生活を送っていました。そこへ「変な外人」が突然の変化を携えて来たのです。昭和46(1971)年12月、クリスマスも間近に迫った寒い夜でした。

「宣教師たちはその日、だれからも家に入れてもらえず、門限も迫り、主に『あと1軒だけ訪問します。どうぞ扉を開けて話を聞いてくれますように……』と、そばの中学校の正門の前で祈ってから我が家に来たのだと後で聞きました。」この最後の訪問が、後に延岡支部初の家族の改宗へとつながるとはそのとき知る由もないことでした。英語教師であった中條長老は、外国人の客を喜んで迎え入れました。

改宗に至る特別な経験を、喜世子姉妹はこう記しています。「彼らがやって来ると新風が送り込まれ、さわやかで、何か昔聞いたことがあるような、パズルが解けていくようなスリルや快感がありました。いつの間にかわたしは熱心に話

を聞いていました。

彼らはほんとうに変な外人でした。お茶、コーヒー、紅茶をおいしく入れても飲みませんでした。若いけれど、とても霊的で紳士的で、成熟した人格の持ち主であり、その模範はすばらしいものでした。

わたしは『彼らの言うことがほんとうなら無視してはいけない』と思うようになり、子どものころに行っていた『教会』へ行き、祈ってみました。……『祖父母はなぜこんな所へ熱心に通ったのだろう。ここには何もない。』空白な実感を抱え、宣教師の勧める祈りをする決心をしました。

子どもや夫から離れて独りになれる時間は限られていました。『天のお父様』と呼びかけた途端、悲しくもないのに涙があふれ、後から後から流れ落ちました。何かしら胸のつかえが溶けていくようでした。その経験は気恥ずかしくてだれにも話せませんでした。

バプテスマの話が出たころ、宣教師は地方部大会にわたしたちを誘いました。わたしはひそかに断食し、『神様、あなたがほんとうにいらっしゃるなら、この大会で答えを下さい』と願い、話者の話に耳を澄ませました。1人、2人、3人と話は進み、最後の方では疲れて眠くなってしまいました。

どのくらいだったのでしょうか。突然何か胸の中に飛び込んで来たようなショックを受け、寒くもないのに体が震え始めました。耳に響いてくる言葉がありました。『信仰の種を心の中に植えなさい。そして養い育てなさい……。』今思えばアルマ書第32章です。

さらに閉会の賛美歌『主のみたまは火のごと燃え』の歌声が会場にあふれると、涙がとめどなく流れ出しました。宣教師は驚いてのぞき込みます。いったいどうしたのでしょうか。閉会の後、当時の日本西部伝道部の部長であった渡辺 驪兄弟に会いました。『昔お会いしたことがありますね』と言われ、初対面なのに妙に懐かしく、温かい気持ちに包まれ、また涙しました。人々との出会いも、大会の様子も何と不思議なことばかりだったでしょう。これが神様のお答えであると納得

しました。御霊による証であったと分かったのはかなり後のことです。

ついに1972年3月12日に、わたしたちは延岡支部で第1号の家族の改宗者となりました。』

導きの中で

中條家族の信仰生活はしかし常に順風満帆とはいきませんでした。中條長老が一時教会を遠ざかったこともありましたが。にもかかわらず困難の中で家族は訓練され養いを受けました。喜世子姉妹はこう振り返ります。「いつのころからか、

我慢することと忍耐することの違いを知りました。主は小さな奇跡を次々に与えてくださいました。

自分の霊性を高めるためと、夫が教会に戻るように毎週安息日に断食し祈り始めました。教会での楽しいことを話題にし、心が沈みそうになると断食し祈り、賛美歌を歌って心の舞台の中から悪いものを追い出しました。それでもだめなときは神様の祝福を受けました。

このころから我慢することと忍耐することの違いを無意識のうちに実践したように思います。これは主の導きにほかならないのです。主はわたしたちを愛してください、小さな奇跡を次々に与えてくださいました。毎週月曜日の家庭の夕べが実現し、父親の存在と価値が大きくなり、宣教師は食事を共にし、家族で教会の活動に参加し、

「天のお父様」と呼びかけた途端、悲しくもないのに涙があふれ、後から後から流れ落ちました





中條家族のパブテスマ。家族に福音を伝えた
プゼル長老、グローテ長老（左から）とともに。
写真／中條家族の厚意により掲載。

系図探求の旅もできました。

夫は教会に戻り、静かに忍耐強く勇氣をもって聖めを受けました。そういう彼に心から感謝し、誇りに思っています。1年後、いろいろな召しが与えられ、夫は目覚ましく変化成長していきました。共通の話題と価値観、目的が家族と夫婦のきずなを強め、そこに平安と愛がありました。指導者に従い、忠実に責任を果たしている夫を見る喜びは大きく、心から頼もしく感じました。』

1982年12月末、中條家族は東京神殿に参入し、年の始めに結び固めを受けました。10年分の祝福がまとめてやって来たようでした。「ガーメントの暖かさが全身を包み、まるで宇宙に浮いているような気分でしたが、聖約の重さは心にずっしりと残りました。そして夫の柔和さまでわたしが近づくのに、10年の歳月が必要だったのだと感じました。主は、家族で主の贖いの尊さを学び、信仰を試される機会を与えてくださったのです。』

中條長老は教会の責任を通して得た証を語ります。「延岡支部で支部長の召しを受けていたときのことです。当時、宮崎の県北に位置する延岡支部は熊本地方部に所属し、地方部はステーキになることを目指していました。毎週のように熊本支部に召集され、慌ただしい信仰生活でした。熊本までは高千穂を山越えて片道約4時間半の行程です。その日も熊本からの帰り道、夜10時過ぎに教会員を訪ね、話を聞き、神権の祝福をする約束がありました。その責任を終えほっとして玄関に立ち、彼女にいとまごいの握手をしているときです。今からすぐにある年配の家族を訪問するよう

に、との強い聖霊の導きを感じました。もう夜も遅く、この時間に訪ねるのは失礼だと思ってやめようとしたのですが、再び、今すぐに訪ねるようにと導きを受けました。わたしがその家を訪ね玄関の呼び鈴を押すと、家の方が出て来られ、『今遅い時間だけど支部長さんに来てもらって、どうしても一緒に話し合ってもらいたいことがあったので、電話口に立ってダイヤルを回すところでした。どうして分かりましたか』とびっくりされました。

3人で話し合いは明け方近くまで続きました。夫婦間に離婚しかねない大問題が生じていたのです。聖霊の導きとイエス・キリストの慈愛により、また奥様の寛容な愛と赦しにより、問題は徐々に解決されていきました。』中條長老にとっては、聖文が真実であることを身をもって知る機会でした。「聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。』（2ニ一ファイ32：5）

その後、喜世子姉妹のお母さんが80歳で教会の教えに改宗されたり、お子さんの伝道や結婚と様々な出来事と祝福の中で月日は流れました。

生死の境で

「定年退職を3年後に控えた平成6年5月の定期検診で胃癌の可能性がありと診断され、胃カメラを飲むことになりました。その前夜2階の寝室にさし込む月光はこうこうとして明るく、先に眠り込んだ妻の横顔を眺めながら、次の短歌を詠みました。

『潰瘍で 明日胃カメラを 飲む我の
左手抱きて 妻ねむりいぬ』

検査の結果、胃癌が見つかり、すぐに入院し手術することになりました。病果はわずかで、手術も無事に終わったので、3か月もすれば復職し、定年まで働けると考えていました。』中條長老は、その3週間後、生死の境をさまようことになるとは夢にも思わなかったのです。

手術の結果は縫合不全でした。1週間後に再手術し、3分の1残っていた胃も結局は全摘することになります。縫合不全による合併症はまったくひどいものでした。40度以上の熱が続き、胸水がた

まり、無気肺（現在も左の肺は2分の1近く水がたまったまま固定）、肺炎、抗生物質の副作用による血液の溶解、肝臓の細胞破壊、カリウムによる心臓の一時停止が3回、敗血症、黄疸症状、腹膜炎など次々に病気を併発。また自身自身の消化液が内臓に漏れ、動脈まで溶けて大量出血、10,000CCの輸血……。病状は予断を許さず一進一退でした。

「ある日気がつくと、ベッドに横たわったまま、病室の天井すれすれを浮遊していました。びっくりして見下ろすと、4人部屋の3人のベッドは床に着いており、一方の窓側、わたしのベッドのあった場所は空っぽでした。『これは大変だ、何とかしなくては……』と強く意識したとき、わたしのベッドがすうっと床に降りました。そしてベッドがごとんと着地したのを感じ、胸をなで下ろしたことがありました。（その後同室の3人の方々は他界されました。』

そのとき、一瞬、時が止まったようでした。

背後からわたしの肩に手が置かれ
何とも言えない心の安らぎを得たのです。

喜世子姉妹は当時の様子をこう記しています。「わたしは夫が日に日に衰えていく様子を見て、担当医や教授や看護婦さんの言動に一喜一憂する日々でした。しかしだれ一人として『大丈夫です』と言う人はおらず、皆首を横に振るばかりでした。その間彼は神権の祝福を何度も受けました。わたしが落ち着いて施されている治療を見てみると、傷口の消毒と



支部長時代の中條長老と家族。
当時の福岡伝道部の清水部長夫妻とともに。
写真／中條家族の厚意により掲載。

「お父さん、またわたしに
神権の祝福をして……。」

この妻の言葉は
幼い日の母の祈る姿とともに
わたしの生涯で最も貴重な宝です。

点滴の栄養剤だけで、傷口は抵抗力の落ちた人に出る緑膿菌が約20センチ以上開腹した部分についています。そのときにはっと思い当たりました。死ぬのを待っているのだ！ このままではいけない、現在頼るのは医者ではない、彼の命の命数を御存じであり、肉体を再組織される力を持たれた天の御父なのだ、と。『ごめんなさい。祈っていたのに心底からの祈りではありませんでした』と気づかせていただきました。それからは主の憐れみを授けられるようにと、へりくだり、朝には『夕方までの命を下さい』、夕方には『朝目覚めるまでの命を……』と請い求めて、ピンセットでつまみ上げるように、その日その日を精いっぱい心を注いで過ごしました。教会の方々も、毎週安息日にひざまずいて祈ってくださいたり、個人的にもお祈りをしてくださいました。もちろん神殿にも名前を入れていただきました。』

主は生きておられる

緑膿菌はなかなか消えず、管を通して洗浄するために開腹したままの状態が約4か月続きました。視力は弱り、目を開けることもできず、室内で真夜中でもサングラスをかけていました。そのころは肉体的な痛みと精神的な苦痛でひとときもじっとしていることができず、悶々とする毎日でした。

「忍耐強さを自認するわたしも、その苦しさは限度をはるかに超えていました。何週間も脂汗をじっとりかきながら、ほとんど不眠のまま(わたしにはまったくそう思われたのです)夜明けを迎えました。主から救っていただくために、苦痛のまっただ中であって、打ち砕かれた心と悔いる霊をほんのわずかでも持てるようにとひたすら祈り続けました。その夜も苦闘のあまりいたたまれず、上半身をベッドと病室の壁にもたせかけ、イエス様の名を呼び続けていました。

そのとき、一瞬、時が止まったように思われました。背後からわたしの右肩に優しくそっと手が置かれ、何とも言いようのない心の安らぎを得たのです。時間にしてわずか数秒間、わたしの闘病生活でただ一度きりの経験でした。しかし、

この出来事によってわたしは、主への証を強め、後に続く様々な肉体的試練に耐える力を得たのです。」

「残暑の厳しいある日の午後、相変わらずベッドにひとときもじっとしていることができず、医師に洗浄の管を外してもらい、点滴の管をぶら下げて医大のキャンパスに出ました。外に出たものの、衰弱したわたしの体に日差しはあまりにも強く、サングラスをかけていても目も開けられず、ちょっとした凸凹道でも開腹している箇所がずきんずきんとうずきました。小柄な妻が、看護疲れをおして、力の限り車いすを押してくれます。坂道をはあはあ言いながら押してくれる彼女に感謝しつつ、『絶対に生きるのだ、絶対に生きるのだ』と心の中で呼び続けました。

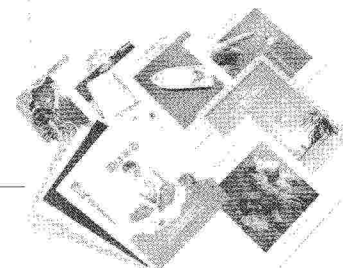
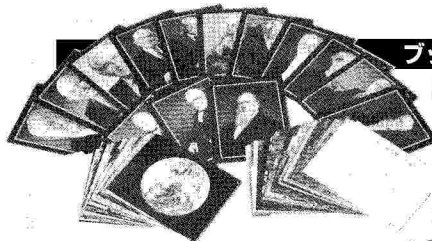
大木の木陰に来たとき、立ち止まりしばらく話した後(そのころわたしは人の話を聞くのも苦痛でほとんど話はせず、一方的に妻が話すことが多かったのです)、彼女はふいに『お父さん、わたしに神権の祝福をして……』と言いました。驚きました。わたしの最悪の体調をいちばんよく知っているはずの妻の口から出た言葉だったからです。

わたしは言葉を述べるために、自分の肉体と精神を集中させるので精いっぱいでした。数分間、言葉にならない言葉で、愛する妻に心からの祝福を施しました。……妻がわたしに言葉を与えてくださり、二人とも涙に暮れました。

主を信頼し、神権の力を尊び、わたしが再び生きるために、彼女の口から出た言葉『お父さん、またわたしに神権の祝福をして……』は、幼い日に見た母の祈る姿とともに、わたしのこの世の生涯で最も貴重な宝となっています。真っ黒な先の見えないトンネルでも、必ず明るい出口があるように、わたしたちの人生の試練にも必ず終わりが来て祝福が待っていることを証します。』

喜世子姉妹はその後の中條長老についてこう話しています。「多くの方々の祈りは、天の力を彼に授けて、奇跡は訪れ、8か月後、夫は自宅に戻ることができました。体重は24キロ減り、復戦はかなわず、今もお腹膜は破れ、筋肉は裂け、その間に腸がはまり込んだ状態のまま生かされています。食後の苦痛は死ぬまで続くでしょう。しかし体力は落ちたものの、彼の主に対する証は強くなっています。家族は一致し、三男も伝道に召され、主の軍勢の一人として働いてくれました。神様のなされることは『すべては良し』なのだと思つづく思います。夫は聖めを受けました。苦しみはあっても今日も主により生かされています。』

その後中條夫妻は神殿宣教師として東京神殿に召されました。「わたしの命を、もろもろの苦難から救われた主は生きておられると証し(サムエル下4:29)主の贖いの血の一滴一滴により癒され、生かされたと語る中條夫妻は、「死ぬならば、彼らはわたしのために死ぬのであり、生きるならば、わたしのために生きるのである」の言葉のとおり(教義と聖約42:44)、命と体力の限りを尽くして今日も主に仕えているのです。□



ブックセンターだより

『福音の視覚資料セット』補遺

カタログ番号34740300 レターサイズ 56枚 800円

●既刊の『福音の視覚資料セット』(カタログ番号34730300, 104枚)をいっそう充実させるために追加された56枚の視覚資料セット。従来の旧約聖書・新約聖書・モルモン書・教会歴史…一般の5分野ごとに資料が追加され、また新たに「福音の実践」分野が設けられました。それぞれの視覚資料の裏には解説と参照聖句が記されています。既刊と合わせて6分野160枚すべてを網羅した索引と、第6分野のインデックス付き。

『モルモンメッセージポスター』第2集

カタログ番号 35861 300 レターサイズ 12枚 500円

●1990年以降の『リアホナ』に掲載された最近のモルモンメッセージポスター選集です。家庭や教会で福音を学ぶ際にも活用できます。

新刊
紹介

写真で見る 日本教会100年史

第10回



アメリカ上院の軍事委員長であったトーマスは、皇居への爆撃を阻止しただけではなく、京都や奈良への空爆禁止を大統領に提言したことで有名である。

元年)の時代の^{へんせん}変遷とともに日本人が明治天皇に寄せていた国民感情をつぶさに体感したこと、また乃木大将夫妻の殉死事件などで、様々な日本人の思いに触れた経験も影響していた。

終戦後、太平洋諸島地域の総督として再び日本の土を踏んだトーマスは、まず靖国神社を訪れている。宣教師のときに感じていた日本人の国民感情を配慮し、キリスト教徒として信じるころは違っているが、礼を尽くす意味で赴いているのである。

●トーマスは自分の娘に「千代子」と名付けるほど日本を愛していた。また、トーマス夫人は度々着物をきれいに着こなしていたようである。そうした日本国民の心情を大



和装のトーマス夫人。日本で生まれた娘に「千代子」と命名し、日本文化に親しんでいたトーマス夫妻は、生涯に渡って日本との関係を大切にしていた。

切にし、日本を愛する気持ちが、靖国神社訪問という行動に表れたと思われる。終戦直後に敗戦国日本を訪れたアメリカの要人エルバート・D・トーマスは、日本人の心情を深く察していた数少ないアメリカ人であった。□

日々の恵み

分かち合いたい、とレポートを寄せてくれました。

「親愛なる日本のお友達へ

この夏、妹のソフィーとわたしは開拓者の生活を体験しました。こうした経験ができるのはとてもラッキーね、と母は言います。わたしは、このすばらしい霊的な経験を遠く離れた日本のお友達と分かち合いたいと思います。

第1日、ステーキの参加者全員が開拓者の格好をして教会に集まりました。女の子は長い丈のシャツにエプロン、ブルマー(訳注—足首でくられ膨らんだズボン)、長そでのシャツ、そしてボンネット(訳注—開拓者の女性がかぶった

帽子)。男の子は帽子、長そでのシャツに長ズボン。

わたしたちはそれぞれ開拓者の家族としてグループ分けされ(時にはまったく知らない人同士が家族になったりもします)、実際にエドワード・マーティン手車隊にいた人の名前を参加者全員が与えられました。わたしに与えられた名前はマリー・ソフィア・ラーソン、10歳の少女でした。

2000年6月28日午前6時45分、わたしたちはバスに荷物を積んで、4時間の道のりをワイオミング州にあるマーティンズ・コーブに向かいました。到着してから家族の旗作りに取りかかり、それか

海外から 開拓者の 足跡をたどって

アメリカのキャンプ活動報告

ユキ・アン・バリッシュ姉妹/ユタ州バーナル在住

ユキ・アン・バリッシュ姉妹は、ユタ州バーナルに住む高校3年生で、お母さんは日本人です。2000年の夏、バリッシュ姉妹の所属するアシュリーステークでは、開拓者の生活を体験するキャンプが行われました。彼女は遠く母親の国に住む友人たちと特別な経験を

日々の恵み

ら博物館を回りました。昼食の後は手車に荷物をすべて載せ、キャンプ地までの3マイル(約4.8キロ)を手車を押したり引いたりしながら進みました。気温は高く、わたしたちは長そでを着ていましたが何とかたどり着くことができました。

到着後わたしたちはキャンプを設営し、家族で集いました。夕食後、話者が来て話をしました。お話はマーティン手車隊の出来事に触れていました。冬の間どれほど苦しんだか、またどのように家族を亡くしていったか。しかしマーティン手車隊の隊員は止まったり、信仰が弱くなったりすることはありませんでした。彼らは歩み続けたのです。彼らの強い信仰と主への信頼に驚かされました。

第2日、わたしたちは荷物をまとめて12マイル(約19.2キロ)ほど歩きました。マーティンズ・コーブ(訳注—マーティン手車隊が遭難した際に風雪から避難した、馬蹄形の丘に囲まれた窪地)を通り過ぎたのです。そこには話者がいて開拓者について話してくれました。亡くなった人々の、雪で凍てついた遺体を横たえた場所を通ったときは、何も話をしないように言われました。話者たちは亡くなった開拓者のことや、凍りついた地面のせいで遺体を埋められず、丘の反対側の斜面の雪の上に横たえたことを話してくれました。おおかみにとられた遺体が、次の日に姿形もなくなっているのを見ると、開拓者たちは遺体を見ずに済むことに喜びを感じたそうです。丘の頂上を通り過ぎるとき、その地で亡くなった人々の名前を与えられた参加者たちは「死亡」という札を付けられました。わたしはその中の一人で、そこを通り過ぎたとき御霊を強く感じることができました。愛する者を亡くすことの痛みを感じました。わたしはそのとき初めて開拓者たちがどれほどのものを経験したか、その一端を知ることができました。

わたしたちは手車を押して川の中も通りました。川の水は大変気持ちのいいものでしたが、巨大な水の固まりが浮いていた当時の川の絵を見せられたときにはショックを受けました。水は冷たく、濡れた衣服を乾かすものも、体を暖めるための着替えもなかったことでしょう。

その後、女の子たちは手車で丘を上りキャンプまでのほとんどの道のりを押して行くように言われました。男の子たちはモルモン大隊に招集されたのです。開拓者の女性が、多くの人が思うよりもたくさんのことを行ったことに気づかされました。当時の女性は強く、彼女たちは多くのことに喜んで取り組みました。

キャンプに戻ったとき、ポニーエクスプレス(訳注—開拓者時代にミズーリ州とカリフォルニア州をわずか10日で結んだ早馬による郵便。ここではそれを再現したもの)が郵便を配達してくれ、各参加者は両親と家族からの手紙を受け取りました。個別に手紙を読み、返事を書く時間が与えられました。皆、家族からの手紙にとっても興奮していました。体も足も長時間の歩行でたいそう痛み、水脹れができた人も多くいました。全員日に焼けていましたが、まったく気になりません。すばらしい一日でした。

第3日は、キャンプ地を清掃して証会を行いました。御霊はとても強く、わたしはその場を離れたくありませんでした。日本の皆さんにもこのような経験をやる機会があればと思います。わたしの証を分かち合いたいと思います。わたしはこの教会が真実であることを知っています。神様は生きています。ジョセフ・スミスは真実の預言者であり、今日も生ける預言者がわたしたちを導くために与えら



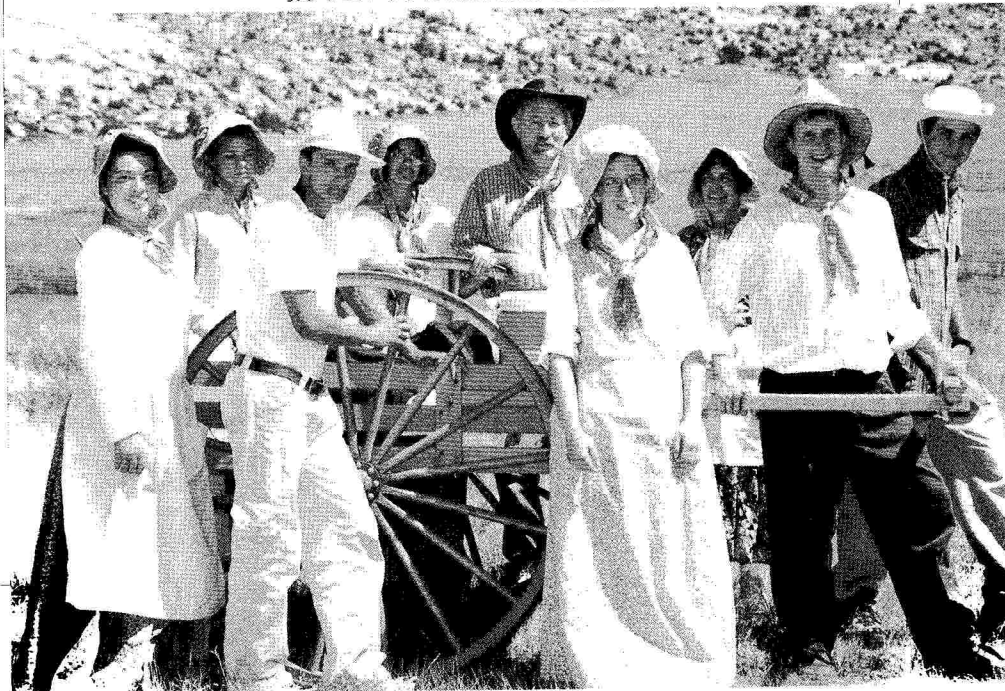
キャンプサイトにて。右側がソフィー・バリッシュ姉妹。背後に見えるのがマーティンズ・コーブ。

れていることを知っています。開拓者たちが道を突き進み、わたしたちが今日受け継いでいるものをもたらせてくれたことにとても感謝しています。ここマーティンズ・コーブを訪れ御霊を感じたというすばらしい経験は、開拓者たちの働きなくしては考えられません。

わたしたちは選ばれた世代だということ、たとえどんな困難に出遭ってもそれを乗り越えられることを心から証します。すべての祝福、ことに愛する家族がいることに感謝します。このキャンプに来て、いかに家族がかけがえのないものであるか身にしみて分かりました。家族なしの人生など考えられません。わたしがここで感じた気持ちを分かっていたいただければと思います。開拓者の生活を体験できたことで目が開かれ、新しいたくさんを知ることができて感謝しています。

あなたのアメリカの友人
ユキ・アン・バリッシュより」□

手車を引く開拓者にふんしたアシュリーステークの「家族」たち。左端がユキ・アン・バリッシュ姉妹。写真/デニス・グライズ兄弟の厚意により掲載。



専任宣教師

2001年6月(260期生)22人, 海外3人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット



いとう じゅん
伊藤 盾
仙台伝道部
東京北ステーキ
豊島ワード



おおはし かおる
大橋 薫
東京南伝道部
札幌ステーキ
苫小牧支部



おきた あきひろ
荻田 晃宏
仙台伝道部
高松地方部
丸亀支部



ごとう かおり
後藤 香織
福岡伝道部
名古屋ステーキ
岐阜第2ワード



さかい ちよこ
坂井 千代子
仙台伝道部
名古屋ステーキ
犬山ワード



いずみ じゅんたろう けいこ
佐藤 眞太郎・啓子
福岡伝道部
岡崎ステーキ野並支部



しの よしあき
志野 義昭
福岡伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



しまい まこと
島袋 真
東京北伝道部
大阪北ステーキ
川西第2ワード



すずき よしや
鈴木 義也
福岡伝道部
大阪堺ステーキ
河内長野ワード



すずき りか
鈴木 利佳
札幌伝道部
三重地方部
四日市支部



せお なおみ
瀬尾 直美
福岡伝道部
大阪堺ステーキ
堺ワード



たなか けいこ
田中 敬子
東京南伝道部
岡崎ステーキ
野並支部



とざきのりこ
戸崎 徳子
札幌伝道部
名古屋ステーキ
春日井ワード



にしむら かおり
西村 香織
福岡伝道部
三重地方部
津支部



のざきて お
野崎 天生
仙台伝道部
金沢ステーキ
富山ワード



はまだま あし
浜田 麻由
札幌伝道部
横浜ステーキ
川崎ワード



はらだ みほ
原田 美保
広島伝道部
東京南ステーキ
渋谷ワード



まつしげ しほ
松重 忍
札幌伝道部
松山地方部
松山支部



もりた しずえ
森田 しずえ
札幌伝道部
横浜南ステーキ
上大岡ワード



ありま ともみ
数 友美
東京南伝道部
福知山地方部
舞鶴支部



やまなか つばさ
山中 翼
札幌伝道部
高崎ステーキ
熊谷ワード



くまがい ともはる
熊谷 智治
ハワイホノルル伝道部
東京西ステーキ
八王子第1ワード



しぶや さとる
渋谷 諭
カリフォルニア
サンフランシスコ伝道部
東京北ステーキ
豊島ワード



にしむら まこと
西銘 真一
ニューヨーク
ニューヨーク南伝道部
BYU第1ステーキ
BYUアジア第3ワード

役員の変動

2001年5月15日から2001年7月12日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動 (敬称略)

- 御坊地方部新宮支部
支部長: 青山 光国
- 福知山地方部舞鶴支部
支部長: 澤田 佐一郎
- 広島伝道部福知山地方部
第一副部長: 竹内 正明
- 仙台伝道部盛岡地方部
第一副部長: 吉田 孝
- 盛岡地方部宮古支部
支部長: 林 広海
- 宇都宮地方部三和支部
支部長: 竹入 賢二
- 宇都宮地方部古河支部
支部長: 高久 雅嗣
- 宇都宮地方部小山支部
支部長: 松沼 久雄
- 我孫子ステーキ松戸ワード
監督: 折戸 篤
- 東京北ステーキ豊島ワード
監督: 渋谷 信居
- 広島ステーキ浜田支部
支部長: 平野 謙二
- 東京北ステーキ川越ワード
監督: 仲山 浩幸
- 広島伝道部高松地方部
地方部長: 福田 光剛
第一副部長: 大賀 健司
第二副部長: 稲井 稷二
- 我孫子ステーキ水戸ワード
監督: 大畠 邦博
- 東京北ステーキ中野ワード
監督: 山口 俊哉
- 名古屋伝道部三重地方部
地方部長: 山川 正喬
第一副部長: 樋口 茂治
第二副部長: 藤田 芳夫

皆さんの情報をご提供ください

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻
布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト
教会『リアホナ』編集室
TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275
電子メール Liahona-jp@ldschurch.org
◎国際機関誌『リアホナ』のお届け,
その他商品に関するお問い合わせは—
教会配送センター
TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

家庭の夕べを通じて家族を強める

「家庭の夕べを行ってください。」
ゴードン・B・シンクレイ大管
長はこう述べています。「わ
たしは〔家庭の夕べが始められた〕当時
のことをよく覚えています。わたしが5
歳のときのことでした。父がこう言いま
した。『〔ジョセフ・F・〕スミス大管長か
ら、家庭の夕べを開くように言われた
よ。』そして、わたしたちは家庭の夕べ
を行いました。最初は簡単ではありません
でした。子どもたちは決して行儀よく
していたわけではありません。声を立て
て笑ったり、ふざけたりすることが多か
ったように思います。でも、とにかく実
行しました。その成果が今、わたし自身
の家族や孫たちの家族、ひ孫たちの家
族の中に見られます。この家族一致の
原則には、それが真理であることを確
信させてくれるものがあります。』（「生
ける預言者の言葉」『リアホナ』1999年4月
号、18）

効果的な家庭の夕べ

家庭の夕べは家族の中に愛と一致を
はぐくんでくれます。御霊みたまを招き入れ、
家族の一人一人があかし証を強め、誘惑に立
ち向かえるよう助けてくれます。大部分
の家族にとって、月曜日の夜は家庭の
夕べを行うのに最も良い時です。月曜
の夜は、教会の集会や活動は行われ
ないので、家族が集まってとも

に福音の原則を学び実践し、強め合う
ことができます。

家庭の夕べでは、家族の祈り、福音
の勉強、賛美歌や初等協会の歌、そし
て家族の活動を行うとよいでしょう。レ
ッソンの教材は、聖典や『福音の原則』
（アイテム番号31110 300）『家庭の夕べ
アイデア集』（アイテム番号31106 300）、
教会の機関誌（『リアホナ』本号、48ペ
ージ参照）など、いろいろな教会の資料
から見つけることができます。家庭の夕
べの活動としては、家族会議を開く、
聖文を読む、レクリエーション活動を楽
しむ、奉仕活動を計画し実行する、家
族でタレントショーをする、特別なリフ
レッシュメントを楽しむ、などが挙げら
れます。

「家庭の夕べは子どもたちに福音を教
える特別な機会となります。」元七十人
定員会会員のマーリン・R・リバート長老
は続けてこう述べています。「5歳の子を
持つある両親は、邪悪なラバンと会った
ときのニーファイの行動についてどう教
えたらいいか悩んでいました。……

わたしの孫であるこの男の子はその
夜、ベッドの傍らにひざまずいて祈りま
した。その祈りから彼が

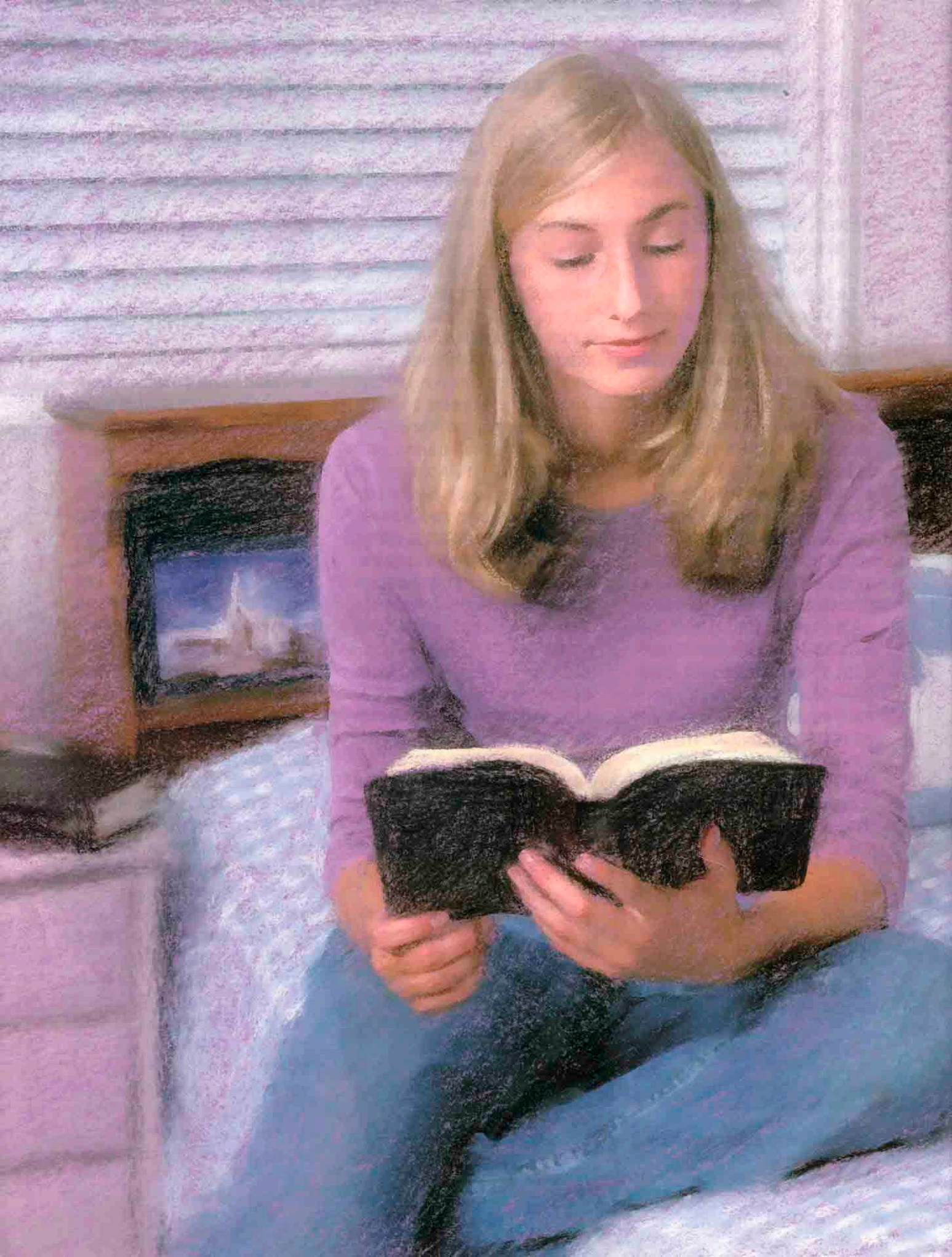
レッスンを理解したことと、自分なりに
その原則を取り入れようとしていること
が分かります。こう祈ったのです。『天
のお父様、難しいときでもニーファイの
ように従順になれるように助けてくださ
い。』（「子どもたち——特別な存在」『リ
アホナ』1994年7月号、34）

すべての人々を祝福する

わたしたちは、置かれている環境が
どのようなものであれ、家庭の夕べに
参加することにより祝福を得ます。スベ
ンサー・W・キンボール大管長（1895－
1985年）と当時の副管長は次のように明
言しています。「家庭の夕べはすべての
人のためのものです。家庭の夕べは、
両親と子どもたちのいる家族、ひとり親
の家族、家庭に子どものいない夫婦の
ためのものです。また、独身成人による
家庭の夕べのグループや独り暮らし
の人、ルームメイトと一緒に暮らしてい
る人のためのものです。」（*Family Home
Evening* [1976年]3）

これまで90年近くもの間、預言者た
ちは家庭の夕べを行うように勧告してき
ました。今日、預言者たちは毎週家庭
の夕べを行うことによって家族を強める
ように熱心に勧めています。わたしたち
は彼らの勧告に従うとき、祝福されて、
それが確かに靈感を受けた勧告である
ことを知ることでしよう。□





自らの 戦いに勝つ

わたしは霊の戦いに負けようとしていました。戦っているということすら理解して
いなかったのです。そんなとき、わたしによろいしてくれた人がいました。

高校2年生のときに、わたしは生活の目標を見失い始めていました。教会には、自分が行きたいからではなく、ただ両親を安心させるために行きました。その年の終わりごろには、学校やアルバイト先で、そして特に家庭の中で、何もかもがうまくいなくなっていました。

ある日のこと、わたしは姉の家を訪ねました。その当時、姉の夫であるゲリーは監督会に入っていました。わたしは自分の生活でうまくいっていない事柄について、洗いざらい二人に話し始めました。根気よくわたしの話に耳を傾けた後で、ゲリーは毎日30分モルモン書を読んでみてはどうかと提案してくれました。それまで、あらゆることを試したものの何の変化もなかったもので、試してみることにしました。ゲリーは、もしまるまる1か月間、毎日30分モルモン書を読もうと真剣に努力したら、物事は良い方向に動き出すよ、と約束してくれました。

早速その夜から、わたしはモルモン書を読み始めました。わたしの人生でそれほど長く感じられた30分はありませんでした。その翌日はいつもと変わらぬただの一日でした。取り立てて素晴らしいこともひどいことも起こりませんでした。

変化には時間がかかるものです。翌

週はなかなか大変でした。あと30分寝ていたと思いましたが、モルモン書は読み続けました。やがて、少しなりとも、以前より状況が改善されてきているのに気づき始めました。

そんなとき、最初は気づかなかったものの、いまだかつて受けたことのないような大きな祝福を受けることになりました。夏の間、わたしはアルバイトでアイルランドに行くことになりました。出発の時点で、モルモン書を読み出してからすでに2週間が経過していました。そこで、わたしはアイルランドでもモルモン書のチャレンジを中止せず、毎日読み続けることにしました。

わたしの生活は劇的な変化を遂げ始めました。以前は嫌いだっただのが大好きになり始めたのです。アイルランドにある教会の小さな支部に行くのが楽しみになりました。人生をもっと積極的^{あかし}に考えることができるようになり、証が急に強くなり始めました。

ある日の日記にこう書いています。
「今日は最高にいい日だった。朝起きて、10時30分に教会に行った。今日は支部大会だった。今まで出席した中で最も霊的な集会だった。以前にあれほど強く御霊を感じたことはなかったと思う。このゴルウェーの会員ほど友好的で、寛容で、立派な人々に出会ったことがない。彼らはわたしに力を与えてくれる。

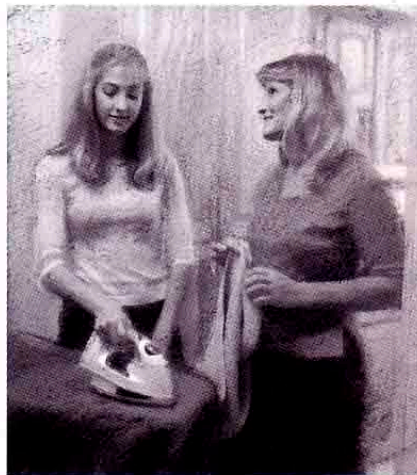
わたしの人生は何もかもが
うまくいなくなっていました。
そんなときに、義理の兄が
1日30分モルモン書を
読んでみてはどうかと
提案してくれました。やがて、
少しなりとも、以前より状況が
改善されてきているのに
気づき始めました。



トリシャ・スワンソン・デートン

よく味わう ことによって 報いを得る

十使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は次のように教えています。「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、永遠の命を受けるでしょう(2ニーファイ31:20)。「よく味わう」とは、単に味をみるのではなく、味を楽しむことを表します。そのためには、楽しく発見して誠実に従う精神をもって聖文を研究することです。キリストの言葉をよく味わうときに、それらは「人の心の板に書かれ」ます(2コリント3:3)。そして、わたしたちの人格に必要な部分になるのです。」「(聖文の導きに従って生活する)」「リアホナ」2001年1月号, 21)



姉はわたしの霊を救うために戦いが行われており、わたし自身しかこの戦いに勝てる人はいないと説明してくれました。

ほんとうにしっかりと福音に根ざした生活を送っている。そんな彼らの模範から多くのことを学ぶことができる。今日わたしは初めて福音が正しく真実であることに対して、絶対的な確信を得ることができた。」

モルモン書を読むことはもはや退屈な仕事ではなくなりました。毎日心待ちにするようになってきたのです。

アイルランドでの滞在期間はやがて終わり、帰国しなければなりません。自分の家族と、長くつきあってきた友人たちに顔を合わせるの大きなチャレンジになるだろうと感じていました。

しかし、いざ家に帰ってみると、思ったほど大変ではありませんでした。母とは多くの点で一致できましたし、心から愛せるようになっていました。数多くの問題でわくちャのシャツのようになっていたわたしの家庭生活にアイロンがかり始めました。友達との関係にも同じ変化が起こりました。古くからの友人も何人かとはつきあいをやめ、別のグループの女の子たちとつきあい始めました。この変化はつらかったものの、たくさんの援助も受けました。わたしの人生は180度変化を遂げたのです。

この変化の全過程を通して、聖文と姉が助け手となってくれました。姉は厳しい状況にあるときにはいつでもそれと察知して、励ましの手紙を書いてくれ

ました。姉は、わたしが自らの生活にもたらした変化を思い起こし、続けて正しい道を前進し続けるよう励ましを与える羅針盤をくれました。

数か月がたち、モルモン書を読む時間を作るのが難しくなるにつれて、聖文の学習時間がだんだん短くなっていきました。そんなとき、自分の羅針盤が正しく機能しなくなってしまっていることに気づきました。

姉がこのようなメモを書いてくれました。「あのね、トリッシュ(訳注:トリシャの愛称)、あなたは自分の霊を救うために大きな戦いをしているのよ。毎日行われる戦いの前線であなたと一緒にいてあげたい、あなたの益となるようにこの戦いについて話してあげたいのはやまやまだけど、昨晚分かったの。あなた自身しかあなたの戦いに勝利を得られる人はいないわ。あなた自身しか毎日モルモン書を読んであなたの武具を身にまとうことのできる人はいないのよ。」もう一度わたしは聖文に立ち返り、時間を増やして30分読むようにしました。そうすると、再び物事が好転しました。

わたしは日々わたしたちの霊の救いのために壮絶な戦いが繰り広げられていることを知っています。サタンはわたしたちを打ち負かしたいと願っていますが、わたしたちには対抗するための道具が与えられています。わたしは自分自身の経験から、モルモン書を読むことによって正しい方向に進み続けることができるということを知っています。わたしは自分がモルモン書に助けられたということを知っています。わたしは聖文の持つ力、聖文がわたしたち一人一人のためにできることすべてについて証があります。皆さんもこのチャレンジを受け入れ、自分自身で見いだしてください。□

トリシャ・スワンソン・デートンはブリガムヤング大学第18ステーク、BYU第200ワードの会員です。

聖文研究に対する 末日の預言者たちの言葉



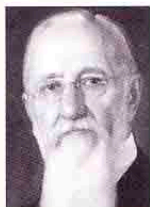
ジョセフ・スミス (1805-1844年), 初代大管長

「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」(モルモン書, xii)



ブリガム・ヤング (1801-1877年), 第2代大管長

「わたしたちは聖書を確かな目的地を指し示す……手引き……と考えています。これは真実の教義であって、わたしたちはこれを大胆に主張するものです。その教えに従って、その戒めによって導かれるなら、皆さんは自分が見られているように見、イエス・キリストと言葉を交わすようになることでしょう。また天使の訪れを受け、夢を見、示現と啓示を受けて、自分で神を理解し、知るようになるでしょう。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』134)



ジョセフ・F・スミス (1838-1918年), 第6代大管長

「わたしは民の中であまりにも多くの人々が、神にかかわる事柄よりも人気作家が書いた本をよく読んでいるのを目にしています。彼らはイエス・キリストの福音の真髄について何も分かっていません。彼らは神権の儀式と、地上における神の王国を支えるために

人の子らに神から啓示された管理の原則について、何も知らないか、あるいは理解していません。彼らは聖書やモルモン書、教義と聖約よりも、小説に関する知識の方が深いのです。それもはるかに深いのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』45)



スペンサー・W・キンボール (1895-1985年), 第12代大管長

「わたしは自分が神と密接な関係になくなったと感じるとき、また自分の祈りが神の耳に達せず、神の声が聞こえないように思われるとき、自分が神からはるか遠く離れていることを知る。そのようなとき、一生懸命に聖文を読むとその距離は縮まり、霊性が回復してくる。わたしは、自分の心と意思と力のすべてを尽くして愛する必要がある人々をさらに強く愛するようになる。聖文を愛すれば愛するほど、その勧告に従うことが易しくなる。」(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編[1982年], 135)



ゴードン・B・ヒンクレー (1910年-), 第15代大管長

「[モルモン書は]主の神聖さを宣言するため世に出て行くよう、ちりの中からの、クモラの丘からの声として出現しました。……モルモン書は靈感と、目を見張る力をもたらしています。モルモン書は単なる普通の書物以上のものです。よく祈って注意深く読む人々の心に感動を与えてくれる書物です。」(『靈感を伝える言葉』『リアホナ』2000年8月号, 5)

先祖の信仰と従順、感謝、犠牲はすべてわたしたちが次の世代に引き継ぐことのできる^{たまもの}賜物です。

信仰と決意の いかり 錨

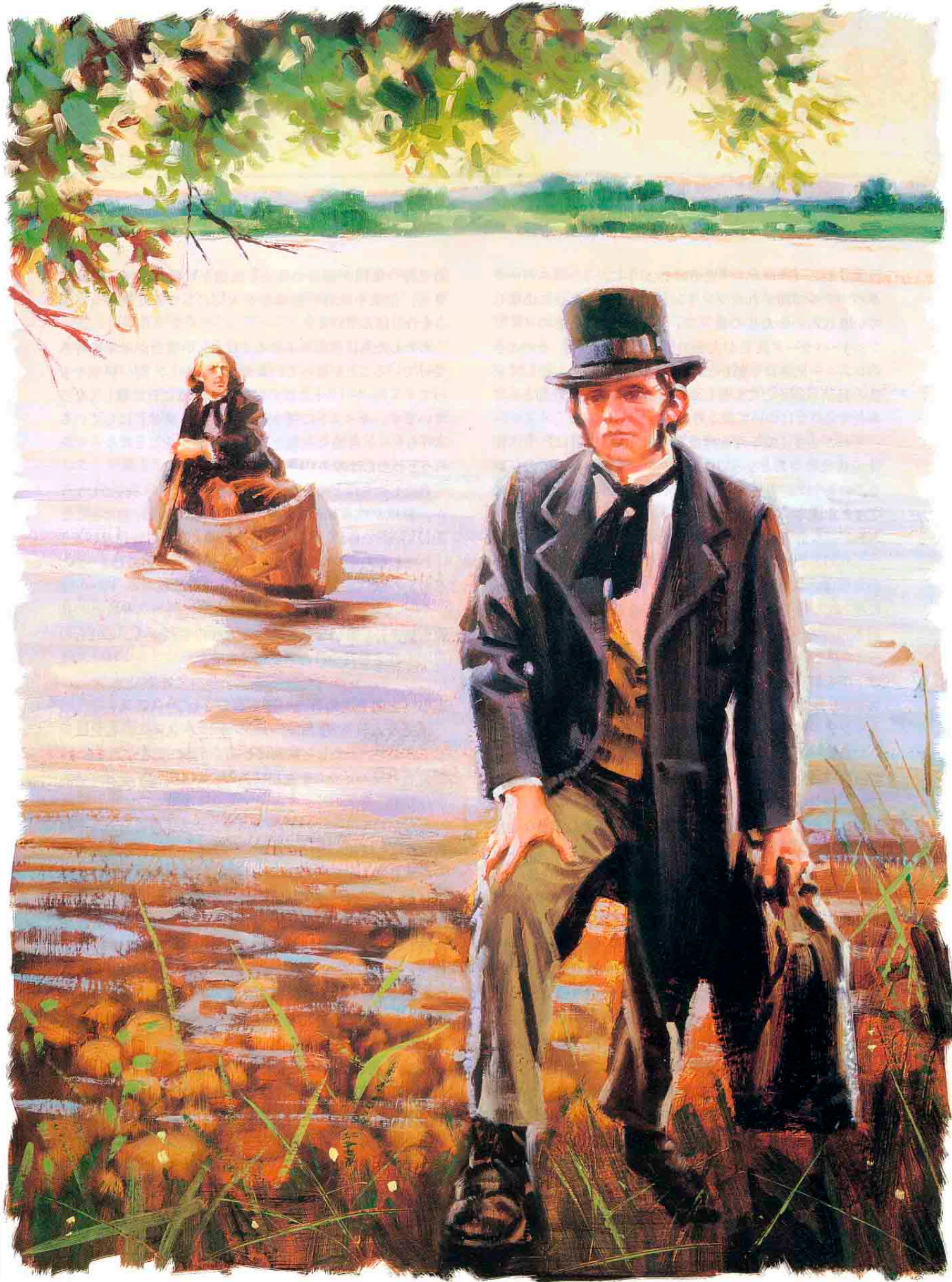
十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード



1844年4月、ノーブーで数千
ヨセフ・スミスは神の特質と計

人の人々を前にした預言者ジ
画について最初から正しく理

解することの大切さについて語りました。預言者はこのように述べています。「出
発点が正しければ、いつも正しいことを行うのは簡単です。しかし、出発点から
間違っていると、悪に染まりやすくなります。そうってから、正しい道に引き
返すのは難しいのです。」(*History of the Church*, 第6巻, 303)わたしたちは自
分や家族、神の王国の行く末について思い巡らすときに、神がわたしたちのため
に計画しておられることを十分に理解したうえで考えているでしょうか。





マリオン・G・ロムニー兄弟は1920年に、レックスパーグタバナクルで開かれたフレモントステーキの大会に出席していました。わたしの祖父で、十二使徒定員会のメルビン・J・バラード長老が大会の管理役員でした。そのときのロムニー兄弟は年齢が23歳になっていたこと、そして家族の経済状態がとても苦しかったので、専任宣教師として奉仕することについて深く考えていませんでした。

それから多くの年月を経た1963年10月15日に、十二使徒定員会の会員となっていたロムニー長老はかつての経験をこのように説明しています。「わたしは卒業したら、秋にアイダホ大学へ入る計画でした。バスケットボール部とフットボール部に入って、ゆくゆくはコーチになる準備をするつもりでした。8月の末にステーキ大会が開かれました。わたしは、説教壇の北側にある合唱団席の東端の最前列に座っていました。[バラード長老]をじっと見ながら話に聞き入っていました。そのときでした。どうしても伝道に行くのだという御霊の力を感じました。そのときにわたしはコーチを職業とする計画を捨てました。そして11月にオーストラリアに向けて伝道に出発したのです。」(リックスカレッジデイポーショナルにおける講話、1963年10月15日)

ロムニー長老はオーストラリアに向かう途中で、ソルトレーク・シティーに立ち寄り、わたしの祖父から宣教師として任命を受けました。祖父はロムニー長老に勧告を与えて、特に、このように言いました。「何かを主に差し出さなければ、それ以上のものを主から頂くことはできないのですよ。」(F・バートン・ハワード、*Marion G. Romney: His Life and Faith* [1988年]66で引用)マリオン・G・ロムニーはこの言葉をしっかりと心に刻みつけました。

主がわたしたちに成し遂げるよう求めておられる業を理解しようとするときに、幾つかの国の現状を考えます。かつては、ある仕事に就いていれば退職するまでずっとやっていたというのが当然のこのように考えられていました。しかし、現在の世の中では転職や挫折が例外的な出来事ではなく、むしろ日常茶飯事のように起きています。世界経済が成長し、科学や技術革新が非常に勢いで展開されているかと思えば、一方では、テロ行為が頻発し、暴力行為や犯罪が横行し、少数民族による憎しみが国家全体を崩壊させるという現実を目にしています。社会的に

力を持つ集団が福音の教える価値を攻撃し、家族を破壊させ、企業や政府の指導者が大切にしてきた原則や高潔さをむしばんでいます。

わたしたちは感動あふれるすばらしい機会が未来に待ち受けていることを疑っていません。しかし、固い決意をもってイエス・キリストに従い続けるのが日に日に難しくなっています。キリストに従う人々は将来、現在目にしているよりもっと過酷な逆境と迫害を経験することになるであろうとわたしは考えています。

わたしたちはどのような道を歩もうとしているのでしょうか。暴風が吹き荒れるときにわたしたちの羅針盤はどこを指しているのでしょうか。永遠の命に導く道から外れないようにわたしたちをつなぎ止めてくれる錨は一体何でしょうか。

わたしは、預言者ジョセフ・スミスと母親のルーシー・マック・スミス、さらには末日聖徒イエス・キリスト教会の基礎を雄々しく築いたそのほかの男女の生涯から、これらの質問の答えを見つけたいと思います。

進むべき道を決める——預言者ジョセフ・スミス

忠実な末日聖徒はこぞってジョセフ・スミスの名を敬愛しています。わたしと家族にとっては特に愛着があります。預言者の兄ハイラムを先祖に持つという祝福を受けているからです。

わたしたちは1805年のクリスマスの2日前に当たるその日にしばしば思いをはせます。バーモント州の丘陵地帯にたたくむ貧しい家で預言者ジョセフ・スミスがその日に誕生しました。ジョセフの誕生から195年以上が過ぎました。毎年6月27日を迎えるとわたしたちはカーセージの監獄で殉教したジョセフとハイラムをしのびます。わたしたちは、将来、試練に直面するとき、イエス・キリストの回復された教会をもたらすために筆舌に尽くし難い困難と敵対を受けて、なおひるむことのなかったジョセフ・スミスを片時も忘れてはなりません。

1834年にシオンの陣営が出発の準備をしていたころ、預言者が長老たちに語ったときの様子をウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう伝えています。わたしは彼の経験を読むのが好きです。「日曜の夜に預言者ジョセフ・スミスは、神権者全員にその丸太造りの小さな塾に集まるように言っ



た。そのおよそ14フィート〔約4.2メートル〕四方の狭い場所に、当時カートランドにいた末日聖徒イエス・キリスト教会の全神権者がそろった。彼らはシオンの陣営に加わるために集まっていたのである。わたしはそこで初めてオリバー・カウドリを見た。また彼が話すのを聞いた。ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、そして二人のプラット、オーソン・ハイド、その他多くの人々に会った。当時、使徒はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリだけだった。わたしたちが集まると、預言者はイスラエルの長老たちに、自分とともに御業について証を述べるようにと言った。わたしが名前を挙げた人々と、そのほか名前を挙げていない大勢の人々が証を述べた。証が終わると預言者はこう語った。『兄弟たちよ、今夜あなたがたの証に強められ、教えられることが多々あった。しかし、今主の御前で、あなたがたは母のひざにいる赤子ほどもこの教会と神の王国の行く末を知ってはいないと申し上げたい。あなたがたは十分に把握していない。』わたしはこの言葉に驚いた。預言者は続いてこう述べた。『今夜、あなたがたが見ている神権者はほんの一握りの数ではないが、この教会は南北アメリカを満たし、全世界を満たすであろう。』(Conference Report, 1898年4月, 57で引用)

信仰箇条が初めて世に出されたのは、ジョセフ・スミスがシカゴの新聞社の編集者であるジョン・ウェントワース氏に書き送った手紙でした。1842年3月1日の日付のあるウェントワース書簡の中で、ジョセフ・スミスは教会の行く末に関する展望を深遠な意味を含んだ預言として記しています。「真理の標準は確立された。いかなる汚れた者の手も、この御業の発展をとどめることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、

あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられることであろう。』(History of the Church, 第4巻, 540)

1830年に教会が設立されてから170年が過ぎました。わたしたちは、この預言を成就する出来事を170年以上にわたって見てきたわけです。迫害と敵対にさらされながらも神の真理は国々に伝えられてきました。迫害は威を振るい、

暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れました。

教会はわずか6人の会員をもって最初の10年を歩き始めました。「汚れた者の手」はあらゆる手段を尽くして福音の広がるのを阻止し、教会を大きくならないうちにつぶそうとしました。ジョセフ・スミスは間もなく、暴徒がどのようにして連合するのかを知りました。

教会の歴史書には次のように記されています。「オハイオ州ハイラムの一部住民は預言者とシドニー・リグドンに向けられた暴力的行為に同調していた。1832年3月24日の夜、士気を高めるためにウイスキーをおり、顔を黒く塗って隠した二十数

人の集団はベッドで寝ていたジョセフを引きずり出した。首を絞められて抵抗できなくなったジョセフは裸にされ、体中をつめでひっかかれ、髪をむしり取られた後、体にタールと鳥の羽根を塗りつけられた。口に押しつけられた硝酸入りの薬瓶が歯に当たって流れ出して顔にかかり、さらに前歯がへし折られた。その間、暴徒のほかのメンバーはリグドン家に押し入り、シドニーのかかとをつかんで家から引きずり出し、凍った地面に頭をたたきつけた。シドニーはこのため、それから数日間意識がもうろうとしていた。預言者は翌日の日曜日に説教を行う予定だったため、その夜は友人たちが一晩がかりで預言者の体に付いたタールと鳥の羽根をはがした。預言者は翌日、暴徒の首謀者サイモンズ・ライダーが紛れ込んだ会衆の前に説教を行った。』

**わたしたちは感動あふれる
すばらしい機会が未来に
待ち受けていることを疑っていません。
しかし、固い決意をもって
イエス・キリストに従い続けるのが
日に日に難しくなっています。
キリストに従う人々は将来、
現在目にしているよりもっと過酷な
逆境と迫害を経験することになるで
あろうとわたしは考えています。**



(ジェームズ・B・アレン、グレン・M・レナード共著、*The Story of the Latter-day Saints* [1976年] 71)

ライダーは改宗者でしたが、預言者ジョセフが彼の名前のつづりを間違えたため、つづりを間違えるような人が預言者であるはずがないと考えて、教会を去った人物でした。

後年、ミズーリの聖徒たちは敵の軍隊が連合する有様を、悲しみを込めて目の当たりにすることになります。1838年にミズーリ州知事リルバーン・W・ボグズは悪名高い

たちは生き長らえるのです。立派な兵士のように、わたしたちは全能者の名によって、最後まで^{かんなん}艱難に耐える決心をしています。](*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選[1976年] 139)

大義に献身する決意を固める——教会の初期の宣教師たち

真理の旗を掲げるための努力に対してことごとく反対する動きが厳しさを増していたにもかかわらず、1830年代に



教会の初期の会員たちがあらゆる反対に遮られながらも成功を収めたのは、揺るぎない信仰をもって口を開き、真理を宣言したからであり、^{みたま}主の御霊の力ある剣を手にしていたためであることをわたしたちは学ぶ必要があります。

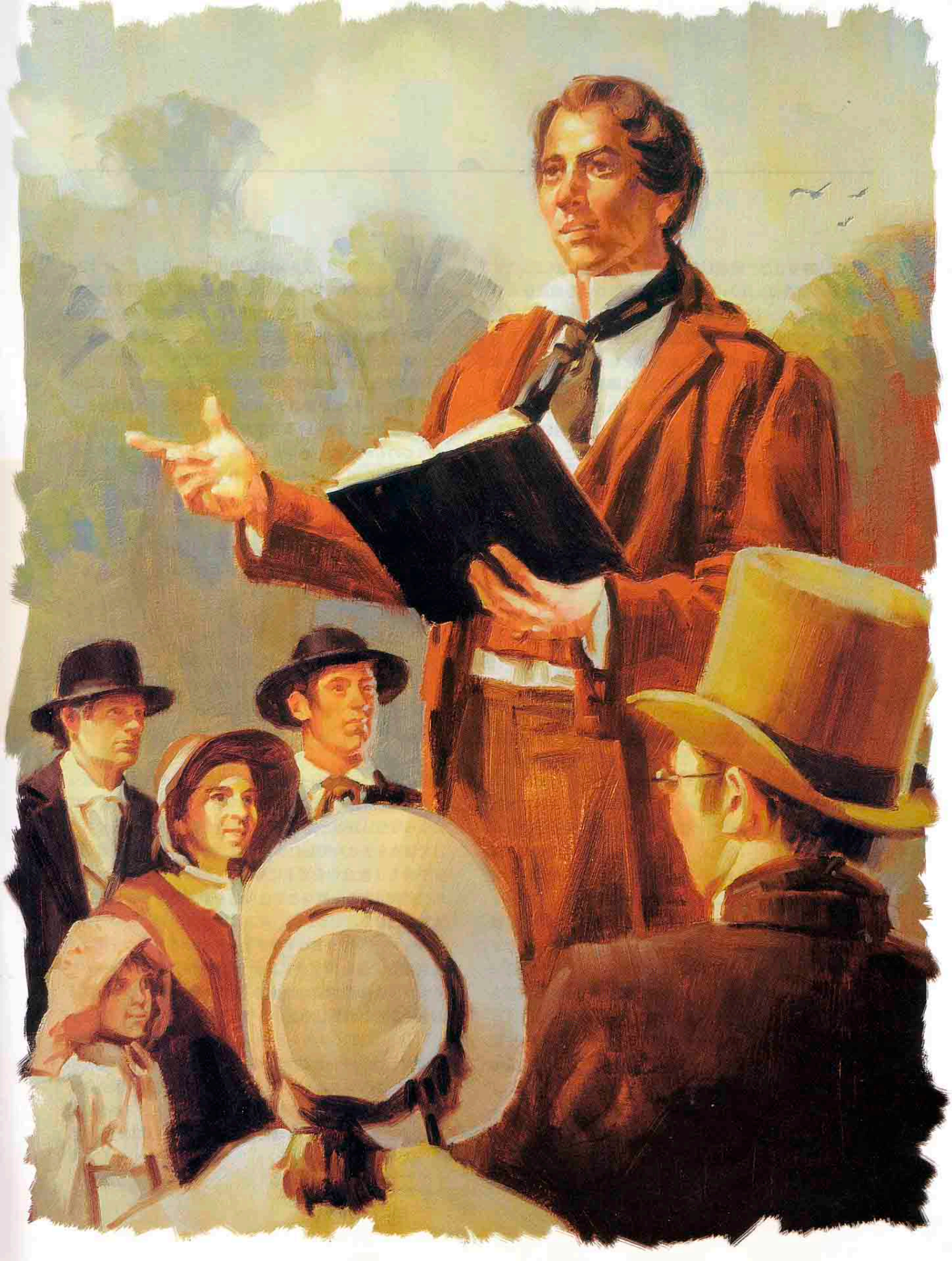
「撲滅令」を發しました(*History of the Church*, 第3巻, 175参照)。ハウズミルの恐ろしい物語は歴史書に記録されています(*History of the Church*, 第3巻, 182-187参照)。

これらの試練の中でジョセフはこのように語りました。「地獄はベスピオ山や、エトナ山や、最も活発な活火山の燃え盛る溶岩のようにその怒りを噴き上げるかもしれませんが。それでも、『モルモニズム』は存在し続けます。水も、火も、真理も、神もすべてが現実です。真理は『モルモニズム』です。神はその創始者であられます。神はわたしたちの盾です。わたしたちが誕生を得るのは神のおかげです。時が満ち始める神の福音の神権時代にわたしたちが召されたのは、神の声によるものです。わたしたちにモルモン書を与えてくださったのは、神です。また、わたしたちが今日まで生き長らえているのは、神のおかげです。また、わたしたちの栄光のためであっても、神のおかげでわたし

は597人の宣教師が任命され、最初の10年間に2万人近くの改宗者が回復された教会に加わりました。当時の合衆国のほとんどの州に宣教師が派遣されて、人々に教え、バプテスマを施していました。またカナダとイギリスでも福音が宣べ伝えられるようになりました。福音のメッセージは2大陸を貫いて、これら3か国の全域で伝道活動が展開されていたのです。

ロレンゾ・スノーは初期の時代の偉大な宣教師でした。1837年に最初の伝道に召されたとき、彼は教会に入って1年もたっていませんでした。福音を宣べ伝える初めての経験についてロレンゾ・スノーはこのように述べています。

「30マイル[約48キロ]ほどの距離を歩いたところに、太陽が沈み始めました。そこで、初めて『モルモン』の長老として、その夜の宿を請いました。しかし、断られました。次に別の家を訪れては断られ、8軒目でようやく泊めてもらえる家を見つけました。夕食にありつけないままベッドに





もぐり込みました。翌朝は朝食抜きで、出発しました。

最初の集会は、オハイオ州メディナ郡の中心地に住んでいたわたしのおじ、ゴダード家の近くで開かれました。人々に通知が回されたため、集まった会衆はかなりの数に上りました。聴衆を前にして説教者として話すことはかなり勇気の要ることでしたが、わたしは御霊の導きによって何を話すべきかを促され、また与えられると信じていましたし、その確信もありました。……[そのとおりになりました。というのは]おじとおばそれに数人のいどこにバプテスマを施し、教会員として確認したからです。』(エライザ・R・スノー・スミス, *Biography and Family Record of Lorenzo Snow* [1884年] 16で引用)

兄弟姉妹、教会の初期の会員たちがあらゆる反対を受けながらも成功を取めたのは、揺るぎない信仰をもって口を開き、真理を宣言したからであり、主の御霊の力ある剣を手にしていたためであることをわたしたちは学ぶ必要があります(教義と聖約27:16-18参照)。彼らは「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になる」というバプテスマの聖約を忘れませんでした(モーサヤ18:9)。

1839年に十二使徒定員会の何人かの兄弟たちは非常に厳しい状況の中を、伝道するためイギリスに旅立ちました。

「最初に出発したのはウィルフォード・ウッドラフとジョン・テラーでした。ウィルフォードはモントローズで何日も寒寒と熱に悩まされていました。彼の幼い娘のサラ・エマもかなり重症だったため、より良い状態で看護ができる友人たちのもとに預けられていました。8月8日彼は[妻の]フィービに別れを告げ、ミシシッピの河岸へ歩いて行きました。ブリガム・ヤングがカヌーで向こう岸まで送ってくれました。ジョセフ・スミスが郵便局の傍らで休んでいるウィルフォードに出会ったとき、ウィルフォードは自分がまるで死んだ人で、解剖されて、検査を受けに行くような気持ちであり、見た目にもそうだと預言者に言いました。……

ウッドラフ長老とテラー長老はその月いっぱい旅を続けて、ようやくインディアナ州ジャーマンタウンに着きました。……

二人がジャーマンタウンに着いたころ、今度はジョン・テラーが病に倒れ、旅を続けることができなくなりました。

……

彼は何度か死線をさまよいながら約3週間、病床に就いていました。しかし、相変わらず、楽天的でした。[1839年]9月19日付けで[妻の]レオノラにあてた愛情のこもった手紙にそれが表れています。

『どのような旅を続けているのだろうかと思っていることでしょう。……よく分かりませんが、ただ一つだけ分かっていることは、溪谷のゆりを飾り、からすにえさを与え、すべてのものが添えて与えられることをわたしに理解させてくださった御方が確かにおられるということです。わたしはこれを知るだけで十分です。主はわたしを病床に置かれました。わたしはそれを甘んじて受けました。主はわたしを病床から再び立たせてくださいました。わたしはそれを感謝しています。主は旅の途中でわたしを止められました。わたしはそれに満足しています。……もし、主がわたしを取り上げられるなら、それを甘んじて受けたいと思います。主がわたしの命を助けてくださるなら、それはもっとよいことです。』(ジェームズ・B・アレン、ロナルド・K・エスプリン、デビッド・J・ホイッタカー共著, *Men with a Mission, 1837-1841: The Quorum of the Twelve Apostles in the British Isles* [1992年] 67-70)

信仰の錨——ヘンリー・バラード

これら初期の時代に、主イエス・キリストを信じる信仰によってしっかりと錨を下ろしていたのは主の使徒たちだけではありませんでした。回復された福音について確かな証を持ち、教会の行く末についてビジョンを持っていたために、同じような献身と奉仕の道を歩んだ男女がほかにも大勢いました。

ジョン・テラーとウィルフォード・ウッドラフがイギリスに到着してから10年後に、わたしの曾祖父ヘンリー・バラードは一人の信仰篤い会員から末日聖徒イエス・キリスト教会を紹介されました。

「[1849年に]ヘンリーが教会に加わったとき、彼はまだ17歳でした。……1849年の冬にヘンリーはロンドン北部の……町ロンドンニューズへ行行って、すでに家庭を持っていた兄ジョージのもとで暮らすことにしました。ジョージはその地域で運送事業に成功し、手広く経営していました。



兄はヘンリーに、特に金銭で買えるものは何でも与えることができました。ジョージはどのようなときにもヘンリーに深い思いやりを示していました。11歳年上の兄として、弟を守り、幸福になるように見守る必要を感じていました。以下の話には、そのことがよく表れています。

それは日曜日の夕べのことでした。ヘンリーが教会から戻ると、彼がどこへ行っていたかに興味を持ったジョージはそれを尋ねました。『教会ですよ』とヘンリーは答えまし

した。しかしヘンリーは揺らぐことも疑うこともなく自分の確信を貫きました。真実の教会であることを聖霊から告げられていたからです。彼はあえてそれを否定するようなことはできませんでした。理屈でなく、確信を得たヘンリーの心を変えることはできませんでした。このためジョージは別の方法を取ることにしました。

サタンがキリストに対して行ったように、ジョージはヘンリーを誘惑しました。言葉を換えれば、試しました。ロ

回 復された福音について確かな証を持ち、教会の行く末についてビジョンを持っていたために、同じような献身と奉仕の道を歩んだ男女がほかにも大勢いました。



た。教会でヘンリーの姿を見かけなかったジョージは『どこの教会へ行ったの』と尋ねました。『モルモン教会です』とヘンリーは正直に言いました。驚き、動転したジョージは言葉を荒らげて、一体全体なぜ『忌まわしい』モルモン教会などへ行くのかと尋ねました。『教会の会員だからですよ』とヘンリーは答えました。そして、唯一まことの教会であると信じており、それが真実であると証しました。ジョージはそれを聞き入れず、怒りを募らせました。

ジョージはヘンリーを厳しく叱責し、人生最大の間違いを犯したと言いました。ヘンリーは自分の気持ちを変えようとしましたが、兄がどのような行動に出るかを恐れていました。

ジョージは何の進展も見られないことを知ると、牧師の支援を求めることにしました。彼らはヘンリーの翻意を促すために3日間にわたって説得を試みましたが、ヘンリーを何とかして救おうと、彼らは代わる代わる祈りをささげま

ンドン中で最高級の馬車を与えようと言いました。御者がついていて、どこでも行きたい所へ行けるのです。高級な衣服を身につけ、柔らかい手袋をはめ、シルクハットをかぶった紳士になれるのです。

ヘンリーはいただけられるジョージの立派な家をどうして捨てられるでしょうか。自分から望まないかぎり、働く必要はないのです。事業の一部が自分のものになるのです。両親が生涯送ってきたような貧しい生活に戻ることはないのです。これらすべてを失うだけの価値を持つ宗教などあるはずがありません。ジョージはモルモンの『愚かな教え』を捨てるようヘンリーに求めました。

〔預言者〕ジョセフ・スミスと同じように、ヘンリーは信仰を守り通しました。彼の証と人格の強さが勝利を収めました。

ジョージは烈火のごとく怒りました。ヘンリーを永久に家から追放したのです。親切で物惜しみしない、愛する兄



のことで失望し、痛む心を引きずりながらヘンリーは去りました。ヘンリーはこの世で二度と兄に会うことはありませんでした。」(ダグラス・O・クルークストーン編, *Henry Ballard: The Story of a Courageous Pioneer, 1832-1908* [1994年] 4-6)

3年後、まったく何の財産もなく赤貧の状態に陥っていたヘンリー・バラードはリバプールからニューオーリンズへ向かう63日間の船旅に就きました。ニューオーリンズから船で川を北上して、ネブラスカ州オマハのウィンタークォーターズへ行き、そして、全行程を徒歩でユタへ向かいました。彼は旅費を捻出するために羊の群れを追いながら大平原を横断しました。後にヘンリーはソルトレーク盆地に着いたときの様子をこのように語りました。「10月に羊を追いかけながら小さな山を下り、エミグレーションキャニオンの入り口に達したとき、初めてソルトレーク盆地を見ました。『約束の地』を目にして喜びをかみしめている間に、だれかに見られるのではないかと心配になりました。わたしは木陰に身を隠すと辺りが暗くなるまで一日中そこにいました。体を十分に包み隠し切れないほど服がぼろぼろになっていたからでした。とても恥ずかしくて人前に出られませんでした。暗くなると、わたしは野原を横切って、盆地の入り口に近い、明かりのついている家まで行き、恐る恐るドアをノックしました。幸いにも男性が出てくれました。それにろうそくの光のために家族のほかの人たちから姿を見られずに済みました。わたしは旅を続けて両親を探し出すために、裸を覆う衣類を恵んでくれるように頼みました。こうして何枚かの衣類を与えられて、翌日は旅を続けることができました。そして1852年10月16日にソルトレーク・シディーにたどり着きました。自分の故郷となる地に無事に着けたことを心から神に感謝しました。」(*Henry Ballard*, 14-15で引用)

ちなみに、ヘンリーがローガン神殿で代理として執行した最初のエンダウメントは兄のジョージのものであったことが記録から明らかになっています。

神に信頼を寄せて前進する——ルーシー・マック・スミス

預言者ジョセフの母ルーシー・マック・スミスは揺るぎない信仰と決意について偉大な模範を示した人でした。ある

とき、彼女はニューヨークからオハイオ州カートランドへ向かって旅をしていました。自らつづったニューヨーク州バッファローでの出来事には主の預言者と回復された福音に対する彼女の信仰が描写されています。

「[バッファローで]コールズビルから来た兄弟たちに出会いました。[氷に閉ざされた水路が]開くのを1週間も待っているとのことでした。また、スミス氏とハイラムは4月初めまでにカートランドに着かなければならなかったため、

預言者ジョセフの母ルーシー・マック・スミスは

揺るぎない信仰と決意について

偉大な模範を示した人でした。

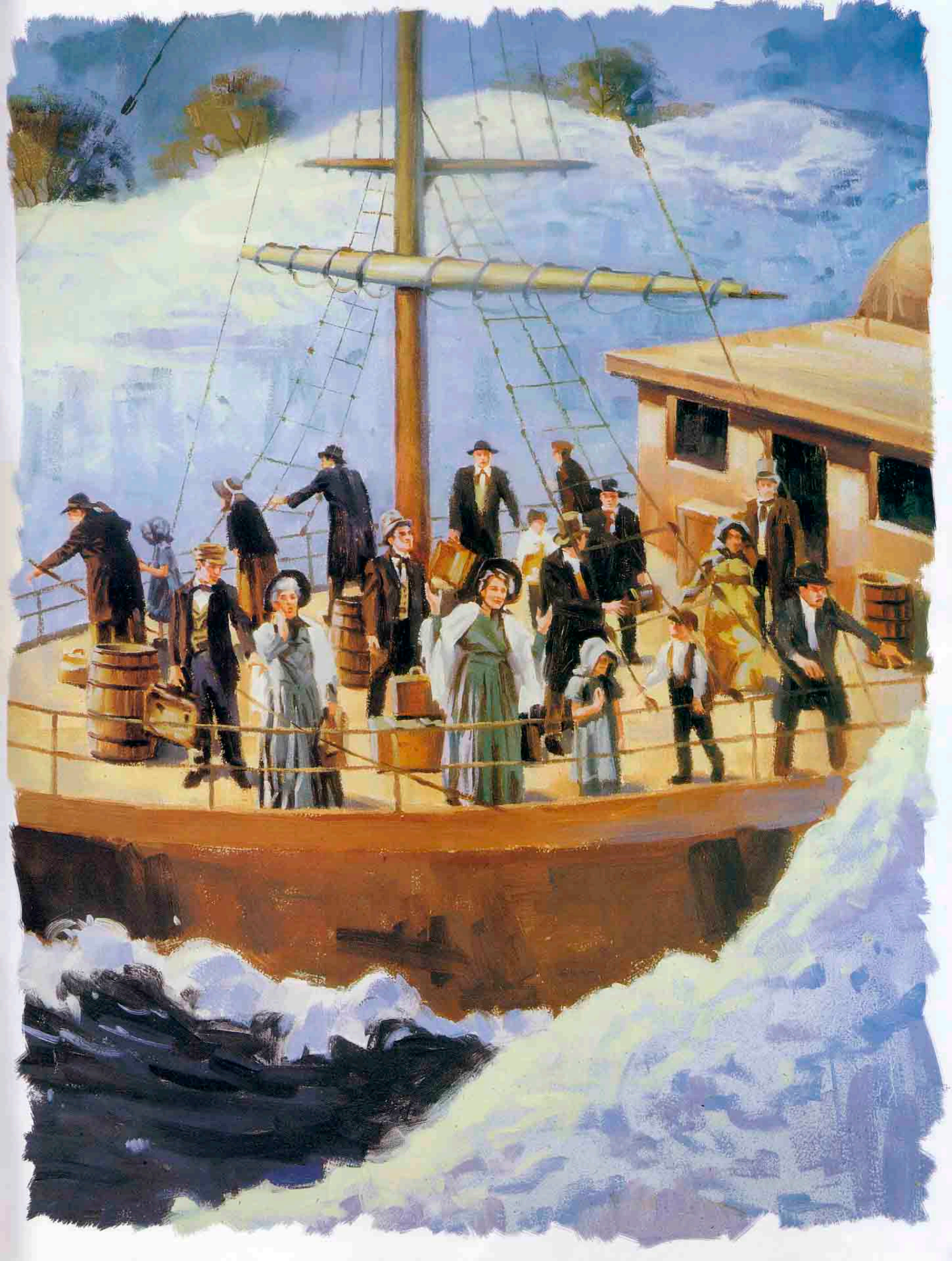
今日、わたしたちは同じような揺るぎない信仰を持つ姉妹たちを必要としています。

陸路を行ったことを[知らされました。]

わたしは[コールズビルの兄弟たちに]、モルモンであることを人々に告げたかと尋ねました。すると彼らはこう答えました。『話していません。宗教について一言も口にしてはなりませんよ。口にしたら最後、泊まる所もなくなるし、船にも乗れなくなりますよ。』

わたしは自分が何者かを包み隠さず言うべきであり、『それに、もしキリストを恥とするなら、祝福が来ませんよ。あなたたちよりわたしの方が先にカートランドに着いてしまおうでしょう』と彼らに言いました。」(ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith*, プレストン・ニブレー編 [1958年]199)

ルーシー・マック・スミスはそれからブレイク船長を探しに出て行くと、船長を見つけました。彼はルーシーの一行を喜んで船に乗せてくれました。「そこで[船に]乗ると、ブレイク船長は乗客に船の中で待つように言いました。出発できる兆候が見えたらすぐに出帆するためでした。船長は同時に氷の厚みを調べるために人を行かせました。その





人は帰って来ると、氷が積み重なって、20フィート〔約6メートル〕にまで達しており、少なくとも2週間は船着き場で待たなければならないと思うと言いました。』(History of Joseph Smith, 202)

ルーシー・マック・スミスとともに旅をしていたほとんどの人は長い間そこで足止めを強いられると思い、不平や不満を言い始めました。人々のそうした声を聞き、様子を見ていた預言者の母親はこう言いました。『あなたがたの信仰はどこへ行ってしまったのですか。神に寄せていた信頼はどうしたのですか。あらゆるものは神によって造られ、神は御自身の手になる業を支配しておられることを知らないのですか。ここにいる聖徒全員が心を込めて神に祈りをささげれば、道が開かれることでしょう。神にとっては氷を砕くことなどたやすいことです。その瞬間に船を出せばいいのです。……

兄弟姉妹、氷が砕かれて、旅を続けられるように祈るならば、主が生きておられるように確かに、そうなるでしょう。』その瞬間、雷が落ちたような音が聞こえました。船長が叫びました。『乗組員は全員、自分の持ち場に就け。』氷が分かれて、かろうじて船が通れる水路ができました。……氷が砕ける音や見物人の叫び声と混乱によってすさまじいばかりの光景が展開されました。わたしたちがやっとの思いで通り抜けたときに、氷は再び水路を閉ざし始めました。コールズビルの兄弟たちはわたしたちに続いて来ることができずにバッファローに取り残されました。

港を出ようとするときに、見物人の一人が叫びました。『あれは「モルモン」の一行だ。あの船は普段より9インチ〔約23センチ〕も沈んでいる。きっと沈むぞ。絶対に沈む。』実際、必ず沈むと考えた見物人たちは、事務所へ走って行き、わたしたちの船が沈没したことを発表しました。このため、フェアポートに到着したわたしたちは、自分たちの死亡記事が載っている新聞を見たのです。

バッファローの埠頭^{ふとう}を奇跡的に脱出したわたしたちは、全員が集まって、祈り会を開きました。そして神の憐れみに感謝をささげました。』(History of Joseph Smith, 203-205)

今日^{こんにち}、わたしたちは預言者ジョセフ・スミスの母親と同じように揺るぎない信仰を持つ姉妹たちを必要としています。

確かな未来を目指して——信仰の遺産を次代に引き継ぐ

歴史をひもといて初期の教会員が示した揺るぎない証を紹介してきたのには、理由があります。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることがどれほど大きな祝福であるかをわたしたちは常に覚えておかなければならないからです。地上における唯一まことの教会を確立するために先駆者たちが進んで支払ってくれた代償を軽々しく扱ってはならないし、忘れてもならないのです。

わたしたちは福音を必要とする世界に生きています。永遠の救いを得るには、揺るぎない証を持ち、地上に神の王国を確立するために喜んで奉仕する生活を生涯続ける必要があります。

わたしたちは末日聖徒として主の教会を強めるために有意義な貢献をしていることをどのようにして確認したらよいのでしょうか。わたしたちの証と奉仕が、教会の基礎を築いた人々に匹敵するものであれば、確実に、力ある未来が約束されます。わたしたちが先駆者たちの模範から勇気を得て、永遠の父なる神に仕えるときに、それぞれの管理の職に対して常に信頼の置ける者となり、確固とした態度で臨めますように。預言者ジョセフ・スミスが語った次の言葉を忘れないでください。「出発点が正しければ、いつも正しいことを行うのは簡単です。』(Teachings, 343)わたしたちはこの信仰の伝統を大切にし、子どもたちにこの遺産を引き継ぐことによって、教会が常に忠実な男女であふれるようにするとともに、主イエス・キリストの再臨への準備を続けていかなければならないのです。□

地上における唯一まことの教会を

確立するために先駆者たちが
進んで支払ってくれた代償を
軽々しく扱ってはならないし、
忘れてもなりません。

大変! どうしよう?

過ちや失敗は
だれにでもあります。
可能なら元どおりにし、
必要なら謝り、楽しい毎日を送りましょう。





神の大義, 神の王国

執り成しの祈りの中で、イエス・キリストは御父に呼びかけ、弟子に教えてきたすべてのことを要約されました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ17:3)

♥ わたしたちはイエスを通し御父を知るようになり、わたしたちに教えるよう御父から遣わされた人々を受け入れることにより、御父のもとに行くことができます。イエスはそう教えられました。そのために主は地上の神の王国である御自身の教会を確立されました。この王国で与えられ、受けることができる助けにより、聖徒たちは高められ、完全な者となります。♥ ゴードン・B・ヒンクレー

大管長は次のように証して^{あかし}います。「これは神の大義であり、神の王国です。これはこの末の日に回復された神の業であって、……福音に比肩できるようなものは世界のどこにもありません。……これは御父の教会であり、王国です。これを信じ、その教えを受け入れ、勧告に従順であってください。神の王国で働き、王国を前進させるためにあなたの力と勢力と財力をささげてください。すると主はあなたを祝福され、かつて味わったことのないような喜びを生活の

中に与えてくださるでしょう。」(本誌8ページ参照) ♥ 以下の話で示されるように、この王国に入り、神の子どもたちを愛し、仕えることによって、王に忠実に仕える人には大きな喜びがもたらされます。



生ける水を求めて ビクター・マヌエル・カブレラ

子どもだったとき、わたしは聖書を読むよう教えられたことが一度もありませんでした。日曜日には教会へ行きましたが、何もささげず、その代わり何か感じることもありませんでした。自分の宗教に幻滅していました。両親が礼拝していた「サンテシモ」という金属の物体について、わたしは母と真剣に議論したことを覚えています。両親はわたしにもサンテシモを拝むよう期待していましたが、わたしにはできませんでした。それに代わるさらに良いも

のを探し求め、神を見だしたいと思っていました。神が存在するのか知りたかったです。神と神の言葉について知りたいと心から願っていました。しかし求めているものを見いだすことはできませんでした。

その渇きがいやされるように感じた瞬間はありました。最初の子どもである娘を初めて腕に抱いたとき、神は実在すると感じました。何年も後、下の娘が生まれたときも同じ気持ちを感じまし

た。一度わたしはいとこに、どういう方法でかは分からないが、自分は神から真の権能を授かった祭司になると心の奥で感じる、と話したことがあります。いとこはわたしには面倒を見なければならぬ家族があるので、それは無理だろうと言いました。

しかし、普段は自分の心には何かが

その若い男性二人は頭から足までずぶぬれになっていました。わたしはタクシーのドアを開け、「どうぞ乗ってください、モンテレーまで行きますよ」と呼びかけました。

欠けていると感じていました。わたしは霊的に渇いており、その渇きをいやす場所を見いだすことができませんでした。

1994年4月、わたしはメキシコのモンテレー市に住んでいて、タクシーの運転手として生計を立てていました。ある日、山の斜面に滝ができるほど雨が何時間も降りました。その雨の中を何時間も運転したわたしは、モンテレーから約8キロ離れた小さな町にいることに気づきました。夜9時半ごろになっていて、家に帰る時間でした。突然、二人の若い男性が歩いているのが見えました。二人とも黒っぽい色のズボンと白いシャツを着ていて、頭から足まですぶぬれになっていました。

わたしはタクシーのドアを開け、「どうぞ乗ってください、モンテレーまで行きますよ」と呼びました。

色がとても白く、背が高い方が、「お金がないんですが」と答えました。

「お代は要りません」とわたしは返事をしました。

運転しながら、わたしたちは話をしました。二人がイエス・キリストについての話をしてもいいか尋ねてきたので同意し、住所を教えました。

わたしは家に帰ると妻を起こし、二人の若い男性の話をしました。「何で偶然だろう」とわたしは言いました。「一方はメキシコ人でもう一方はアメリカ人なんだけど、二人ともエルダー（訳注：日本語で長老を表す）という名前なんだよ。」

「エルダーは宣教師って意味よ」と教会についてほんの少し知っていた妻が答えました。

わたしは心の奥底が強く動かされるように感じました。あの二人の男性はわたしの心を強く感化しました。わたしの渇きをいやしてくれる水をもう少しで見つけられるのではないかと感じました。

宣教師たちが我が家を訪れると、わたしは喜んで二人の話を聞きました。わたしは2週間後にバプテスマを受けました。妻は4か月後にバプテスマを受けました。長女は学校で宗教教育を受けていましたが、初めて末日聖徒の教会に行ったとき、「パパ、学校で習っていることよりこっちの方がずっとためになるよ」と大きな声で言いました。長女もバプテスマを受けました。

1995年12月、わたしたちはメキシコ・メキシコシティ神殿でこの世と永遠にわたり、家族の結び固めを受けました。現在は家族で一致、平安、幸福を味わっています。わたしたちはどなたを礼拝すればいいのかわっています。自分たちがどこから来て、どこへ行くのかわっています。わたしたちは神の神聖な言葉、特にモルモン書を愛しており、神の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会を愛しています。このような恵みにより、わたしたちは救い主がサマリヤの女性に話された、生ける水の井戸を見いだしたのです。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」（ヨハネ4：14）

ビクター・マニュエル・カブレラはメキシコ・モンテレー・ロマステーク、ミラドルワドの会員です。

できるかぎり奉仕する

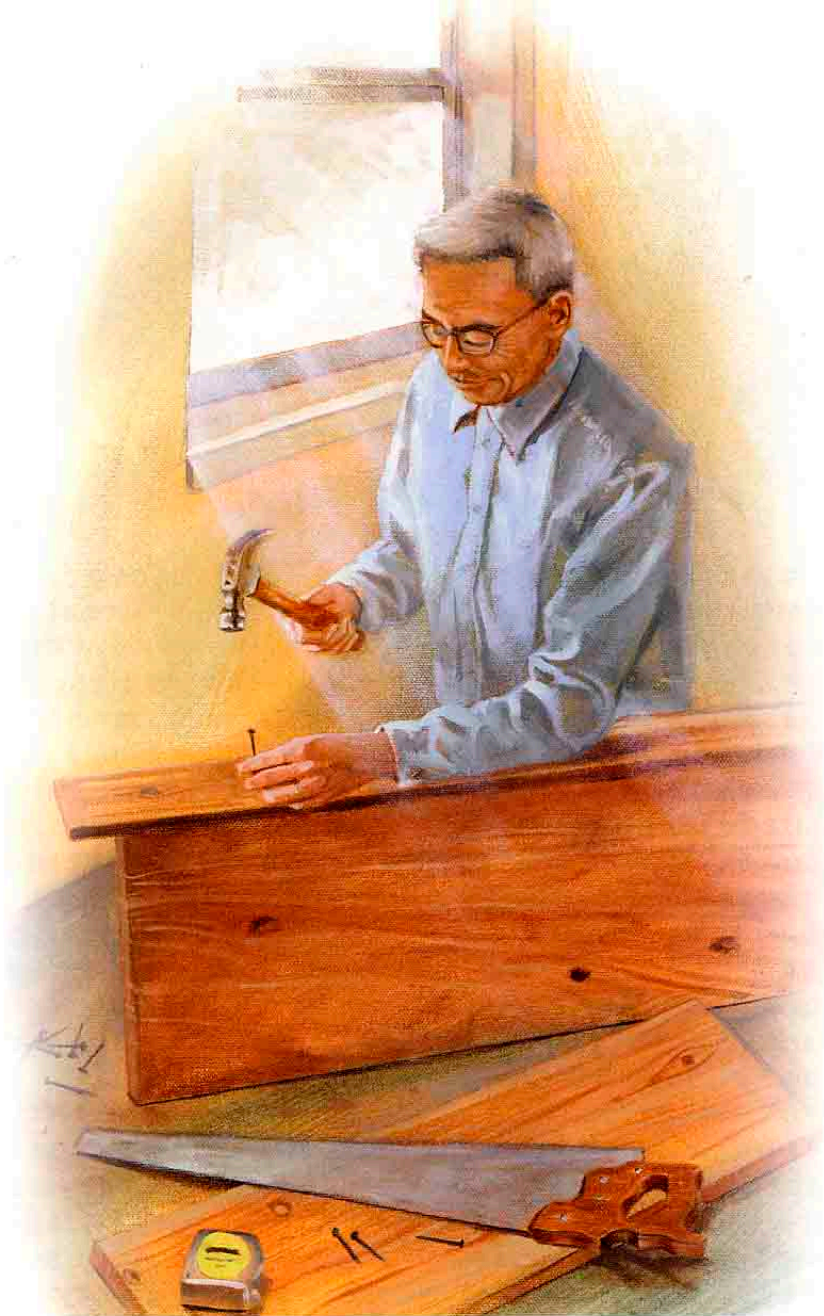
ファン シンリン
黄 錫華

わたしは1974年12月14日に台湾の士林でバプテスマを受けました。わたしは70歳で、屋外のバプテスマフォントの水は凍りそうだったにもかかわらず、温かさしか感じませんでした。

バプテスマと確認の儀式を受けた後、支部長がわたしに神権を授け、会員を訪問するよう依頼しました。そのころ支部には会員が100人いましたが、教会に集まっているのはわずか20人程度でした。わたしは毎月忠実に会員を訪問し、教会の出席者は間もなく80人を越すまでにになりました。

出席者が増えたことは非常に良かったのですが、問題が生じました。わたしたちは中正通りチュンチュンの外れにある小さな建物に集っており、出席を望む人全員が入れるほどの場所がありませんでした。そのため、わたしたちは中山北通り沿いの大きな建物に移りました。建物は大きくなったのですが、十分な数のいすがなく、当時は教会から正規の経路で物資を得ることも困難でした。ある会員が100脚のいすを購入してわたしたちの礼拝堂に寄付してくれたときは、ほんとうに祝福されていると感じました。その人はピアノも買って、わたしたちが建物で見つけた古くてぼろぼろのオルガンと取り替えてくれました。

けれどもまだ一つ問題が残っていました。説教壇がなかったのです。どのようにして入手できるか祈っていると、地元の小学校に使えるような材木があることを知りました。わたしは何日もかけてその



わたしは何日も説教壇を作ることのできる大工を探しましたが、見つかりませんでした。そしてついにわたしは自分で作ることにしました。

とも知っています。時には奇跡すら起こるのです。

黄 錫華は台湾台北東ステーク北投ワードの会員です。

わたしの涙が止まった日

エリアナ・マリベル・ゴールデン・アグイレ

わたしは若いときから人の役に立ち、人を助け、イエスの教会に近くありたいと思っていましたが、どうすればいいのかわかりませんでした。年齢を重ねるにつれ、その望みは強くなり、わたしは自分の宗教を通じて神に仕える方法を模索し始めました。

間もなくわたしはエクアドルのリオバンバにある寄宿学校に行き、修道院の院長と知り合いました。わたしたちは親しくなり、結局わたしはこの院長の影響を受けて修道女になることにしました。わたしは最初の誓いを立て、見習い修道女になりました。

それから6年の間、わたしは毎日神についてもっとよく知ることができるよう、天父に祈りました。どういうわけか、わたしは教えられたように聖母マリアなどわたしの代わりに神に祈ってくれる人に祈るよりも、自分で直接神に祈った方が、心が安まるように思いました。神を知るようになれば自分自身について

材木で説教壇を作ることのできる大工を探しましたが、見つかりませんでした。そしてある土曜日、ついにわたしは自分で説教壇を作ることにしました。これほど重いものを今まで運んだことはなく、一日で完成するとは決して思えませんでした。神が助けてくださいました。翌日の集会には説教壇の用意ができていました。教会員は全員驚きましたが、いちばん驚いたのはわたし自身でした。わたしには奇跡に思えました。

教会に入ってからというもの、わたしは何らかの方法で奉仕をせずに日を過ごしたことは一度もありません。そのた

め、わたしの生活は喜び、達成感、霊的な豊かさで祝福されています。教会に入る前は、体が弱かったのですが、今は年を取ってきているにもかかわらず、強く、健康になった気がします。よく台湾台北神殿で奉仕することもできます。神が与えてくださる祝福、特にモルモン書に感謝しています。モルモン書にはほんとうに美しい言葉が数多く記されています。モルモン書を学ぶと、わたしたちの霊は強められ、現代の困難なチャレンジに対処する助けを得ることができます。また、どんな召しでも神に仕えれば多くの祝福が与えられるこ

も知ることができると分かっていました。また、もっとキリストのような視点で他人を見ることができ、キリストが望まれるように人々に仕えることができるとも思いました。わたしは熱心に祈りましたが、説明がつかないようなむなしさを感じました。そのむなしさがあまりにひどかったので、わたしは修道院を辞めることにしました。

ある日司教が訪問した際、わたしは修道院を去るという自分の決断について話しました。司教はその決定について深く考え、祈るように言いました。わたしは祈り、自分の決断は正しいとさらに強く感じました。1年以内に行われる盛式誓願の後に去るのは、もっと困難になると分かっていました。司祭だけでなく、法王の許可も必要になるからです。

その次に司祭に会ったとき、わたしは自分の決断について話し、司祭は文書で退会の要請をするよう言いました。ついにわたしの手紙が司祭に届きました。司祭はわたしが要望を貫き通すとは思っていませんでした。驚きました。司祭がわたしの誓いの取り消しを認めると、わたしは修道院で学び、経験したすべての良いことに感謝しながら修道女たちに別れを告げ、平安のうちにそこを去りました。

わたしは、少なくとも心に平安は得られたと思っていました。ところが後になって、わたしは侮辱され、拒絶されたのです。わたしが修道院を辞めた理由について中傷的な憶測が広まりました。落胆し、自分は価値のない人間だという気持ちでいっぱいになったわたしは、困惑し、自分の命を絶つという最悪の選

択を取ろうと決めました。

1995年11月21日、わたしは通りを当てもなく歩き、頭の中では自殺のことがかり考え、^{ほお}頬には涙が流れていました。そのとき偶然教会の建物を見つけました。泣いているところを人に見られないように、また自分の苦しみを幾分でも和らげようと、わたしは建物の中に入りました。そこで掲示板を見つけました。わたしは親しみのある温かい救い主の絵を見つけて驚き、その絵に添えられた言葉がとても簡潔で分かりやすかったため、すぐに心を奪われました。それはわたしが探し求めていたキリストだったので。自分でも気づかないうちに、わたしは泣くのをやめていました。

その後間もなく親切な婦人が何かできることはないかと尋ねてきました。何と言ったらよいか分からず、わたしは「この教会では、何を行っているんですか」と口走りました。その婦人が説明を始めると、急に目から涙が出てきました。恥ずかしいと思いながらも、わたしはその婦人に、自分には友人が必要なのだと話しました。そのとき、婦人のご主人も加わり、わたしは二人に自分の悲しみの原因について話しました。すると彼らは、その答えをすべてお持ちの、友であるイエス・キリストを知っていると言い、イエス・キリストとわたしたちの天父の計画について学ぶようわたしに勧めました。わたしは迷わず同意しました。

わたしは10日間、この愛ある親切な夫婦宣教師と会いました。二人は決してわたしに圧力をかけることなく、ただ証をし、教えてくれました。また、二人

はわたしたちが受け取ることのできる最も素晴らしい贈り物の一つである『モルモン書、イエスキリストについてのもう一つの証』をくれました。わたしはモルモン書を読み、研究し、モロナイの約束を試しました(モロナイ10:3-5参照)。聖霊がモルモン書は神の言葉であるとわたしに証してくださいました。わたしがこれまで分からなかったことはこれで明らかになりました。主がどなたであられるか、どのように仕えればよいか分かりました。二人の姉妹宣教師が教会についてさらに教えてくれて、1995年12月3日、わたしはバプテスマを受けました。

福音の光を与えてくれた人すべてに感謝しています。愛を与え、関心を示し、家庭の温かさを伝えてくれた会員の皆さんに感謝しています。何よりもわたしの熱心な祈りにこたえてくださった天父に感謝しています。すべての答えを知ったわけではありませんが、今は探し求めるところを知っています。ニーファイの言葉が真実であることを知っています。「熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖霊の力によって、人々に明らかにされる。」(1ニーファイ10:19)

エリアナ・マリベル・ゴールデン・アグイレはエクアドル・キト・ラオフェリアステーク、ラオフェリアワードの会員です。

「この教会では、何を行っているのですか」とわたしは口走りました。親切な婦人が説明を始めると、わたしは恥ずかしいと思いながらも、自分には友が必要なのだとその婦人に話しました。



Venid a Cristo

Noche de Hogares a las 7

『リアホナ』2001年8月号 の活用法

話し合いのアイデア

■「主の山に登るべき者はだれか」2ページ——主の宮に参入する資格を持つ人々が得られる祝福について話し合います。それから、ジェームズ・E・ファウスト副管長が引用する次の質問をします。「主の山に登るべき者はだれか。」(詩篇24:3-4参照)

■「霊を養う」10ページ——ダリン・H・オクス長老の説明によれば、ある人々は研究と論証による方法だけに頼って福音を理解しようとしています。なぜ学問的な学び方は適切ではないのでしょうか。

■「信仰と決意の錨」30ページ——M・ラッセル・バラード長老は、曾祖父が教会を去るなら不自由な裕福な生活を与えるとされた出来事について語っています。バラード長老の曾祖父はその申し出を断り、逆にソルトレーク・シティーへの過酷な旅を選び、衣服もお金もない状態でたどり着きましたが、最後まで証に忠実でした。あなたは信仰を守るために何を捨てることができますか。主が求められても、犠牲にささげようと思わないものはありますか。

■「主は御自身の教会を導かれる」F10ページ——幼い子どもたちや教会に新しく改宗した人々の中には、預言者を一人しか知らない人がいます。主が教会の新しい預言者を選ばれるときに取られる方法と、その人がほんとうに主によって選ばれた預言者であることを知る方法について話し合います。



今月号に採り上げられている項目

証F10
安全F2
教える10
親の務め10
改宗6, 20, 42
家族関係2, F4
家庭の夕べ25, 48
家庭訪問25
逆境41, 42
教会歴史30
清さ2
才能F13
使徒F2
祝福師の祝福22
信仰10, 30
神殿と神殿活動2, 6
新約聖書ものがたりF6, F9
聖文研究26, 29
聖霊10
備え22
伝道活動42
奉仕42, F4
ホームティーチング5
模範30, F14
モルモン書20, 26
勇気F14
赦しF9
預言者8, 29, F2, F10
労働F4

青少年の体験談を募集しています

あなたは、イエス・キリストの福音についての証をどのように得ましたか。青少年であるあなたが考える、証を得るうえでの提案、また証にまつわる話、経験を書いて、**YOUTH ARTICLES**, *Liahona*, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA またはEメールで CUR-Liahona-IMag@ldschurch.org までお送りください。必ず氏名、住所、電話番号、所属ステーク/地方部、ワード/支部名を明記してください。



「主の預言者」デビッド・リンズリー画

「彼はその書を、すなわちわたしが彼に命じた部分を翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である。」(教義と聖約17:6)



預言者ジョセフ(表紙)とその母親ルーシー・マック・スミス(上)を含む初期の教会員は、堅固な信仰と決意をもって生涯を送った。彼らの生き方はわたしたちにとって手本となる。M・ラッセル・バラード長老は、次のように説明している。「わたしたちが先駆者たちの模範から勇気を得て、永遠の父なる神に仕えるときに、それぞれの管理の職に対して常に信頼の置ける者となり、^{いかり}確固とした態度で臨めますように。」(本誌「信仰と決意の錨」30ページ参照)